

ほノヴァ、スコチヤ并にニウ、フランスイックに於て産出するもの亦年々三百萬噸而して北西部地方に於ては尙ほ世界第一の一大坑區を有し、其廣袤六萬五千方哩にして殆ど大不利顛島と相均し。石炭の産額は現今を以て一八八三年に比すれば二倍となりたるも加拿陀に於ては尙ほ三百萬噸の輸入を外國に仰げり。金の産出地はフリチシコロムピヤ并にノヴァスコチヤにして其産額は三十年以前に在りては八十萬磅以上なりしも現今に及びては年々漸く四十萬磅に達するに過ぎず、即ち一八九五年中合金石英の破壊されたる高は殆ど二十萬噸にして之より採取したる金は十萬五千オンス恰も石英一噸に付き平均二磅の金を採取したる割合なるを以て之を露西亞人が西比利亞金礦の石英より採取する金の高に比すれば七倍の多きを得る勘定となるなり。

今一八九五年の鑛産額を以て一八八六年より八八八年に至る三箇年平均産額に比較せんに左の如きあり。

數量	價格、磅	
	自一八八六年 至一八八八年	自一八八六年 至一八八八年
一八九五年	一八八六年	一八九五年

石 炭、噸	二四一〇、〇〇〇	三五六〇、〇〇〇	一、〇六〇、〇〇〇	一、六四〇、〇〇〇
金、オンス	六六、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
銀、同	三五〇、〇〇〇	一七八〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇
ニッケル、封度	三五〇〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
石 油、樽	六六〇、〇〇〇	八五〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
鉛、噸	一〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
雜 類	一、一三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇
合 計	二、六〇〇、〇〇〇	四、七〇〇、〇〇〇

鑛業労働者の數は總て一萬五千人にして此中ノヴァ、スコチヤに於けるもの六千人フリチシ、コロムピヤに於けるもの五千人、加拿陀本部に於けるもの四千人なり。ノヴァ、スコチヤに於ける石炭坑夫一人前平均産額は一八九五年に在りては合衆國に於ける一八九三年の一人前平均産額四百四十八噸の割に對して四百四噸の割なり。

第六節 通商

第一款 貿易

加拿陀の外國貿易額は一八五一年以來四倍し來りて輸入額常に輸出額に超過せり即是れ此地の將に繁盛に赴かんとする徵候と謂ふ可し。

年	輸入、磅	輸出、磅	合計、磅
一八五一年	七六〇〇〇〇〇	五、二〇〇〇〇〇	一二八〇〇〇〇〇
一八九四年	三三、五〇〇〇〇〇	二四、五〇〇〇〇〇	四八、〇〇〇〇〇〇

今右外國貿易高を以て全人口に割當つるときはその一人前平均高は尙ほ甚た多からずして僅に十磅に過ぎざるも若し加拿陀に於ける保護税法の累を貿易に及ぼす無かつせば優に右の二倍となりたる可し。今一八九三年十二月に終る既往五箇年間の報告に基き其一箇年平均貿易の有様を示さんに左の如きあり。

大不利 類	百萬 磅		割合
	輸入	輸出	
大不利 類	九	二	四四・四
合 衆 國	一一	九	四四・四
其他 諸 國	四	一	一一・二
合 計	一五	一	一一・二

合 計……………二四 二二 四五 一〇〇・〇

此の如くば加拿陀の貿易關係は开が母國たる大不利類に於けると合衆國に於けるとは共に同様にして他の諸國に於けるは未だ見るに足るものあらず。

第一款 海運

加拿陀の海運力は頗る大にして歐洲に於ける幾多の諸王國に優るものあり即ち其船舶の運搬力を見るに無慮百五十萬噸に超え开が價格は七百萬磅に當たる。又其運搬力は過去半世紀に於て四倍したるものと知る可し即ち。

年	登録噸數		運搬力 噸數
	漁 船	帆 船	
一八四一年	五〇〇〇	三四五〇〇〇	三六五〇〇〇
一八九五年	二五〇〇〇〇	五八〇〇〇〇	一、五八〇、〇〇〇

第三款 内國貿易

内國貿易額は過去二十二年間に於て殆ど倍加したり、今之を左に示さんに。

百萬磅

六八六

農產物	三〇	五七
製造品	四六	九八
鑛產物	一	五
林業產物	一二	一七
漁業產物	二	四
輸入品	一六	二四
合計	一〇七	二〇五

一八七一年

一八九四年

一八九四年の内國貿易額は一人前平均合衆國に於ける四十四磅の割に對して四十磅となれり。

第四款 鐵道

此地に於て鐵道を開通したるは一八三六年セント、ロウレンス河上のラブレイリよりチャムプレイン湖附近のセント、ジョンズに至る十五哩の線路を始めとす。クエベックよりトロントに至る八百五十哩の大幹線の開

通したるは一八五六年中の事にして一八六七年英領加拿陀の建設ありたる當時に於ては既に二千二百六十哩の鐵道を有するに至れり。爾後加拿陀太平洋線并に其他の線路の敷設せらるゝもの一萬三千七百四十哩に及び其經費一億四千七百萬磅に當たる。現在の大幹線は二十四の鐵道線并に二十一の加拿陀太平洋線の合併したるものなり。一八九五年六月現在加拿陀の鐵道は延長一萬六千哩に及び、此經費無慮一億八千六百萬磅に當たり、此中一億四千四百萬磅は株主に仰ぎ、三千二百萬磅は加拿陀政府の支出に係り、一千萬磅は地方官廳の負擔したる所とす。而して國有鐵道は唯た内國殖民地鐵道一千三百五十哩のもののみ。今主要の鐵道に就き其延長哩程并に敷設費を示さんに左の如きあり。

	哩程	敷設費、磅	一哩平均敷設費、磅
加拿陀太平洋線	六、一七〇	六五、五〇〇、〇〇〇	一〇、七〇〇
大幹線	三、一六〇	六九、六〇〇、〇〇〇	二二、一〇〇
其他諸線	六、六七〇	五〇、九〇〇、〇〇〇	七、六〇〇
合計	一六、〇〇〇	一八六、〇〇〇、〇〇〇	一、一六〇

一八九五年に於ける總ての鐵道純益は二百九十一萬磅にして恰も敷設費の一步五厘に相當せり、然れ共今若し政府の保護あるものを除き單に株金より成れる一億四千四百萬磅に割當つるときは其純益は二歩以上の割合となる。一八九五年の運輸高は旅客一千四百萬人貨物二千二百萬噸なるが之を一八七五年の運輸高に比較するときは則ち其二十年間に在りて旅客に於て一倍と七割、貨物に於て二倍と九割を増加したるを知る可し。又其運輸資本中には二千二十臺の機關車ありて此馬力六十萬とす。今加拿陀線に於ける一哩平均營業高を以て合衆國線に比較せん左の如きあり。

	總收入、磅	營業費、磅	純益、磅	資本に對する純益割合
加拿陀線	六二〇	四二八	一八二	二五七
合衆國線	一二七〇	八六七	四〇三	三二二

加拿陀線に於ては其營業利益のみに徴すれば甚だ其資本に對して不相當の觀ありと雖も、之か敷設の結果として太平洋沿岸諸州と大西洋附近の諸州とを相連絡せしめ、以て來往者をして容易に北西部の一大曠原に來往するを得せしむるに至

りたるは其利洵に數へ難きなり。

第五款 内地航通

セント、ロウレンス并に内地の湖水航通線は延長二千七百哩に及び、而して加拿陀に於ける總ての航通河川并に運河の延長は都合三千三百五十哩にして之か爲に要したる經費は無慮一千二百萬磅となす。

第六款 銀行

銀行融通力は一八六八年に在りては一千五百萬磅なりし、一八九三年に至りては五千六百萬磅となれり。又紙幣流通高は七百萬磅なり。

第七節 利得并に富有

加拿陀人民の利得并に富有は概略左の如きあり。

利得	百萬磅	富有	百萬磅
農業	三四	土地	二三〇
製造業	四九	家畜	四七
林業	一七	諸道具其他	二八
漁業	四	鐵道	一八六

鑛業	五	船	七
通商	二〇	諸製造所	三三
運輸	二一	家屋	一一
家賃	七	家財	五六
僕婢	五	商品	一〇三
諸職業其他	二一	雜類	二〇一
合計	一八三	合計	一〇〇三

右に観るときは利得高は年々一人前平均三十六磅にして富有額は一人前平均百九十六磅に當たる之を合衆國に比較するに同國に於ては一人前平均四十四磅にして富有額は二百三十四磅の割と知る可し。
尙ほ加拿陀の各地方に就き其利得高を示せば左の如くなるべし。

一千磅單位

農業	製造業	通商其他	雜類	合計	一人前平均利得、磅
オントリオ	一九四〇〇	二四七〇〇	二〇、一〇〇	二二六〇〇	八六八〇〇
					四一

クエベック	五、八〇〇	一五、六〇〇	一〇、八〇〇	一六、二〇〇	四八、四〇〇	三三
アツカデア	三、一〇〇	五、六〇〇	六、〇〇〇	一三、六〇〇	二八、三〇〇	三三
北西部	五、七〇〇	三、一〇〇	四、一〇〇	六、六〇〇	一九、五〇〇	五四
合計	三、四〇〇〇	四九、〇〇〇	四二、〇〇〇	五九、〇〇〇	一八三、〇〇〇	三六

第一款 土地 既に人民の所有に歸したる土地を公有地に就き官廳の評價したる所に據れば一八八七年に於てはオントリオ地方に於ける分にて一億三千一百萬磅となれり、是れ全加拿陀に於ける土地の價格の六割を占めたるなり。一八六一年の往時に於ける評價にては加拿陀に於ける田圃の全價格は一億二百萬磅に上ほれり。今一八九一年に於ける田圃面積并に其價格を以て一八六一年の比較すれば左の如きあり。

	エーケル	價格磅	一エーケル平均價格磅
一八六一年	一三〇、六〇〇〇〇	一〇二、〇〇〇〇〇	七八
一八九一年	六〇五、〇〇〇〇〇	三三〇、〇〇〇〇〇	三八

一八九一年に於ける一エーケル平均價格は一八六一年のに比して五割方を減じ

たりと雖も、一八九一年に於けるはマニトバ并に北西部に於ける新田圃中其價格加拿陀本部に於けるより低廉のものを包括したるあるに考ふれば亦た怪しむべきなかる可し。今一八九〇年の統計に據り合衆國に於ける土地の平均價格を見るに南部に於ては一エーカーに付き四磅八中部に於ては十三磅一の割にして合衆國全軀の平均にては七磅七となれり、故に之を加拿陀の平均價格に比較すれば其高きと一倍と二歩となる勘定なり。

第二款 家屋 一八九三年の評定價格にては家屋の價格は二十年間に於て一倍と三割方の増加ありしを示せり即ち。

		百萬磅	
	オントリオ	クエベック	アツカディア
一八七三年	二二三	一五五	九六
一八九三年	五七六	三〇六	二二一
			北西部
			合計
			四八六

トロント并にモントリオールに於ける家屋の價格は恰も家屋全價格の半に當たり即ち。

百萬磅

	トロント	モントリオール	他の地方	合計
一八七三年	九五	一三一	二六〇	四八六
一八九三年	三三四	二二六	五六〇	一一二〇

トロントに於ける家屋價格の一人前平均高は倫敦に於ける百六十磅、巴黎に於ける二百十八磅に對して百八十磅の割なり。又た加拿陀全軀に於ける家屋諸製造包括價格一人前平均高は合衆國に於ける六十二磅に對して二十九磅の割と知るべし。

第三款 富有の配分 尙ほ加拿陀に於ける各地方に就き其富有配分の有様を示さば概略左の如くなるべし。

百萬磅

	オントリオ	クエベック	アツカディア	北西部	合計
田圃	一八〇	六七	三三	二六	三〇五
鐵道	七五	三六	二九	四六	一八六
					六九三

家屋并に諸製造所	七五	四一	一六	一三	一四五
家財	二九	二六	六	五	五六
商品	五一	二八	一三	一一	一〇三
雑類	一〇六	五〇	二五	二七	二〇八
合計	五二六	二三八	一一二	二二八	一〇〇三

加拿陀の富有額は白耳義と相均し。又たオンタリオ地方のみの富有額は直に瑞典の下丁抹瑞西及び葡萄牙の上在り。又た各地方に就きその利得高并に富有額一人前平均高を示せば左の如くなる可し。

オンタリオ	四一	二四四	アツカディア	三三	一三七
クエベック	三三	一五九	北西部	五四	三五五

利得、磅 富有、磅

利得、磅 富有、磅

加拿陀に在りても恰も合衆國に於けると一般人口稀疎たる西部地方に於ては其利得并に富有の割合は夫の舊開地方にして人口稠密の處に比すれば遙に多きを致せり。即ち夫の佛蘭西の來住民最も多きクエベック即ち下部加拿陀に於ける利得并に富有の割合は蘇格蘭人の新に來住せるオンタリオ即ち上部加拿陀に及ばざるあるを知るべきなり。

第八節 財政

第一款 歳計 一八六七年英領加拿陀建設の當時に在りては其歳入未だ三百萬磅に達せざりしも現今に於ては殆んど八百萬磅に及べり、今一八六八年并に一八九四年の豫算を比較せば左の如くなるべし。

歳入		歳出	
一八六八年	一八九四年	一八六八年	一八九四年
關稅	一、四〇〇	公債	一、〇〇〇
租稅其他	一、四〇〇	行政費	一、八〇〇
合計	二、八〇〇	合計	二、八〇〇

然れ共實際の歳出額は七百萬磅以下なり、是れ歳出全額中八十六萬磅は國庫か各地方に保護の名義を以て下附する所なるを以てなり、而して此高は一人前平均凡

そ四十片に當たるに但し保護金は各地方に非ず又た歳入租税より得る所は都合六百二十萬磅にして之に地方税百六十萬磅を加ふるときは合計七百八十萬磅となり、人民利得高の四歩五厘に當たるを以て此割合を以てすれば加拿陀の財政は幾多の邦國に比して頗る好況に在るものと謂つ可し。租税負擔高に至りては各地方一樣ならずしてアツカディアに於ては一人前平均二十八志、クエベックにては三十二志、オンタリオにてはクエベック同様マニトバにては三十志、ブリチシ、コロムビアにては五十七志とす、是れ一に各地方税に著しき相違あるが爲なり。

第二款 公債 一八六七年英領加拿陀建設當時に在りては公債地方債共に合して一千九百萬磅なりき。一八九四年七月に至りては加拿陀公債は六千四百萬磅にして此三千萬磅は鐵道一千二百萬磅は運河又た一千二百萬磅は其他の公共事業に費したるものとす。而して國有鐵道は唯だ内地殖民鐵道のみなるを以て之れが敷設費一千二百萬磅を差引くときは公債殘額は五千二百萬磅となる可し。然るに尙ほ別に二千五百二十萬磅の地方債あるを以て之を合算するとき公債全額は七千七百萬磅となり即ち國民富有額の七歩七厘五毛に當たり、恰も

合衆王國に於けると其割合を均くせり。

第二十章 濠洲

第一節 人口并に働力

第一款 人口

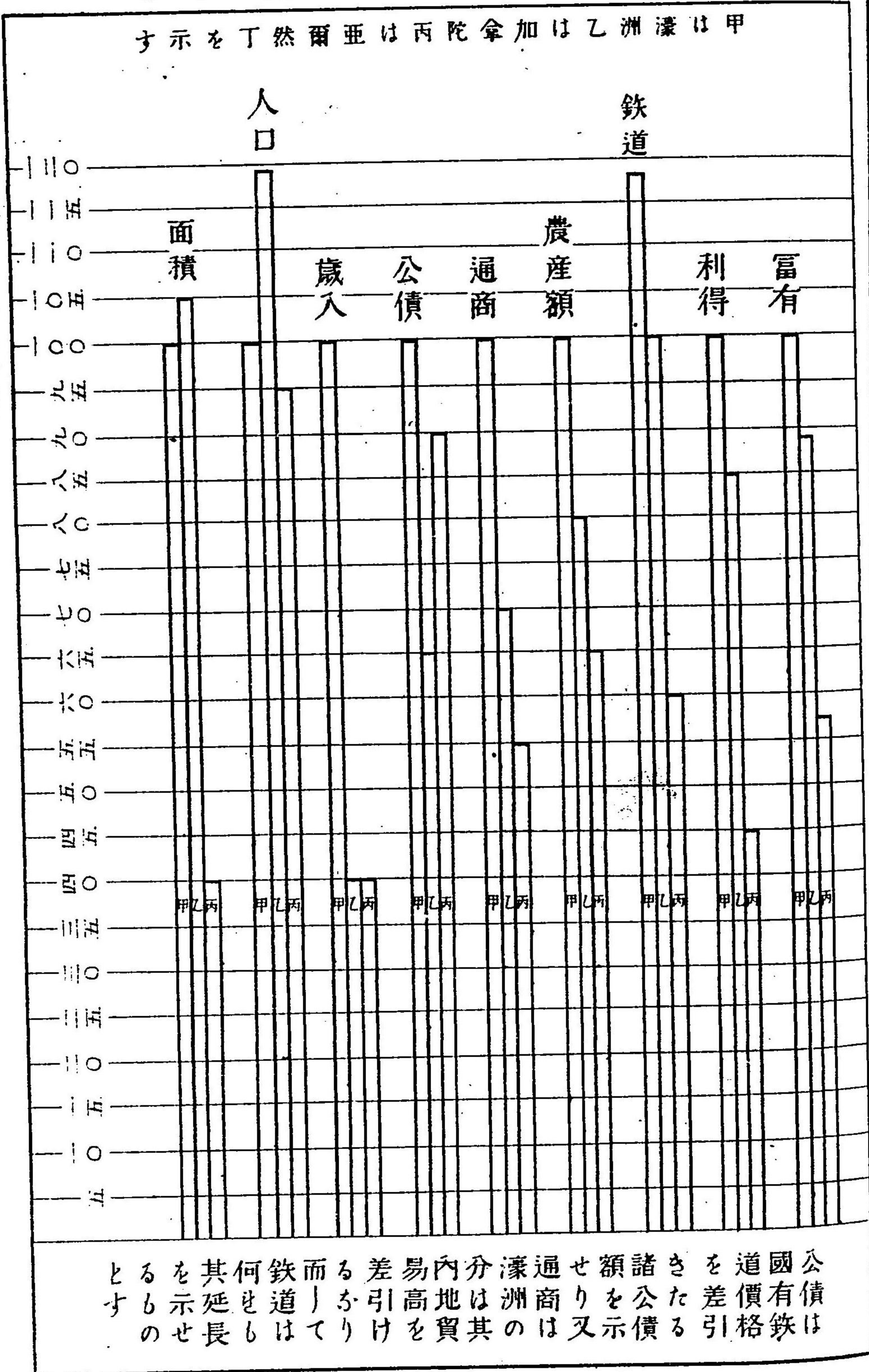
濠洲七總督政府はアングロ撤遜人の建設したる所にして又た最も新たなるものとなす而して开が進歩に一大勢力を與へたるは即ち最近四十年間に在りて多量の金并に羊毛の多量の産出ありしと是なり。一八五〇年來此地の人口は八倍を増加したり。即ち當時の人口はマリトランド州に於けるより少かりしも現今に於ては荷蘭王國に於けると同様となれり。今一八五〇年の人口表と一八九五年のを比較せん左の如きあり。

一八五〇年	一八九〇〇〇	ニウザウス	七六〇〇〇	六三〇〇〇	一八二〇〇〇	五二〇〇〇〇
一八九五年	一、二八〇、〇〇〇	ウエールス	一、二九〇、〇〇〇	七三〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	四二四〇、〇〇〇
		ヴィクトリヤ				
		ニウ、ジラランド				
		其他の殖民地				
		アウストラ				
		ラシヤ				

此の如き快速の増加ありしは大抵來住者の多かりしが爲なるに相違なかるべしと雖も濠洲原民の増加亦た頗る多く現今に於ては全人口の三分の二以上は濠洲人なり。今全人口を一八九一年の統計に基づきて内譯せんに濠洲人はその六割

濠洲加陀及亞爾然丁

甲は濠洲乙は加陀丙は亞爾然丁を示す



第三十二圖

公債は國有鐵道を差引きたる諸公債額を示し又通商は濠洲の内地貿易を差引きたる額を示し、而して鐵道は其の延長を示すものとす。

九歩にして英人二割、愛爾蘭人七歩、其他諸國のもの四歩の割となれり。又都會人口の村落人口に比して其數多きに過ぎたるは濠洲に於ける著明の事實にして、英克蘭を除くの外他に類例なきなり。一八九一年の統計の示す所にては都會人口はニウサウスウェールズに於ては全人口の六割六歩、ヴィクトリヤに於ては五割七歩を占め之を濠洲全体に見るも尙ほ五割四歩の多きに居る勘定なり。全体新開國に在りては都會人口の急速に増加するは好ましからざる事となす、而してヨーロッパが謂ふ所の如く濠洲に於ても亦た其都會人口の増加は其他の進歩の爲に最も憂ふべき有様なり。今四大都會に就き人口増加の有様を示さん、左の如きあり。

	シドニー	メルボルン	アデレード	ブリスベーン	合計
一八六一年	九六、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一八、〇〇〇	六、〇〇〇	二六〇、〇〇〇
一八九三年	四二二、〇〇〇	四七五、〇〇〇	一三七、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、二二四、〇〇〇

右四大都會の人口總數は一八六一年以來四倍の増加を爲したるも、此他の地方に在りては其増加三倍に達せざりし有様とす。又濠洲殖民地全体に於ける人口増

加數は一八六一年より一八九四年に至る間に於ては二百八十四萬七千人なりしが此中六割二歩は自然増加數にして三割八歩は來住民數の増加なり。今之を左に示さんに。

自然増加數	五二七、〇〇〇	五一九、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	四一四、〇〇〇	一七八、〇〇〇
來住民數	三三八、〇〇〇	一一七、〇〇〇	二七三、〇〇〇	三三九、〇〇〇	一、〇六七、〇〇〇
合 計	八七五、〇〇〇	六三六、〇〇〇	五九三、〇〇〇	七四三、〇〇〇	二、八四七、〇〇〇

濠洲の富有たる主として家畜家禽より成立したるに拘はらず、此地に於ける農業者の數は全人口の小部分を占むるに過ぎざるは實に驚くべき事實なり。今農業に従事する者の數を見るに總ての作業人員中その二割四歩に過ぎざるなり、然るに此割合は合衆國に於ては三割四分加拿陀に在りては四割七分なり。一八九一年の統計に基づき人民の業務別を示さんに左の如きあり。

男	三三八、〇〇〇	四一七、〇〇〇	九四、〇〇〇	四三五、〇〇〇	一、三〇四、〇〇〇
女	三七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	二〇九、〇〇〇	三二六、〇〇〇	一、六二〇、〇〇〇
合 計	三九五、〇〇〇	四八七、〇〇〇	九四、〇〇〇	六四四、〇〇〇	二、九二四、〇〇〇

農業	三三八、〇〇〇	四一七、〇〇〇	九四、〇〇〇	四三五、〇〇〇	一、三〇四、〇〇〇
製造業
鑛業
其他諸業
合 計

第二款 働力

濠洲に於ける働力は一八七〇年以來三倍したり即ち。致働力一日分平均用量百萬フット噸

一人前平均フット噸
人力	一八七〇年	一七〇	二、三五〇	五二〇	三、〇四〇
馬力	一八七〇年	一七〇	二、三五〇	五二〇	三、〇四〇
蒸氣力	一八七〇年	一七〇	二、三五〇	五二〇	三、〇四〇
合計	一八七〇年	一七〇	二、三五〇	五二〇	三、〇四〇

一八九四年に於ける蒸氣力を内譯すれば据附機關用二十六萬馬力にして鐵道用三十八萬五千馬力、汽船用十八萬馬力の割となれり。今此蒸氣力の高を人口に比例すれば其割合加拿陀に於けるものより比較的少しとす、即ち加拿陀に於ては每一千人に付き二百四十馬力の割合となるも濠洲に在りては二百二馬力の割合たるに過ぎず。然れ共働力全體の割合に至りては加拿陀の一人前平均千九百二十フット噸の割合に對して濠洲に於ては二千二百十フット噸となるを以て其割合甚だ高度なり。是れ濠洲に於ては加拿陀に比すれば頗る多數の馬匹を有する

が爲なる可し。

第二節 農業

濠洲の農業に在ては牧畜の事最も繁盛を極めたるに拘はらず、耕作の事亦頗る進歩し従つて耕作地の面積も過去三十一年間に於て十倍するに至れり即ち。

ニウ、サウス、 ウエールズ	ヴィクトリヤ	ニウ、ジー ランド	其他の諸 殖民地	アウスト ラシヤ
一八六一年……二九八、〇〇〇	四二二、〇〇〇	二二五、〇〇〇	五九五、〇〇〇	一、五四〇、〇〇〇
一八九二年……一、三七〇、〇〇〇	二、四七〇、〇〇〇	九、五九〇、〇〇〇	二、八一〇、〇〇〇	一、六二四、〇〇〇

一八六一年に在りては耕作地の面積は一人前平均僅に一エーケルに過ぎざりしも現今に於ては四エーケルの割となれり。耕作地最も多きはニウ、ジーランドにして其全面積は他の六殖民地に於ける耕作地の面積を合併したるより尙ほ廣く一人前平均十四エーケルに當たる。之に次ぐは南濠洲にして一人前平均六エーケルの割なり。耕作地全面積中穀類地は僅に三分の一に過ぎずして他は皆青物又は枯草仕立地等となす。一八六〇年に至る迄は年々穀類の輸入を智利并に合衆國に仰ぐの要ありしも其後は概して年々幾分の剩餘を生じて却て之を輸出す

るに至り一八七三年以來其輸出額實に五倍し、現今に於ては三十二萬噸を輸出す是れ恰も穀類收穫全額の五分の一に當たれり。今一八九三年より九四年に至る穀類地の平均面積并に穀類平均收穫高を示さんに左の如きあり。

穀類地、エーケル……………四、〇一〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	五、一六〇、〇〇〇
穀類收穫、噸……………九二〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、六二〇、〇〇〇
小 麥	其他の穀類	合 計

前表示す所にては收穫の高は甚だ多しとせず、即ち前記二箇年に在つては小麥の收穫は年々一エーケルに付き九ブツシエルにして其他の穀類は二十四ブツシエルに過ぎずと知る可し。

今一八九三年に於ける農産物價格全額に就き之が内譯を見るに耕作産物の價格は僅に开が三割を占むるに過ぎずして殘餘七割は皆牧畜産物の價格なり之を左に示さん。

羊	毛……………二、三四〇〇、〇〇〇	穀	類……………九、六〇〇、〇〇〇
			磅

肉類	八、二〇〇、〇〇〇	枯草	四、八〇〇、〇〇〇
乳汁製産物	六七〇、〇〇〇	菓物	二、六〇〇、〇〇〇
雑類	一一、二〇〇、〇〇〇	雑類	四五〇〇、〇〇〇
以上牧畜産物	四八四〇〇、〇〇〇	以上耕作産物	二一、五〇〇、〇〇〇

濠洲の鉅富を累ねたるは皆家畜の数の夥多なるが爲なるが、其家畜たる羊も牛も將た馬も元來皆他國より輸入し來りたるものにして、一七八八年キャブテン、フィリップスが五頭の牛二十九頭の羊を輸入したるを以て始めとすれ共牧羊業として开が基を開きたるは一七九七年キャブテン、エム、アーサーが喜望峯地方より「メリノス」と云へる一種最良の綿羊を輸入し來りて此業に従ひたるが嚆矢たり。爾後家畜は年々快速の度を以て増殖したり、而して一八一三年中には二人の農民ウエントウオールズ并にロウソンと云へる者シドニーの西七十哩プリュウ山を横斷して居を其地に卜し以て牧業に従ひたり是れ今のバツサリストの在る所たり。一八二五年に及びてはマツヂー地方全軀到處牧羊の地となり無慮二十三萬七千頭の羊を有するに至り、爾來十年を経るや無數の來住民亦た居を今のアツデレイ

ド附近なるマルレー河畔の平原并に今のメルボルン及び其郊外の地たるポート、フィリップスの周圍に定めたり。今諸年次に於ける牛羊頭數を示さん左の如きあり。

羊	一八一三年	一八四二年	一八六一年	一八九四年
牛	五三、〇〇〇	六三、一〇〇、〇〇〇	二三、七四〇、〇〇〇	一一、二二〇、〇〇〇
羊毛剪採高	一、一〇、〇〇〇	四、〇四〇、〇〇〇	一三、三二〇、〇〇〇	
大牧羊業	一、八四〇	四六、七〇〇、〇〇〇	二、五四〇〇	
小牧羊業	一一、〇五〇	一一、四〇〇、〇〇〇	九五〇	
合計	一三、八九〇	五八、一〇〇、〇〇〇	四、二〇〇	

牧羊業者數 羊現數 牧羊者一人前平均羊現數

濠洲に於ける牧羊場は其面積合計八億三百萬エーカーにして此中八割五歩六千六百萬エーカーは來住者の殖民地政府より貸下を得たる分なり。右貸下年限は五十箇年にして此地代は一エーカーに付き一箇年一片とす、但し右期限中何時に拘はらず之れが拂下を請ふは自由とせり。而してクインスランドに於ける來住者の牧羊面積は七萬六千エーカーにして南部濠洲に於けるは九萬七千エーカーとなる。尙ほ今日現在の牧羊地面積は一方哩に付き平均三百頭の家畜を牧するに足るを以て今後羊ならば約そ四億萬頭、牛馬ならば殆ど二億六千六百萬頭即ち現在家畜頭數の二倍以上を飼ふに足る可し。又た濠洲の地面六割より少からざる分は尙ほ未占有地なり。依つて今濠洲七殖民地に於ける土地占有の有様を示さんに左の如きあり。

南部 濠洲	一百萬エーカー		
	所有地	借地	未占有地
ニウ、サウス、ウエールズ	四七	二四	二八
クインスランド	一四	二八一	一三三
南部 濠洲	九	一六一	四〇八
合計	六六	二八五	五七九

西部 濠洲	合計
グイクトリア	二四
ニウ、ジーランド	二一
タスマニヤ	五
合計	五〇

占有地全面積の中八割は一エーカーに付き一片を以て來住民中僅に一萬九千人の資本家の掌握に歸し去り其中四分の三以上は其狀恰も封建時代の采邑の如く一所有地平均面積一千エーカーに超えたり、是全く土地制度の不完全なるが爲に此の如きに至れりと謂ふべし。尤も殖民地中耕作地の代價は一エーカーに付き七志乃至二十志にて五年以上十年以下の年賦を以て廣く來住人民に拂下げんと試みたるもありたれ共、其等の土地たる其位置甚だ不便なるを以て労働者は寧ろ地主に就き地代を以て地面を借ることを望むに至れり。故に借地に屬する耕作地面積はニウ、ジーランドに在りては七百十萬エーカー南部濠洲に於ては一千七十萬エーカーとなれり。家畜の價格はコーランが説の如くば一八九二年に在り

ては合計一億二千萬磅に上ぼり、之より生ずる牧畜産額は價格にして四千八百五十萬磅とあり。今總ての農産物を計算し來れば其全價格は殆ど七千萬磅に達すべし即ち。

	收穫物、磅	牧畜産物、磅	合計、磅	一人前平均農産額、磅
ニウ、サウス、ウエールズ	三、九六〇、〇〇〇	一、六八〇、〇〇〇	二、〇七六、〇〇〇	一七〇
ヴィクトリア	六、六七〇、〇〇〇	九三〇、〇〇〇	一、五九七、〇〇〇	一三五
ニウ、ジーランド	四、八四〇、〇〇〇	九二八、〇〇〇	一、四二二、〇〇〇	二二〇
クイーンズランド	一、四一〇、〇〇〇	八二七、〇〇〇	九、六八〇、〇〇〇	二二四
南部 濠洲	三、三三〇、〇〇〇	三、〇九〇、〇〇〇	六、四二〇、〇〇〇	一八五
タスマニア	一、〇三〇、〇〇〇	一、〇六〇、〇〇〇	二、〇九〇、〇〇〇	一三五
西部 濠洲	二、八〇〇、〇〇〇	六二〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一三八
合計	二二、五二〇、〇〇〇	四、八四二、〇〇〇	六、九九四、〇〇〇	一七三

右農産額一人前平均高は加拿陀に於ける十一磅、合衆國に於ける十二磅の割合に對して十七磅の割合となる。又之を農業者の數に割當つるときは一人前平均産

額合衆國に於ける七十五磅、加拿陀に於ける五十磅、合衆王國に於ける九十一磅に對して百六十磅となり其割合の高度なる濠洲を以て世界に無比となす。是皆他國に在つては濠洲に於けるが如く牧畜産額の多からざるを以てなり。

第三節 林業并に漁業

濠洲に於ては單に林業并に漁業に従事する者の數のみを見るときは此等の事業は甚だ謂ふに足らざるものゝ如き感なきにあらざ。今一八九一年の統計に徴すれば其數僅に一萬四千四百人に過ぎず。然れ共此地に於ては恰も加拿陀に於けると一般農業其の他に従事する者亦た時に自家の爲に藩籬用又は燃料として森林伐採に従事する者多きを知らざる可からざるなり。左表は五殖民地に就き開が森林面積を示し、尙ほコーランが計算につき一八九三年に於ける林業并に漁業の産額價格を示すものとす。

	森林面積、エーカー	林業并に漁業産額、磅
ニウ、サウス、ウエールズ	一九、二〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
ヴィクトリア	四、五〇〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇

ニウ、ゾーランド	一八、五〇〇、〇〇〇	七一〇
クインズランド	一三〇、〇〇〇、〇〇〇	一一三〇、〇〇〇
南部 濠州	二八〇、〇〇〇	七六〇、〇〇〇
タスマニア	七、二〇〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
西部 濠州	三四〇、〇〇〇
合 計	二九〇、〇〇〇
		五、五五〇、〇〇〇

ニウ、ゾーランド并に西部濠州に於ては年々六十萬磅の林業産物を輸出せり、此中四十萬磅は「ユーリ」護謨にして此はニウ、ゾーランドより輸出するものとす。之に反してニウ、サウス、ウエールズ、のヴィクトリア并に南部濠州に於ては年々五十萬磅の建築用材を輸入し來れり。前表産額中より漁業産額の分として約五十萬磅を差引くときは林業産額は五百萬磅にして一エーケル平均合衆國に於ける五志に對して漸く六片以下たる割合と知る可し。

第四節 製造業

一八九一年の統計に據れば濠洲七殖民地に於て製造業に従事する者、男は四十一

萬七千人にして女は七萬人とす。又左記の三大殖民地に於ては諸工場に於ける労働者の總數は十二萬六千人にして、此外職人の獨立して業を営むもの二十五萬四千人あり。今工場に關し官廳の報告に基つきて示す所あらんに左の如し。

	労働者	産額、磅	労働者一人平均産額、磅
ニウ、サウス、ウエールズ	四六〇、〇〇〇	一六、六〇〇、〇〇〇	三六〇
ヴィクトリア	二二、四〇〇、〇〇〇	四一五
ニウ、ゾーランド	二六〇、〇〇〇	八、八〇〇、〇〇〇	三四〇
合 計	一、二六〇、〇〇〇	四七、八〇〇、〇〇〇	三八〇

此他の四殖民地に於ける工場に關しては別に官廳の報告の徴すべきなし。故に今右三殖民地に於て製造に従事する者の産出する所を一人前平均百磅と假定せんに濠洲七殖民地に於ける諸工場并に獨立職人の産出する所年々左の如くならんか。

	工場労働者并に獨立職人数	産額、磅	労働者一人前平均産額、磅
ニウ、サウス、ウエールズ	一四〇、〇〇〇	二六、〇〇〇、〇〇〇	一八六

ザイクトリヤ	一六八、〇〇〇	三四、〇〇〇、〇〇〇	七二二
ニウ、ザールランド	七二、〇〇〇	一三三、〇〇〇、〇〇〇	一八四
クインスランド	四七、〇〇〇	四七、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇
南部 濠洲	三八、〇〇〇	三八〇、〇〇〇	一〇〇
タスマニヤ	一六、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一〇〇
西部 濠洲	六、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	一〇〇
合 計	四八七、〇〇〇	八四、〇〇〇、〇〇〇	一七三

前表の如くは製造業者一人前平均産額は加拿陀に於ける二百六十五磅合衆國に於ける四百十五磅に對して百七十三磅の割合となる可し。

第五節 鑛業

第一款 金 金礦は一八二三年二月ハッサリストの東十五哩、フィッシン河附

近に於て巡察官エム、ブリンが發見したるを始めとすれ共、當時の有司は之を世に公にするを以て利ならずとなし深く秘し、去つたり。一八三九年に至りてクリッド溪邊に於て伯爵ストレッッキの發見したるありしも總督ヂップスは此事、世

の知る所とならば意外の惡結果を生ぜんを恐れ伯爵をして固く之を秘せしめたり。第三回の發見をなしたるは尊者ダブリュウ、クラークにして時は一八四一年、地はマックワリ、溪間なり。最後には一八五一年中英國の法律家にして前にカリフォルニヤ金鑛の發掘に従事したるハムモンド、ハーグレイヴと云へる一箇の遊歴者のありて、ハッサリスト附近に一大金鑛脈を發見したるより漸く世の知る所となり、倏忽の間にして數千の冒險企業家を吸聚するに至れり。其後數週ならずしてバルライト其他に於て又た金鑛の堆積せるを發見し、一八五一年七月テユウロンに於て一箇の金塊を採掘したるが、开が重量一千二百七十オンスにして此價格五千磅に當たれり。ハーグレイヴの發見當時より十箇年間に於て濠洲の諸金鑛區に於てしたる金の産額は價格にして一億二千萬磅、而かもバルライト鑛區の如きは最大の金塊を出だし其大き恰も一八五八年に得たるウエルカム、一八六九年に得たるストレンヂヤと云へると相均し、而して前者は其價格八千四百磅にして後者は九千五百磅に當たりたるものと知る可し。今一八九四年より既往四千箇年間に於ける産出金の價格を示さんに左の如きあり。

磅		磅	
自一八五一年至六〇年	一一八、〇〇〇、〇〇〇	ヴィクトリア	二三八、四〇〇、〇〇〇
自一八六一年至七〇年	九五、〇〇〇、〇〇〇	ニュージーランド	五〇、二〇〇、〇〇〇
自一八七一年至八〇年	八一、〇〇〇、〇〇〇	ニュージーランド、ウェールズ	四一、〇〇〇、〇〇〇
自一八八一年至九〇年	四八、三〇〇、〇〇〇	クイーンズランド	三五、〇〇〇、〇〇〇
自一八九一年至九四年	二八、七〇〇、〇〇〇	西部濠洲其他	六四〇〇、〇〇〇
四十四箇年間	三七一、〇〇〇、〇〇〇	合 計	三七一、〇〇〇、〇〇〇

凡そ金鑛とし謂へば人直に其多利なるに炫惑せらるゝと雖も、實際事業の全躰より打算するときは辛うじて收支相償ふに過ぎざるが常なり。濠洲に於ても諸金鑛區の多分は其掘穴の深き既に二千呎に超えたり、斯くて一噸の石英を穴底より地上に運搬し來り之より得る所の金量幾許と云ふに漸く半オンスに過ぎざるなり。故に今諸殖民地に就き最近五箇年に於て石英一噸に付き得たる所の金量平均高に基づき、以て全五箇年間に於て發掘したる石英噸數并に之より得たる所の金量を算出せば左の如くなる可し。

石英噸		金、オンス		石英一噸平均 金量オンス	
ヴィクトリア	一四七、〇〇〇、〇〇〇	七〇、七〇〇、〇〇〇	〇・四八		
ニュージーランド	一三三、〇〇〇、〇〇〇	一四六、〇〇〇、〇〇〇	一・二〇		
其他諸殖民地	二一、八〇〇、〇〇〇	二二六、〇〇〇、〇〇〇	一・〇五		
合 計	一八二、二〇〇、〇〇〇	一八二、二〇〇、〇〇〇			

金の産額僅に三千噸、是れ三十方呎にして高さ十二呎の一室に填充するを得べきのみ。然るに石英に至りては、開が發掘噸數を堆積せば、チェツプスの三角塔の如きもの三十を疊み上ぐ可きなり。是に由りて此を觀れば、一噸の金を得んには六萬噸の石英を要する勘定となる。然れ共之をカリフォルニアの石英の七萬噸にして、金一噸を産出する割合に比すれば、濠洲の石英は頗ぶる富饒のものと言つ可し。金産出額の最も多かりしは一八五六年にして、其價格一千三百二十萬磅に當たりたるが、爾後衰頽に傾き一八八六年に於ては、其産額五百四十萬磅に過ぎざりき。然れ共當時以來再び恢復し來りて、最近五箇年に於ては一箇年平均産額七百二十萬磅に當たり、即ち純金五十二噸を得るに至れり。金鑛々夫の數は通常六萬人

にして鑛夫一人前平均産額は各殖民地に依りて著しき相違あり。今一八九二年の産額に據りて之を示さんに左の如し。

	鑛夫數	産額、磅	鑛夫一人前平均額、磅
ヴィクトリヤ	二三五〇〇	二六二〇、〇〇〇	一一一
クインスランド	八七〇〇	二、一五〇、〇〇〇	二四七
ニウ、ゼーランド	一一二、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	七八
ニウ、サウス、ウェールズ其他	一五、六〇〇	一、一一〇、〇〇〇	七一
合 計	六〇、〇〇〇	六八三〇、〇〇〇	一一四

前表に據れば鑛夫一人前平均金産額は百十四磅なるを以て農業者の一人前平均産額の三分の二にも足らざる勘定なり。

第二一欸 銀

銀鑛は一八六三年始めてヴィクトリヤに發見されたるが此は金と混合のものなりき。尙ほ一八六九年に於てはニウ、ゼーランドに、其後に於てはニウ、サウス、ウェールズに發見されたり。一八九三年末に至る三十一箇年間に於てしたる銀の産額は價格にして一千七百十萬磅、此中九割五歩はニウ、サウス

ウェールズに産出したるものとす。一八九三年に於ては二千萬オンスの棒銀を産出し此價格三百萬磅なり而して銀鑛々夫の數は總て五千人に足らざる位なるを以て鑛夫一人前平均産額は約六百磅に當たる。又たダーリング河附近なるブロークン山の銀鑛は世界に於ける豐鑛の一なるが、开は一八八三年中デツプス山の一牧羊者の發見に繋る、而して一八九三年十二月末より既往八箇年間に於て當鑛に於てしたる銀の全産額は價格にして一千九十萬磅に當たり、此中七百萬磅は开が株主の配當に歸したるものとす。

第三欸 銅

銅の發見ありたるは一八四二年南部濠州のカベンダに於てしたると、一八七六年ニウ、サウス、ウェールズのコツパアに於てしたるとなり。而して南部濠州に於ては最近五十年間に於て廿五萬噸を産出し此價格二千萬磅に當たり、ニウ、サウス、ウェールズに於ては十七箇年間に於て五萬二千噸を産出し此價格四百萬磅に當たれり、尙ほクインスランドに於ても亦た三萬噸の産出ありて此價格二百萬磅なり。

第四欸 錫

錫鑛は一七九八年に於てはタスマニヤの北岸に於てパッス

が發見し、一八五三年に於てはニウ、サウス、ウエールズに於て尊者クラークが發見したるも、ニウ、サウス、ウエールズに於ても、タスマニヤに於ても、初めて錫鑛を開き採掘事業に着手したるは一八七二年以後の事とす。最近二十一箇年間に濠洲諸殖民地に於てしたる錫の産額は價格にして一千六百萬磅に上り、其中三割六歩はニウ、サウス、ウエールズに於ける産額にして、三割五歩はタスマニヤ、二割五歩はクインスランド、残り四歩はヴィクトリヤに於ける分とす。

第五款 石炭

石炭鑛は一七九七年ニウ、サウス、ウエールズのキトラ山附近に於て一箇の浮浪水兵クラークと云べる者が發見したるを始めとし、尙ほ次に一八四六年に至り西部濠洲のアーウィン河に於ても發見されたり。一八四七年ニウ、サウス、ウエールズに於て石炭鑛業を開始したるが、當時の産額は四萬噸なりしも、其後快速の進歩をなし一八九一年に於ては四百萬噸を採掘したり、爾來現今に至りては漸次衰頹の傾きあり。尙ほクインスランドに於ても、又たニウ、シラントに於ても石炭鑛業を開くに至り、一八九二年に於ては濠洲に於ける石炭産出全額は四百八十萬噸に達し、爲に濠洲は石炭産出地として世界列國中第八位を占

むるものとなれり。又一八四七年以來の石炭産額を合計すれば六千九百萬噸にして此價格三千三百萬磅となる。此中ニウ、サウス、ウエールズは八割四歩ニウ、シラントは一割二歩、クインスランドは四歩を占めたる勘定なり。斯くて石炭鑛業は金鑛業に比すれば遙に利益あるものとなれり、即ちニウ、サウス、ウエールズに於ける坑夫は一八九三年より既往十箇年に於て年々一人に付き平均三百五十八噸を産出し、此價格百五十五磅の割合と爲るも金鑛に於ては鑛夫一人前平均産額百十四磅に過ぎざるを見て知るべきなり。石炭供給高は現今に於ては内地需要高を充たして餘ある有様にして、一八九三年に於ては七十五萬噸を海外に運去るに至れり。今一八九二年より既往五十年間に於ける鑛産物價格全額並に鑛物種類別、各殖民地別を示さんに左の如きあり。

	百萬磅	百萬磅
金	三七一	三三九
石	三七	一〇二
銅	二七	五六
ニウ、サウス、ウエールズ	三七一	三三九
クインスランド	三七	一〇二
タスマニヤ	二七	五六

銀	二〇	クインスランド	四三
錫	一七	南部 濠州	二三
種類	三	タスマニヤ其他	一二
合計	四七五	合計	四七五

一八九四年のみの鐵産物價格は一千四百萬磅にして此中金は八百三十萬磅、銀は二百六十萬磅に當たれり。

第六節 通商

第一款 貿易 七殖民地に於ける貿易報告は各自皆他の殖民地を以て外國と見做し、之に對する輸出入をも外國貿易額として計算せるを以て其高は實際の外國貿易額より多きと明なり。故に七殖民地を以て加拿陀若くは合衆國の如く各州聯合のものとするときは各殖民地の相互の貿易は固より内國貿易にして決して外國貿易には非ざるなり。左表は各殖民地の貿易報告により开が見て以て外國貿易額として算出したるものを示す。

一八六一年、磅 一八七三年、磅 一八九三年、磅

輸 入	二六、五〇〇、〇〇〇	四一、四〇〇、〇〇〇	五三、三〇〇、〇〇〇
輸 出	二四、五〇〇、〇〇〇	三九、一〇〇、〇〇〇	六五、八〇〇、〇〇〇
合 計	五一、〇〇〇、〇〇〇	八〇、五〇〇、〇〇〇	一一九、一〇〇、〇〇〇

今濠洲を一國と見做して以て开が殖民地相互の貿易額を除却し眞の外國貿易高を示さんに左の如きあり。

輸 入	一八六一年、磅	一八八一年、磅	一八九三年、磅
輸 出	一八、五〇〇、〇〇〇	三三、三〇〇、〇〇〇	二七、八〇〇、〇〇〇
輸 入	一六、六〇〇、〇〇〇	三二、二〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇、〇〇〇
輸 出	一六、六〇〇、〇〇〇	三二、二〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇、〇〇〇
合 計	三五、一〇〇、〇〇〇	六四、五〇〇、〇〇〇	六七、八〇〇、〇〇〇

左表は過去二十箇年間に於ける貿易全額を示すものとす。

外國貿易額、百萬磅		殖民地各地貿易額、百萬磅	
輸入	輸出	輸入	輸出
合計	合計	合計	合計
自一八七四年至八三年	三二〇	二九一	六一一
自一八八四年至九三年	三七六	三四九	七二五
合計	六九六	六四〇	一三三六

二十箇年 間…………… 六九六 六四〇 一三三六 四三六 三九六 八三二

一八九一年に至る迄は輸入は輸出に超過したるも、一八九三年銀行に一大恐慌を起してより大に輸出超過を來したり、即ち詳言すれば貿易上の平均を失ふに至れり。然れ共此は一大艱難即ち一般の禍害より來れる必然の結果にして恰も普佛戦争後佛蘭西に起りて一八七六年まで繼續したると同一のものたり。過去二十箇年間に於て諸殖民地の人口は二倍以上と爲りたるに開が外國貿易額は唯た二割一步を増加したるのみ、今各殖民地に就き開か貿易額殖民地相互の貿易額を除くを示さんに左の如きあり。

年	百 萬 磅				
	ニウ、サウス、 ウエールス	ザイクト リヤ	ニウ、ジ ランド	南部濠州	クイーンズ ランド其他
一八七三年……………	一四五	二四四	八二	五六	三二
一八七三年……………	一四五	二四四	八二	五六	三二
一八九三年……………	二三四	一七一	一三二	七六	七五
合計……………	二四一	二四一	二四一	二四一	二四一

たる如く二十箇年に於ける貿易全額は十三億三千六百萬磅なるが今殖民地に就き其輸出入高を示さんに左の如きあり。

地 名	百 萬 磅		割 合
	輸 入	輸 出	
合計……………	六九六	六四〇	一三三六
グイクトリヤ……………	二二三	二〇一	四三四
ニウ、サウス、ウエールス……………	二二〇	一九二	四二一
ニウ、ジランド……………	一一二	一一六	二二八
南 部 濠 州……………	六七	七六	一四三
クイーンズランド……………	四六	四〇	八六
タスマニヤ……………	一一	八	一九
西 部 濠 州……………	七	八	一五

大不利頗どの貿易關係は近年に至り比較的衰頽に傾き、其貿易額は一八七四年より七八年に至る間に在りては全貿易額の七割九歩を占めたるも、一八八九年よ

り九三年に至る間に於ては七割六歩に過ぎざるに至れり。今前記二箇の期間に於ける一箇年平均貿易の形勢を示せば左の如きあり。

大不利 噸	自一八七四年至七八年	自一八八九年至九三年	増加割合
其他 諸國	四、四〇〇、〇〇〇	五七、六〇〇、〇〇〇	二七
合 計	一一、〇〇〇、〇〇〇	一八、二〇〇、〇〇〇	五二
	五七、四〇〇、〇〇〇	七五、八〇〇、〇〇〇	三二

沿岸貿易即ち内部殖民地貿易額は前掲の期間に於て外國貿易額に比すれば三倍の速度を以て増進したり、今當時に於ける一箇年平均貿易額を示さんと左の如きあり。

外國 貿易	自一八七四年至同 七八年	自一八八九年至同 九三年	増加割合
内部殖民地貿易	五七、四〇〇、〇〇〇	七五、八〇〇、〇〇〇	三二
合 計	一一、〇〇〇、〇〇〇	一八、二〇〇、〇〇〇	五二
	八六、二〇〇、〇〇〇	一三〇、四〇〇、〇〇〇	九〇

今又更に主要の各殖民地に就き最近五箇年間に於ける貿易額を示さんと左の如

きなり。

外國 貿易	ニウ、サウス、ウエールズ	ヴィクトリア	南部濠洲	ニウ、タラランド	クイーンズランド	合計
内部殖民地貿易	二四六	二二〇	八〇	一三〇	八二	七五、八
合 計	四五、二	三三、八	一六、六	一六、〇	一八、八	一三〇、四

右に據れば外國貿易額一人前平均高は合衆王國に於ける十九磅に對して二十磅の割合たり。

第一欸 海運

七殖民地に於ける船舶は其登録噸數總て三十七萬噸にして其が運搬力噸數は九十二萬噸即ち佛蘭西に於ける商船の三分の一に當たる。之を左に示すあらんに。

登録 噸數	運搬力 噸數	ニウ、サウス、ウエールズ	ヴィクトリア	ニウ、タラランド	南部濠洲 其他	合計
一一〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇	九五、〇〇〇	七五、〇〇〇	九〇、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	二四五、〇〇〇
二四五、〇〇〇	一九五、〇〇〇	二〇五、〇〇〇	九二〇、〇〇〇			

又た過去三十年に於て濠洲の貿易は唯だ二倍の増進ありたるのみなるも、其地に於ける船舶入港噸數に至りては實に六倍したるなり。今其入港噸數を示さんに左の如し。

	噸數			
	メルボルン	シドニー	其他諸港	合計
一八六一年	五五〇,〇〇〇	三七〇,〇〇〇	五三〇,〇〇〇	一,四五〇,〇〇〇
一八九二年	二,〇八〇,〇〇〇	一,七五〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇	八,六三〇,〇〇〇

尙ほ右一八九二年に於ける噸數に就きて内譯すれば諸外國船舶噸數三割六歩、濠洲殖民地船舶噸數六割四歩を占めたる勘定となるなり。

第三款 内地貿易 今内國貿易額を計算せんに即ち左の如きあり。

	一千磅			
	農産物	製造品	礦物	林業産物其他
輸入品	二六,〇〇〇	四九,〇〇〇	一,五〇〇	八二,〇〇〇
合計	二六,〇〇〇	四九,〇〇〇	一,五〇〇	八二,〇〇〇
輸出品	一六,〇〇〇	三四,〇〇〇	二八,〇〇〇	一三,〇〇〇
合計	一六,〇〇〇	三四,〇〇〇	二八,〇〇〇	一三,〇〇〇

ニウ、ゾーランド	一四,一〇〇	一三,三〇〇	一七,〇〇〇	一,一〇〇	四九,〇〇〇	三五,一〇〇
クインズランド	九七,〇〇〇	四七,〇〇〇	二七,〇〇〇	八,〇〇〇	三六,〇〇〇	二一,五〇〇
南部 濠洲	六四,〇〇〇	三,八〇〇	四,〇〇〇	三〇〇	二三,〇〇〇	一三,二〇〇
タスマニヤ	二二,〇〇〇	一六,〇〇〇	七,〇〇〇	三〇〇	七,〇〇〇	五四,〇〇〇
西部 濠洲	九,〇〇〇	六,〇〇〇	八,〇〇〇	三〇〇	五,〇〇〇	三,一〇〇
合計	七〇,〇〇〇	八四,〇〇〇	一四,〇〇〇	五六〇	二八,〇〇〇	二一,六〇〇

第四款 鐵道 鐵道は一八五四年始めて開通したる際にはホブソン灣と

メルボルンの間僅かに三哩にして、翌年漸くシドニーとパラマツタ間十四哩を開通したり。斯くて一八七三年迄は鐵道敷設の箇所は甚だ僅少なりしも最近二十箇年間に於ては一萬哩以上の線路を開通せり。即ち一八八三年ニウ、サウス、ウエイスル線とヴィクトリヤ線とはマルレー河に於て聯絡し、一八八六年にはアデレードとメルボルン間、一八八八年にはシドニーとブリスベーン間の接続成りて終に南部濠洲及びクインズランドの各首府の聯絡線一千五百哩を完成し、今や西部濠洲に於けるアデレードとパース間の接続線并にアデレードより正北ダーキン港

に到る大陸横断線敷設の計畫あるに至れり。而も唯恨らくは开が敷設を爲すに當て三種別様の軌間を設備したると是なり、即ちヴィクトリヤに於ては六十三吋、ニウ、サウス、ウエールズに於ては五十六吋半、其他の殖民に於ては四十二吋、南部濠州に於ては第一種并に第三種の軌間を設備して益々开が複雑を示せり。一八九三年に於ける鐵道は全延長線一萬二千七百六十哩の中、廣軌三千五百四十哩、普通軌二千三百六十哩、狹軌六千八百六十哩にして八百哩を除く外は國有財産たり。從來政府の之が爲め支出したる經費は約壹億二千二百萬磅にして、尙ほ开が公債に基ける額は負擔年額四百七十四萬磅に上り、鐵道より生ずる純收入を超過すると一百二十萬磅なりとす、而して此不足額は租税を以て補償し、其一人前平均負擔額は六志に過ぎず、されば殖民地諸國の此等鐵道に依りて享くる便益に比すれば其負擔や實に輕少なりと謂つべし。コーランが計算によれば、一八九三年に在りては百哩間に於ける貨物運搬の費用は通常鐵道に依れば通常十三志を要するも二頭以上の牛馬の力を藉るときは一百志を要すといふ。即ち前年鐵道に依りて運搬したる貨物は一百哩に付き九百萬噸の計算なれば、今之を牛馬の力に藉らんか

四千五百萬磅の費用を要するならんも鐵道利用の爲に僅かに五百七十萬磅にて足れりとす。されば公衆は三千九百三十萬磅の利得を獲るものにして線路敷設費に對する百分の三十二の年配當を受くると同様、即ち此利得を七殖民地の全人口に割當つれば一人前平均十磅の特別配當を受くるに均し。抑も濠洲の地たる頗る平坦なりと雖も、許多の線路中には機關の運轉大に困難のものなきにしもあらず、即ちプリュー山を越ゆるが如き、クラレンスに到れば其地海面を抜くと三千六百六十呎と稱す、又シドニー、プリズベーン線の如きベン、ロモンドに至れば同じく四千四百七十呎の高きに在るなり。尙又ニウ、ジョーランドに於てすらも、其最高點は海面を抜くと尙一千二百五十呎を超ゆ。一八九四年に至るまでに政府及び諸會社の敷設したる鐵道線路一萬三千六百二十哩に對する總經費は一億三千九百萬磅なりき、即ち平均一萬二百磅の割合なり、今一哩平均營業報告を示し更に之を加拿陀線に比較せん、左の如きあり。

總收入、磅 營業費、磅 純 益、磅 資本に對する割合

濠洲線……………七九八 四九七 三〇一 二九五

加奈陀線 ……………七二三

五〇三

、二一〇

七三〇

一七五

第五款 銀行

濠洲の諸銀行は一八九三年四月五日噴火の勢を以て爆發し來れる大恐慌の爲めに一大影響を蒙れり。一八九三年三年に於て現存したる二十四箇の銀行は同年五月に至りては僅々十二箇に減少するの不幸に陥り、倒産したる諸銀行は九千萬磅の損失を公衆に負擔せしめたるを以て、茲に復た新資本を募集して預主には證券を交付し之に據て銀行の再興を計り、一八九四年十二月に至つて預金中三分の一を拂戻すに至れり、而して諸銀行の拂込資本は恐慌前には一千五百七十萬磅なりしが今や二千三十萬磅に上り、支拂準備金亦二千三百八十萬磅即ち一人前平均六磅の割合を有するに至り、従つて大不利顛に於ける諸銀行、并に其公衆間に存在する金塊の總額は自然に減少して一人前平均三磅の割合にも及ばざるに至れり斯くて濠洲諸銀行の融通力は殆ど一億五千萬磅に達し預金高のみにて一八六一年以來八倍を増加したり即ち。

百萬磅

ウイク トリヤ エールス ニウ、サウス、ウ ント ニウ、シーラ ランド 南部濠洲 其他 合計

一八六一年 ……………七六

五六

〇九

〇三

一七

一六一

一八九四年 ……………四三七

三八四

一八四

一二七

一五〇

二二八・二

現今に於ける預金一人前平均高はウイクトリヤに在りては三十七磅、ニウ、サウスウエールスに在りては三十一磅の割合とす。

第七節 利得并に富有

第一款 利得

最近の調査に依れば七殖民地の利得は左の如きあり。

一千磅

	田圃	製造并に 鑛業	貿易并に 運輸	家賃	雜業其他	合計
ニウ、サウス、ウエールス	一八、〇〇〇	一、二七〇	六、八〇〇	一、七三〇	六、七二〇	二八、五二〇
ウイクトリヤ	二〇、四〇〇	一、二九〇	七、三〇〇	一、五六〇	六、五八〇	三七、一三〇
ニウ、シーランド	八、五〇〇	七、一〇〇	二、三〇〇	八、〇〇〇	三、四一〇	二九、三〇〇
クインスランド	五、八〇〇	四、四〇〇	一、九〇〇	五、九〇〇	二、三二〇	一九、七二〇
南部濠洲	三、九〇〇	二、三〇〇	一、三〇〇	三、八〇〇	一、四〇〇	一三、七〇〇
クスマニヤ	一、三〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	六、九〇〇

西部 濠洲	五〇〇	一、一〇〇	六〇〇	四〇〇	一、一〇〇	三、九〇〇
合 計	四、二〇〇	五、六〇〇	四、五〇〇	二、一〇〇	五、三〇〇	二、五〇〇

一八九一年に於ける官報に據れば、ニウ、サウス、ウエールズ殖民地の利得高は六千六百四十萬磅にして前表に比すれば稍々少きを見る、其他の殖民地に就きては別に官報の徴す可きなし。前掲七殖民地の利得高合計は二億一千五百萬磅なるを以て、之を人口に割當れば合衆國に於ける一人前平均四十四磅加拿陀に於ける三十六磅に對し濠洲に於ては五十一磅の計算となる。此割合は七殖民地の中には勿論著しき等差あり、例之はヴィクトリヤに於ける四割の利得は南部濠洲に比すれば頗る大なるが如し。

借家賃は二千一百萬磅なり即ち大不利頗の一人前平均四磅に對し五磅の割合を示せり。一八九〇年の統計によればニウ、サウス、ウエールズに於ける家賃は平均五磅十四志とあり、コイランは濠洲に於ける平均高を五磅六志と計算すれ共爾來諸種の財産價格は大に下落したるを以て七殖民地に於ける家賃の如きも殆ど一千四百萬磅、即一八九二年に於ける全額三分の二を超へざるに至りしなり、されば

此金額を利得とすれば濠洲民衆の利得は合計二億八百萬磅に減じたる者にして一人前平均四十九磅の割合となり、合衆國に比し五磅の多額を占む。

第一一欸 富有 一八九二年前十二箇年間に在りてはニウ、サウス、ウエール

ス、ヴィクトリヤ、ニウ、ゾーランド南部濠洲及びタスマニヤの諸殖民地に於ける死亡數は五十萬三百人にして遺産税を課せられたる財産の價格は一億五千二百二十萬磅、即ち一人前平均三百四磅となる。故に之を一八九四年に於ける七殖民地の人口四百十五萬人に乗すれば、濠洲の富有は國有鐵道并に其他共有財産二億二千萬磅を除き、尙ほ十二億六千二百萬磅に近きを見る可し。一八九〇年に於けるコイランが計算は鐵道其他共有財産を包括せざりしが今之を合算すれば概略左表の如くなるべし。

不動産	八二一	家	畜	一一〇
雜類	二二九	合 計	一、三七〇	
公共工作物	二〇〇			

然れ共一八九〇年には一種の人氣の爲に土地并に家屋の價格妄に昂騰して遂に實價の二倍に達したるが故に右コイランが不動産價格の計算高を半減して四億一千萬磅と見積らざる可らず。此の如くするときは一八九五年に於ける七殖民地の富有は拾億七千六百萬磅となるべし即ち。

百 萬 磅	百 萬 磅				合 計
	家畜	土地	家屋	雜類	
ニウ、サウス、ウエールズ	三三	八五	六八	一一	三七〇
ヅイクトリヤ	二一	四九	五三	八四	二八三
ニウツीलランド	二〇	四三	二五	四九	一六六
クインスランド	三四	一八	八	三三	一四
南部 濠州	七	二八	一一	二九	九五
タスマニヤ	二	九	六	一〇	三二
西部 濠州	二	四	二	五	一六
合 計	一三〇	二三六	一七四	三三一	一〇七六

七殖民地に於ける利得高并に富有額一人前平均高は左の如くなるべし。

利 得	富 有	一人前平均、磅			
		一人前平均、磅	富 有		
ニウ、サウス、ウエールズ	五四	二九六	南部 濠州	四〇	二七一
ヅイクトリヤ	五六	二三九	タスマニヤ	四四	二〇六
ニウツीलランド	五〇	二三七	西部 濠州	四七	二四〇
クインスランド	五二	二五三	平均通算	五一	二五六

前表濠洲に於ける富有額を以て之を加拿陀に比較すれば左の如し。

百 萬 磅	百 萬 磅		每一人前平均、磅
	濠洲	加拿陀	
土 地	二三六	二三〇	五六
家 畜 其 他	一五六	七五	三七
家 屋	一七四	一一二	四一
公共工作物其他	五一〇	五八五	一一二
合 計	七三五	一四	二一四

合 計 一〇七六

一〇二二

二五六

一九六

第一 土地 濠洲に於ける人民の所有地は一億三千二百萬エーケルにして、其價格は二億三千六百萬磅にして即一エーケル平均價格は合衆國の百五十四志、加拿陀の七十六志に對し三十六志の割合なり。其他前掲富有額中に除きたる借地は六億八千六百萬エーケルにして、每一エーケル一片を以て年々之を貸與せり、而して之が資本としての價格は以上の地代の十七倍即ち一エーケル六志と稱せらる、されば此等の土地は二億六百萬磅の價格を有するものにして幾んど公債の全額と同一なりとす。故に前掲十億七千六百萬磅の富有は濠洲に於ける純富有と見做すを得べし。其他未だ占有に歸せざる若くは收支相償はざる所有地、并に、借地尙ほ十二億五百萬エーケルのものありて、并は濠洲全面積の六割に當るものとす。是等は實際今日に於ては無用の土地なりと雖も、將來に在つては必ずや價格を有するに至らんと疑なしとす。

第二 家屋 コーランか計算によれば、一八九二年に於ける家賃高は七殖民地を總括して二千九十萬磅に及び一人前平均一百六志の割合なり、即ち是れ三億四

千八百萬磅の家屋價格に均しき割合なるが、此時代は尙ほ家屋價格昂騰の時代たるの故を以て其半額は高きに過ぎたる者として之を減ずるも、尙ほ家屋の實價は壹億七千四百萬磅に達したるは疑なし。コーラン計算の家賃并に減額したる現在家屋價格は左表示す所の如し。

	家賃、磅	家屋價格、磅	人口	一人前平均、磅
シドニー	六〇七〇〇〇〇	五〇六〇〇〇〇〇	四二二〇〇〇	一二四
メルボルン	六九五〇〇〇〇	五八〇〇〇〇〇〇	四七五、〇〇〇	一二三
其他の都會	七、八五〇、〇〇〇	六五、四〇〇、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	五〇
合 計	二〇、八七〇、〇〇〇	一七四、〇〇〇、〇〇〇	二、二二〇、〇〇〇	七九

一人前平均家屋財産の割合は以上の減額シドニー并にメルボルンに於ては殆ど巴黎若くは倫敦に於けるものに均しく、而して實際是等の建築物は見る者をして其壯大に驚かしむるものあり。メルボルンの議事堂は二エーケルの敷地に跨がり、メンソーズ、ホテルの建築費は十五萬磅を費し、并が周圍の建物のみにて尙ほ四十九萬磅を費やせり。シドニーに在りても、八萬二千の戸數と、一千五百二十哩

の街路并に遊歩地を有して公私の建物亦頗る莊麗を極めたり。濠洲殖民地の家屋財産は例に依りて其價格を半分に計算するも、尙ほ富有全額の一割七歩を占むるに足る、而して此割合佛蘭西并に合衆王國に在つては二割一步と知る可し。

第八節 財政

第一款 歳入 三十箇年間の歳入は其額三倍を増加せり即ち左の如し。

一人前平均、志

關	稅	一八六五年	一八九四年	一八六五年	一八九四年
	稅	三二〇、〇〇〇	七七〇、〇〇〇	四〇	三八
土地	收入	二六〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	三二	二〇
	收入	九〇〇、〇〇〇	九四〇、〇〇〇	一一	四六
租稅	其他	二三〇、〇〇〇	八一〇、〇〇〇	三〇	三九
	其他	九〇〇、〇〇〇	八、一〇〇、〇〇〇	三〇	三九
合	計	九〇〇、〇〇〇	二九二〇、〇〇〇	一一三	一四三

三十年以前に在りては土地より生ずる收入は殆ど全歳入の三割なりしが、今日に至りては漸く減じて一割四歩となれり、而も尙ほ諸殖民地共に其財政に於ては些

の紊亂不便を惹起したるなし。一八九三年十二月より既往十箇年間に拂下たる土地は、殆んど二千萬エーケルに上り、其價格は二千二百萬磅に達せり、即ち一エーケル平均二十二志の割合なり。即ち當初より一八九三年十二月に至る間に拂下たる地面并に其價格は左に示す所の如し。

エーケル	ニウ、サウス、ウエールズ	トザイ	クインズ	合	計
價格、磅	二四、一〇〇、〇〇〇	一六、九〇〇、〇〇〇	二〇、七〇〇、〇〇〇	二九、八〇〇、〇〇〇	九一、五〇〇、〇〇〇
價格、磅	三六、七〇〇、〇〇〇	二五、六〇〇、〇〇〇	一三、五〇〇、〇〇〇	二二、二〇〇、〇〇〇	九七、〇〇〇、〇〇〇

借地人に貸付の分は六億八千六百萬エーケルを超へ其價格は二億六百萬磅に達す、即ち一エーケル平均六志、而して地代は總て一百九十五萬磅即ち毎年一エーケル平方哩に付き二磅の平均收入を穫る割合なり。一八九四年に於ける諸殖民地の歳入は左の如し。

一千磅

關	稅	土地收入	鐵道收入	雜收入	合計
ニウ、サウス、ウエールズ	二、一三〇	二、二一〇	三、二五〇	二、九五〇	一〇、五四〇
濠洲 財政 歳入					七三九

	一八七四年		一八九四年		一人前平均、磅
	磅	一人前平均、磅	磅	一人前平均、磅	
ザイクトリア	一七二〇	五〇〇	二七二〇	一七九〇	六七二〇
ニウ、マトラランド	一六六〇	三二〇	一、一八〇	一、五〇〇	四六五〇
クインスランド	一、〇八〇	五九〇	九三〇	七四〇	三、三四〇
南部、濠洲	五〇〇	二三〇	二、〇一〇	七九〇	二、五三〇
タスマニヤ	二九〇	六〇	一、五〇〇	二〇〇	七〇〇
西部、濠洲	三三〇	一〇〇	一、四〇〇	一、一〇〇	六八〇
合 計	七、七二〇	四、〇〇〇	九、三七〇	八、〇八〇	二九、一六〇

にして一八七四年以來實に四倍の多きに達せり即ち。

第二款 公債 最近二十箇年間に於ける公債の増額は實に驚く可きものにして一八七四年以來實に四倍の多きに達せり即ち。

クインスランド	五、二〇〇、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇	三五	七四
南部、濠洲	三、〇〇〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇	一四	六五
タスマニヤ	一、五〇〇、〇〇〇	七六〇、〇〇〇	一四	五〇
西部、濠洲	一、〇〇〇、〇〇〇	二九〇、〇〇〇	四	四四
合 計	四六、二〇〇、〇〇〇	二一、〇四〇、〇〇〇	二一	五二

如何なる邦國に於ても一人前平均五十二磅といふ多額の公債を負擔するはなし。ウオトルロー戦争後の合衆王國に於ける公債負擔額は最高無比と稱したるも、尙ほ且つ一人前平均四十八磅に過ぎざりき。今日歐洲諸國の公債負擔額は一人前平均僅に十五磅に過ぎず。然れ共濠洲に於ける公債中其六割は國有鐵道を代表するものにして、鐵道より生ずる純益は鐵道經費の三步を得るものたるを知る可し。故に該鐵道に投じたる資本を減ずるときは、濠洲の公債は八千四百萬磅即ち一人前平均二十磅となり、合衆王國の國債と地方債との合計高に比すれば頗る少額なりと謂はざる可からず。次に又借地人に貸與せる土地は確に二億磅の價格を有し、殆ど濠洲の公債全額を償ふに足るものたり。尙ほ濠洲に於ける富有額は

一人前平均二百五十六磅なるを以て、之より一人前平均公債高五十二磅を差引くも尙ほ二百四磅の餘剰を生ず。斯の如きは世界各國に於て決して見る可からざる類例なり。更に公債負擔年額如何と觀るに佛蘭西に於ては歳入全額の三割九歩、加拿陀に於ては三割三歩、大不利顛に於ては三割あるも、濠洲に在ては僅に二割七歩即ち五百四十萬磅に過ぎざるなり。

第二款 負擔

租稅并に公債の負擔は甚だ輕少にして、租稅年額は僅に一千七十萬磅即ち人民の利得高の五歩に當たる、之を合衆王國に見るに王國にては實に八歩の負擔なり。又以上示す所の公債額は僅に八千四百萬磅なるを以て合衆王國に於ては其額、純富有の八歩五厘に當たるも、濠洲に於ては九歩の負擔に過ぎ。固より七殖民地に在りては开が利得高並に富有額に比して租稅并に公債の負擔に非常の差違あるは免れざるなり。今若し國有鐵道を度外に置きて單に殖民地に於ける純富有額并に租稅公債の負擔額のみを計算せば即ち左の如くなる可し。

	百萬磅		百萬磅	
	富有額	公債	利得高	租稅
ニウ、サウス、ウエールズ	三三三	一六	五七	六七二
ヰイクトリア	二四五	一〇	四一	六五八
ニウ、ジーランド	一五〇	二五	一六六	三四一
クインスランド	九七	一五	一五五	二三一
南部 濠洲	七九	九	一一四	一四〇
タスマニヤ	二八	四	一四三	六九
西部 濠洲	一三	二	一五三	三九
合 計	九四三	八四	八九	二五〇

前表に據れば公債額は、ニウ、ジーランド并にクインスランドに在つては他の殖民地に比すれば甚だ多額なるを見るべし。又租稅負擔額は西部濠洲を除けば一般に少額にして五歩乃至八歩の割合たるに過ぎず。斯くの如き輕稅は世界稀に見る所なれども、一旦必要の場合に際會せば濠洲人民は尙ほ二千萬磅即ち現在納稅

領の倍額を支拂ふの餘力あり。
前陳公債中には三千萬磅の市債并に地方債は除却したり、若し之を合算すれば濠洲に於ける公債全額は即ち开が富有額の一割以上に上る可し。

第二十一章 南部阿弗利加

第一節 人口并に働力

ケープ、コロニーとは古來唱へ來れる名稱にしてオレンツ河の南方一帶の地に蜿蜒し、東は印度洋に面し、西に大西洋を控ゆ、廣袤二十四萬一千方哩に跨り、疆域獨逸帝國より廣しとす。ナタル地方は一八五六年に於て分割したるなるも今尙相連絡せるを以てケープ、コロニーの一部を成せるものと見るを可とす。此地たる元來森林河沼に富みたる而已ならず、平原亦少からず、殊に英領南阿弗利加の如きに在つては、何れの地點よりして濠洲又は加拿陀の諸港に到らんとするも海程僅に四百哩を過ぎざるが故に交通亦甚だ便なり。英領殖民の先登と云ふ可きは一八二〇年ケープタウンに到着せるものにして、此中多數は蘇格蘭人なりしも其後陸續其他の者も到着せり。然れ共此地が世界の要地として知らるゝに至りたるは、實に一八六七年に於けるキンクバレーの金剛石原の發見以後の事なり。人口は一八五〇年以來五倍の増加を致せり。

白人 黑人 合計

一八五〇年.....九五,〇〇〇 三一〇,〇〇〇 四〇五,〇〇〇

一八九三年.....一,〇〇〇,〇〇〇 一,一三〇,〇〇〇 二,一三〇,〇〇〇

此地にはクープタウン、キンバレイ、エリザベス港、ダルバンの四大都會ありて人口は總て十六萬餘にして即ち全人口の七歩を占む大概農事に従へり。

一八五〇年の統計表に據れば、女子の數は男子百人に對し百十六人の割合なりしか一八九一年には二者同數となれり。

致働力一日分の平均用量は十九億ワット噸を有し、其五分の一は十萬馬力の蒸氣力にして此中凡そ十分の九は皆鐵道機關車用となす。

第二節 農業

第一款 牧畜 南部阿弗利加の地たる殊に牧畜事業に適したるを以て其

利益亦甚だ多し。十八世紀の頃には既に二千萬エーケルの牧場を設けたる者ありて最初は綿羊を輸入し來りしなり。一八一〇年に至り始めて當地の羊毛が倫敦に着荷したる際には既に當地の牧業が如何に進歩したるかを示すに至れり。

一八三三年に於ける羊毛輸出高は五百噸なりしも今日に至りては四萬噸以上に達し、其中一萬一千噸は一八六一年始めて輸出の道を開きたるナタル羊毛なりとす。近年に至り羊の飼養法大に發達し、羊毛産額一八六五年に在つては平均三封度二分の一なりしが、近年に及びては同じく五封度以上となれり。諸種の家畜數は固より未だ濠洲若くは亞爾然丁のには及ばざるも、最近五十箇年間に於ては頗る増殖したる者と知るべし。

	牛、頭數	綿羊、頭數	山羊、頭數	馬、頭數
一八四〇年.....	三〇七,〇〇〇	二,三四〇,〇〇〇	三九〇,〇〇〇	五七,〇〇〇
一八九三年.....	二,六九〇,〇〇〇	一七,七五〇,〇〇〇	五九六,〇〇〇	四三〇,〇〇〇

一八六〇年スミルナよりアングラ山羊を輸入して之をして土着の山羊に羣尾せしめて蕃殖の道を講じたるも、爾後二十年間は未だ些の進歩を見る能はざりしも、一八八〇年以來は長足の進歩を爲して一八九四年に於ては獸毛の輸出高四千五百噸以上に達し此價格四十五萬磅に當るに至る。駝鳥の飼養も亦一種の産業にして之に關しては種々の工夫を凝らしたりと雖も、其羽毛産額は價格に於て之を

二十年前に比すれば漸く當時に於ける五分の一に當るに過ぎざる有様なり。

駝 鳥

羽毛、封度

價格、磅

一八七四年	……………	三三〇〇〇	三七〇〇〇	二二〇〇〇〇
一八九四年	……………	三三〇〇〇〇	三五〇〇〇〇	四八〇〇〇〇

一八九四年に在つては牧畜場の箇數は一萬六千二百箇所にして此面積八千四百萬エーカーに及び一箇所平均五千二百エーカーの割合にして、一箇所に付き馬二十七頭、牝牛百七十頭、山羊三百七十頭、綿羊一千百頭を飼養せる勘定となる。而して牧畜業者自己に屬する分は僅に五千四百箇所にして都合二千四百萬エーカーとなし、此他は皆他人の地所を使用せるものにして、此面積六千萬エーカーに及ぶ。

第二一欸 耕作 一八四三年に於ける英人の旅行記に據れば、耕作の事は農業中にては殆ど牧畜業の副業と云ふべき有様にして、開は一八二〇年ウイテンヘ

イヨアルベニ、並にソマレストの地に於て、リバープール卿の企圖に依つて成れる蘇格蘭農民を移住せしめたるより始まりたるが如し。記に曰く、英國政府は此殖民を爲さんが爲めに僅に五萬磅を費したるに過ぎざるも、既に二十三年後の

今日に在つては果して如何の結果を得たる、見よ漠たる荒野は悉とく變じて庭園都會、耕作地となり、曾て人跡を留めざりける寒村、阪地も今や既に産業の地となりて繁昌せり、而して其産物の價格は優に十萬磅を超過するに至れり、加之ならず、正當の法律行はれ、教育盛に宗教廣布して爲に四隣を感化する者幾許ぞ。此の如き有様は世界の殖民地に於て殆ど類似を見ざる所のものなりと。一八九三年に於ては收穫地はケープ、コロニー、并にナタルを合算して百五十四萬エーカーにして、此中穀類收穫地は九割を占む、尤も穀類の供給は需用を充たすに足らざれども、今は其不足高は決して十年前に於ける如く多額に上るとなし。斯くて一八八三年に於ける消費高は二十二萬噸にして、其中七萬四千噸は外國輸入品を仰ぎたりし、一八九三年に至つては消費高三十一萬噸となり、此の中輸入に仰ぎたるは六萬噸に過ぎざりき、換言すれば此地の住民は十年前に在ては輸入の穀物に依頼すると一年中四箇月間の割合なりしも、一八九三年に及びては僅々七十日間にして足るに至れり。即ち山野到處に黄金、金剛石等に富みたる土地なるにも拘はらず、此状態を呈したるは耕作上の一大進歩と謂ふ可きなり。四十年前に在つては此地

の氣候と地味の工夫よりして一時人々葡萄培養の事に望を属したり、即ち十八世紀の頃にはケイプタウン附近のコンスタンチヤの葡萄園の如きはマラカに於けると同様の良果を結びたりしも、爾後漸次發達の望断えて、今は其の輸出頗る衰頽に及べり即ち。

ガ	一八五八年	一八九四年
ロ	九五〇、〇〇〇	八五、〇〇〇
價 格、 磅	一四〇、〇〇〇	一九、〇〇〇

アルゼリヤに於ては一八五六年始めて葡萄を培養したるが、其後非常の衰頽を見ず、現今に於ても其産額は年々八千萬ガロンに上れり。ケイプの葡萄園は三萬エーシャルの面積を有し、現在の産額は四百五十萬ガロンに及び、之を一八七五年に比較すれば一百万ガロンを増加したる勘定なり。耕作物の産額價格は概略左の如きあり。

羊	ケイプ、磅	ナタル、磅	合 計、磅
毛	一、六〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇

穀 物	一、〇〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
雜 類	三、四〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
合 計	六、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇

農業資本額は大略六千五百萬磅にして此中五千一百萬磅はケイプ、コロニアに、一千四百萬磅はナタルに屬し、之が産物の價格は其資本に割合すれば濠洲に於ける一割八歩、加拿陀に於ける一割九歩に對し一割二分五厘の割合なり。

第三節 製造業

一八三四年當殖民地に現存せる諸機械工場は百七十箇所にして、之が産額價格は漸く二十萬磅に過ぎざりしも、一八九一年に至つては二千二百三十箇所となり、之に使役する労働者の數は三萬三千人而して此産額價格は一百五十六萬磅に上れり。又同年に於ける製粉場醸造所、鞣皮場并に其他諸製造所の評定價格は四百九十萬磅にして、之を労働者の數に割當つる時は一人に付き百五十磅の割合に上れり。此他製造貨物の輸入高は年々六百萬磅に及ぶを以て製造品の消費金額は一千万餘にして人口一人前平均五磅の消費額となるなり。

第四節 鑛業

第一款 石炭

此地に於て始めて石炭を發見したるは一八四五年クロープタウン附近なるウインパルクに於てしたる者是なり。其後三十年を経て英國の一會社はナタル官廳の許可を得て、ダルバン附近の炭鑛採掘に従事せしが現今に在つては其採掘高年々平均二十萬噸に及ぶ、即ち當殖民地に消費する石炭中凡そ半額を供給するを得るなり、而して其他は皆英克蘭よりする輸入に仰げり。

第二款 銅

銅坑の發見は一八五〇年に在り、而して一八五八年以來は銅の輸出額價格にして九百五十萬磅に達し、又産出の最も多かりし一八八八年の如きは四萬噸の鑛石を得、此價格九十萬磅に達したるが、一八九四年に及びては大に衰頹して採掘鑛石は二萬七千噸にして價格三十萬磅を下るに至れり。

第三款 金剛石

此發見は一八六七年ヴァール河畔なるキンパレーに於てしたるを始とす。此地はエリザベス港の北方四百哩の所にあれ共、一八六九年に至るまでは何人も之が採收を試みたるものなかりき。而して其發見當時に於ては金剛石の市價は八十三カラツツに付一百磅に値せり、爾來二十五箇年間に

於ける産額を示さん左の如し。

年々平均産額、磅	價格、磅	カラツツ
自一八六九年至八三年	二八、九〇〇、〇〇〇
自一八八四年至九四年	四〇、五〇〇、〇〇〇	三三、三〇〇、〇〇〇
二十五箇年間	六九、四〇〇、〇〇〇

右坑夫の數は一萬八千人にして此半は白人種にして他はパスウトス人なり。而して年々の産額は坑夫一人前平均二百二十磅に當るものとす。此等の金剛石塊にして最も高價なりしものは、一八七二年十一月に賣拂ひたるゼ、スチエワード金剛石と稱するものにして、其重量は二百二十八カラツツを有して其大さ世界現在の金剛石中第四位に居るものとす。近年に至りては此等の金剛石の性質益々良好を加へ、一八九〇年以來一カラツツの價格一八八四年乃至八六年に在つては二十二志に當りし者も今は二十六志に増加せり。金剛石の産出の最高度に達したるは一八八八年にして重量に於て三百八十萬カラツツ、價格に於て四百二萬磅を産出したるが、其後一八九四年には大に減退して重量は二百五十萬カラ

ツツに降り、価格は減じて三百一萬磅となれり。然も此等金剛石産出の結果として、一八七五年以來は世界の金剛石の價格に一大影響を及ぼして、其價格頓に其三分の一を下落するに至れり。而して此豊土たる西クリクオランダの境界よりオレンツ自由國に入ると數哩の間に亘るを以て數年の間には到底金剛石を採收し盡す能はざるは明白なり、今クリク、コロニー并にナタルに於ける鑛物の全産額は年々四百二十萬磅とす。

第五節 通商

第一款 外國貿易 外國貿易は一八六〇年以來五倍の増進を致せり即ち。

	輸入、磅	輸出、磅	合計、磅
一八六〇年	三、〇〇〇、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇
一八九四年	一三、八〇〇、〇〇〇	一四、九〇〇、〇〇〇	二八、七〇〇、〇〇〇

然れども右一八九四年の統計表は甚だ信を措くに足らざるものあり、何となれば此中にはトランスバール并にオレンツ自由國の陸上貿易をも包含すればなり。

即ち其輸出額中には七百四十萬磅の金塊并に沙金をも算入したればなり。故にクリク、コロニー并にナタルに於ける實際の貿易額は、輸入一千一百萬磅にして輸出七萬磅となり合計一千八百磅即ち人口一人前平均八磅の割となる可し。

第二款 海運 移住民の所有船舶は五十三艘にして之が登録噸數は合して五千噸、而して運搬力は一萬五千噸なり。又入港船舶は沿海貿易を除き二百四十萬噸と算へらる、此中九割迄は英國船と知る可し。

第三款 內國貿易 此貿易全額は凡そ二千八百萬磅、此中農産物は八百萬磅、製造品は五百萬磅、鑛産物は四百萬磅、輸入品は一千一百萬磅の割たり。

第四款 鐵道 鐵道は一八七三年六十四哩を敷設したるを始めとし、一八九三年十二月末に至つては延長全線二千八百四十哩に及び、此敷設費二千七百七十萬磅を要す、即ち一哩平均九千七百磅に當たる。而して延長二百哩の一鐵道を除くの外は悉く國有線にして此中にはナタルに於ける四百哩をも含蓄せり。一八九五年に於てはクリク、タウンの幹線を延長し、オレンツ自由國を貫きトランスバールの首府ヨハネスブルヒに到る七百哩の線路を敷設し、同年又ナタルに於て

もタルパンよりヨハネスナルヒに到る四百八十哩の敷設を終れり。クープ線は一哩に付八千八百磅、ナタルの諸線は一萬五千磅の費用を要せり。而して开が純益は資本額に對し國有線はクープに在りては五歩五厘、ナタルに在りては三步五厘即ち兩者を通算すれば殆んど五分八厘を保てり。今兩殖民地にクープの平均營業報告を示さん左の如きあり。

	クープ、磅	ナタル、磅	平均、磅
總 收 入	一、二四〇	一、二〇〇	一、二五〇
營 業 費	六七〇	六七〇	六七〇
純 益	四七〇	五三〇	四八〇

以上は總て國有鐵道に關するものなり、二百哩の會社線に就ては一も統計の徴すべきなし。

第五款 銀行 銀行融通力は殆ど九百萬磅に達し、其預金高は八百五十萬磅、此中クープ、コロニーの分は六百五十萬磅にしてナタルの分は二百萬磅なり。

第六節 利得并に富有

第一款 利得

人民の利得高は大概左表示す所の如し。

	クープ、磅	ナタル、磅	合計、磅
農 業	三六〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇
製 造 業	二四〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇
鐵 業	四〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇
貿 易	二四〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	二八〇,〇〇〇
運 輸	二五〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	二九〇,〇〇〇
家 賃	一一〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇
僕 婢	七〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇
公 務	二六〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	三二〇,〇〇〇
諸 職 業	一九〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇
合 計	二,二二〇,〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇

以上は一人前平均僅に十一磅に過ぎずといへども、全人口中五割五歩は黑人種たるを記憶せざるべからず、若し此人種に分配するに總利得全額中四分の一を以て

せんか、殘餘一千八百七十萬磅は即ち白人の利得にして一人前平均加拿陀に於ける三十七磅に對し殆ど十九磅の割合となるなり。

第一欸 富有 一八三四年ヘアラーが計算する所に據れば、此地の富有額は六百四十萬磅とあり。又一八八三年に於ける官廳の評定價格に據れば、クープ・コロニーをナタルを除くの土地並に家屋を三千七百八十萬磅と見積りたり。今一八九四年に於ける富有全額を示さんに大略左の如きあり。

	クープ	ナタル	合計
土 地	二七	八	三五
家 畜 其 他	二四	六	三〇
鐵 道	二二	六	二八
家 屋	一〇	三	一三
商 品	一一	三	一四
雜 類	二四	六	三〇

百萬磅

合 計……………一八

三二

一五〇

第一 土地 此地の面積殆ど五分の四は叢林にして、占有地の面積は二千九百萬エロクトルにして、此價格は三千五百萬磅に値す即ち。

	耕・作 地	牧 畜 地	合 計
エロクトル	一、五四〇、〇〇〇	二、七五〇、〇〇〇	二、九〇四、〇〇〇
價 格、 磅	七、七〇〇、〇〇〇	二、七五〇、〇〇〇	三、五、二〇〇、〇〇〇

クープ・コロニーに在りては良好の地は久しき以前に於て已に占有に歸したるも、官有地は多く内部偏僻の地に在るを以て今日尙ほ一エロクトルに付き一志を以て賣買せらる。然れ共ナタルの官有地は大抵海岸を距ると二百哩を過ぎずして幾多の便宜を有するが故に、一エロクトルに付き十志以下にては決して賣買せらるゝを得ず。一八八三年に於ける官廳の評定價格に基きたる前掲土地の計算中には、借地人に貸與の分面積六千萬エロクトル價格一千萬磅の王室の土地并に七千萬エロクトルの山林原野及び實價なき土地を除きたりと知る可し。

第二 家屋 一八八三年に在つてはクープ・タウン・エリザベス港并にキャンパレ

に於ける家屋は價格にして八百六十萬磅なりしも、今日に於ては最早一千萬磅に達したる可し。

第七節 財政

第一款 歳入 兩殖民地の歳入全額は一八六〇年に於ては八十萬磅、一八九四年に於ては六百三十萬磅、又一八九五年に在つてはケープ、コロニーの分五百三十萬磅、ナタルの分一百萬磅に達したり。而して其二分の一は鐵道收入を以て支辨し、他は租税及び國有地收入を以て填補せり。租税の高は二百二十萬磅即ち人民利得高の九歩に相當すと云へり。借地より得る所は一エーケルに付き一片の割にして此は濠洲に於けると相均し。

第二款 公債 公債は大半は國有鐵道敷設の爲に生じたる者なるが、一八八〇年以來殆ど三倍の増加を見るに至れり。

	ケープ、磅	ナタル、磅	合計、磅
一八八〇年	一、四〇〇,〇〇〇	一、六〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇
一八九四年	二、七七〇,〇〇〇	八、一〇〇,〇〇〇	三、五八〇,〇〇〇

公債額は一人前平均十六磅に相當す。然れ共今若し右公債額中より國有鐵道費に要したる分を除却する時は全額九百萬磅に過ぎずして、一人前平均僅に四磅の割合となり、恰も此殖民地の富有額七歩に相當すと知る可し。

第二十二章 亞爾然丁 第一節 人口

此地は西班牙領亞米利加共和国中最も重要な地にして十四州九領地の聯合より成り面積佛蘭西に六倍し人口四百萬を有す即ち。

方	哩	人口	一方哩平均人口
ピュートノ、アイル	一〇六、〇〇〇	一、五八四、〇〇〇	一五
サンタ、フェ	三六、〇〇〇	四〇四、〇〇〇	一一
イントルリオ	三八、〇〇〇	三〇二、〇〇〇	八
其他諸州	一〇三、〇〇〇	一、六八〇、〇〇〇	一
合 計	一、二一〇、〇〇〇	三、九七〇、〇〇〇	三

一八六九年の統計表に據れば當時は一百八十三萬七千の人口を有したれ共其後の増減を察するに現今は七十七萬の移住民と一百三十六萬三千の出生増加を見るを得べし。今日までに移住したる實際の人口數は一百八十一萬人なりしも其五割八歩は或は死亡し或は歐洲に歸去つたるものゝ如し。又現今に至る二十六

箇年間に於ける自然増加數は年々五萬二千人にして即ち一千人に對する増加は濠洲に於ける二十一人、加拿陀に於ける十四人に對し十六人の割たり。

此中外國に出生したる人員凡そ一割八分を占む、就中四十五萬人は伊太利人にして、殘餘三十二萬人は其他諸國の人民にして此中二萬五千人は英人とす。ピュートノ、アイル、イントルリオ、並にサンタ、フェの地方にあつては、女子百人に付き男子百二十二人の割合なり。此は全く男子に比して女子の移住者少かりし結果に外ならざるとは、既往三十年間の記録に女子廿七人に付き、男子七十三人の割を以て來住したりとあるに徴して明なり、之に反して高部地方に於ては、女子の數遙に男子に超過せり。ピュートノ、アイルは人口總數四百萬の國にありては殊に大なる都會にして、其人口は該共和國全人口の六分の一を有し、一八六九年に於ては十七萬七千人なりしも、一八九五年に至りては六十六萬三千人となりたり。此は管に南半球に於ける最大都會たるのみならず、合衆國を除けば亞米利加中無比の大都會たり。然るに一八七八年貿易上保護主義を採用したるが爲め、一千二百四十箇所の大製造所を創設するとなり、遂に之れが人類の健康上に大害を及ぼし以

て人口の増殖を阻礙するに至れり。尙又此の如き多數の人口を有する都會あると同時に、他の一面には一方哩に付き僅に五人を有せざる地方も亦甚だ多しとす。

第二節 農業

第一款 耕作 二十年前に在りては耕作の業は甚だ幼稚にして、共和國中の各地方の収益は全く牧畜に存するのみなりき。一八九五年に至りては牧畜業の産額は既に第二位に居るに至れり。今穀類收穫地の面積を示さんに左の如きあり。

小 麥	雜 類	合 計
一八七四年……………二七〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	八二〇〇〇〇
一八九四年……………七三〇〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	一二四五〇〇〇〇

一八八〇年に至る迄は、人民は主として合衆國より輸入の穀類に頼りて生活し、内地産のものは漸く二ヶ月間の食用を維持するに過ぎざりき。然れ共最近十箇年間に在つては穀類の輸出高は増加して、一八八九年乃至九三年の五箇年平均高九

十二萬噸の割合を爲すに至りたるが、其が四分の三は即ち小麥なり。一八九四年に於ける耕作地の面積を示さんに大略左の如きあり。

小 麥	雜 類	合 計
ピュノ、アイル……………二四二〇〇〇〇	三二二〇〇〇〇	五五四〇〇〇〇
サンタ、フェ……………三八〇〇〇〇〇	九〇〇〇〇〇〇	四七〇〇〇〇〇〇
其他の地方……………一〇八〇〇〇〇	一、一三〇〇〇〇〇	二、二一〇〇〇〇〇
合 計……………七三〇〇〇〇〇	五、一五〇〇〇〇〇	一二四五〇〇〇〇〇

亞爾然丁の地たる殊に農作に適せるものとは謂ふ可からず、尤もピュノ、アイル、サンタ、フェ、イントルリオ、コルリエレッツ、ミツシヨンス、タクマイン並にサルタの如きは頗る沃野に富むと雖も、此等の地方は斷へず旱魃に加ふるに蝗虫の害あるを以て、氣候頗る順なる時に於ても其の收穫甚だ少くして一エーカー平均小麥收穫高十ブッシュェルを越ゆるは稀なり。但しメンドサ并にサンチャインの如き灌漑に便なる地方は三十ブッシュェルの收穫あるが普通なり。葡萄園は其産額に

於ても其廣袤に於ても、之を十年前に比すれば儘に二倍を増進し現時に於ては廣袤十萬エーケルに付き葡萄酒一千五百萬ガロンを得る割合にして、此高は幾ど需用の半を充たし一人前平均七ガロンに當たる。而して此供給不足を補充する爲に人造葡萄酒の製造頗る巧妙なれ共之れが爲に人命を傷ふに至れり。砂糖は一八八〇年以前に在つては殆ど之を製作するとなかりしが、外國産の輸入に對し従價税として十割の苛税を課したるが爲に内地の製作に利益を與ふるに至り爲に現今に於ては六萬噸の多額を産出す。タクマインの如きは實に砂糖産出全額の三分の二を産出せり。ルサルン、又はアルファは主要の産物にして之が爲めに二百萬エーケルの土地を使用せり。

耕作器械の良好なるものは皆英米より輸入せられたる者にして、三十萬の伊太利瑞西并に日耳曼移民は悉く之を使用せり。此地に於て一劃五千エーケルの小麥畑を見るとは決して珍らしからずして、是等の所有主は大概未だ二十五年を経ざる當時に在て一弗の金錢をも携えずしてヒュノ、アイルに上陸したる者たりと知る可し。然れ共當初に於ては穀類耕作地中多分は一八八五年以來十箇年間收

穫の一半を地主に上納する契約を以て此等無資の者が借受けたる者に屬し、其割合は一人前平均六十エーケルとなれり。爾後此等の土地は終に借主の所有に歸したるなり。又嘗て地主等は移住民に對し、六歩利付五箇年若くは十箇年賦拂の方法により一エーケルに付一磅の價を以て賣却し、若くは一エーケル二志の割を以て貸下けんど企てたるも、斯くては小作人たる者は數年の後は遂に此等の土地をして荒廢せしめん憂ありしが爲めに此法は實行に及ばずして已めり。經驗家の言に據れば、小麥一噸四磅即ち英の一クォーターに付十六志の價格を以て、之を鐵道停車場附近に賣却せんには多少の利潤を得べし、而して一噸を産出するには凡そ四エーケルの土地を要するを以てし、價格一磅の小麥は一エーケルの土地に於ける産出の分を知るべしと。

第一欸 牧畜 牧畜は耕作に比すれば風土氣候甚だ適したるを以て开が産出價格も亦頗る大なり。今一八六四年に於けると、一八九四年のとを比較すれば、其間牛馬に在りては二倍、綿羊に在りては殆ど四倍の増加を示せり。

馬 牛 綿 羊 價 格、 磅

一八六四年	三、八七〇、〇〇〇	一〇、三三〇、〇〇〇	三三、一〇〇、〇〇〇	三二、八〇〇、〇〇〇	
一八九四年	四、四四〇、〇〇〇	二二、八七〇、〇〇〇	八〇、三三〇、〇〇〇	五二、五〇〇、〇〇〇	
馬	九、六〇〇、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇	九、一七〇、〇〇〇	二二、八七〇、〇〇〇	
牛	六、三、八〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇	一〇、八〇〇、〇〇〇	八〇、二〇〇、〇〇〇	
綿 羊					
其他の地方					
合 計					

前表に觀れば畜類の増殖頗る多きに拘はらず。开が價格は比較的に少きを知るべし。例令へば一八六四年に於ける家畜の價格は一人前平均二十磅なりしも、今日に在つては僅に十三磅に過ぎず。牧場の個數は一八七〇年の年末に至る過去二十箇年間に六倍の増加を見たるも、今日より既往二十五箇年間の増加は未だ二倍に達せず。パンバスの地は綿羊の飼養に適して二億の綿羊を放つに足るべき所なり。尙又古來牧畜に富むの地方はヒュノノ、アイル并にイントルリオの地と知る可し即ち。

羊毛の産額は一八五〇年に在つては九千噸なりしも、一八七〇年に至つては六萬

一千噸に上り、現時は平均十六萬噸となれり、即ち濠洲に於ける五リアラ半に對し四リアラ半の割合を有したるなり。然れ共フレート河産の羊毛は之を洒し上ぐる時は原量中三割五歩を減ずるも濠洲のは五割五歩を減ず。故に兩者を比較すれば百頭の亞爾然丁綿羊よりは洒羊毛百六十リアラを得るに過ぎざるも、濠洲のは三百リアラ即ち幾ど二倍を得る割合なり。然れ共亞爾然丁に於ける綿羊業は濠洲に於けるものに比すれば稍や便益を有せり、即ちパンバスの牧場は一方哩中一千二百頭の綿羊を放つことを得るも、濠洲に在りては僅かに三百頭を驅るを得るのみ。加ふるに亞爾然丁に於ける牧場地は一方哩平均六十磅の價格なれども、濠洲に在りては四百磅の價格を有せり、而して濠洲の牧場は屢々用水の欠乏を告ぐるに反し、パンバスに於ては地を穿つと三十呎を超へずして何の場所にも水を得ると容易なり。

ヒュノノ、アイルに於ける綿羊牧場の最良なるは皆愛爾蘭並に蘇格蘭の移民の所有に係れり。領事クーパー氏が一八七二年に於ける報告に據ればヒュノノ、アイルに於ける牧畜利益の増進は専ら愛爾蘭移民の力に依る者なり」と云へり、又大

守サトベドテ氏も亦愛爾蘭人の牧場が頗る進歩の有様なるを説きたり。此等の移民は大抵五萬頭乃至十萬頭の綿羊を飼養せり。牛馬の牧場は大概亞爾然丁人の手に歸し、其一牧場の廣表は通例一百方哩に亘り、此中一萬頭の牛、二千頭の野馬を放ち、更に之を二千箇の小群に分ち、一群に付き二人の飼養者を付せり。耕作並に牧畜の産額は價格にして四千六百萬磅に値す即ち。

	産額、磅	内地消費高、磅	輸出額、磅
穀類	一五〇〇、〇〇〇	九二〇〇、〇〇〇	五八〇〇、〇〇〇
雜類	九〇〇〇、〇〇〇	八五〇〇、〇〇〇	五〇〇〇、〇〇〇
羊毛	八〇〇〇、〇〇〇	一〇〇〇、〇〇〇	七九〇〇、〇〇〇
獸肉	九七〇〇、〇〇〇	七三〇〇、〇〇〇	二四〇〇、〇〇〇
獸皮類	四三〇〇、〇〇〇	二五〇〇、〇〇〇	一八〇〇、〇〇〇
合計	四六〇〇、〇〇〇	二七六〇、〇〇〇	一八四〇、〇〇〇

亞爾然丁に於ける農業産額一人前平均高は濠洲に於ける十七磅、合衆國に於ける十二磅に對し十一磅の割合なり。耕作地及び牧畜資本は一八九〇年に在つては

其價格一億九千八百萬磅に上り、之に對する産出全額の割合は濠洲に於ける一割八歩、加拿陀に於ける一割九歩、合衆國に於ける二割に對し二割三歩の割を示せり。

第三節 製造業

一八八七年の統計に徴すれば、ヒュノ、アイルの市街には一千二百四十箇所の製造所ありて四萬二千三百人の労働者、六千三百馬力の蒸機力を有し、九百五十萬磅の原料を消費せり。されば此等の製造所は従て三千萬磅の價格を有するを推知す可し。ヒュノ、アイルに存在する製造所は全共和國に於ける諸製造所中四分の三を占めたるを以て、全國の製造所は正に四千萬磅の價格を有するものぞ知る可し。

第四節 鑛業

現世紀に於ける最初の鑛業者はアマチナ鑛業會社にして、此は一八二四年に渡來したる倫動の某資本家の設立に係るものなりしが、其社長は三年以後銃殺せられて其事業も終に放擲せらるゝに至れり。次に一八六一年サンシャーンに於けるトンタルに在る銀山採掘を企る者あり、又一八七三年サンルイに於けるコロラ

イナ金鑛の探掘の計畫ありたり。鑛業局長ホスコールド氏はサンシャインの鑛物は頗る豊富なりと考ふる者の如し。夫のカタマールカに於けるラフォーン氏のインシャイニオ銅の如きは、四十年間断えず採掘する所にして、該鑛石より得る所の棒銅はその二割に當たる。一八六九年リツカードの報告に據れば、亞爾然丁に於ては二千七百人の鑛業者ありて其採掘する所、價格にして年々九萬磅即ち一人前平均三十三磅に過ぎずとあり、鑛業の振はざる以て知る可し。後サンシャイン并に其他の鑛業地方には鐵道の開通あるに至りたるも、鑛業はリカードの時よりして漸次に衰頽して、鑛物并金屬の輸出額は僅に七萬磅に當たるに過ぎず。一八九五年乃至九六年の交に在りては、チユバットの綿羊業家テカ溪よりフオンタナ湖に到るアンデイーンの傾斜地附近に於て幾多の金坑を發見したるあり。

第五節 通商

第一款 外國貿易 官報に據れば此國の貿易額は半世紀間に在つて九倍の増加を示せり即ち。

輸入、磅 輸出、磅 合計、磅

一八五〇年……………二、一〇〇、〇〇〇 二、二〇〇、〇〇〇 四、三〇〇、〇〇〇
 一八九三年……………一、九二〇、〇〇〇 一、八五〇、〇〇〇 三、七七〇、〇〇〇

然れ共一八八〇年以來に於ける官報の計算は頗る其當を失し輸入額多きに過ぎたりと知る可し。一八九三年十二月に至る既往五個年間に於ける大不列顛佛蘭西、獨逸、白耳義、及び合衆國よりせる輸入全額は亞爾然丁税關の帳簿面に於ては八千八百七十萬磅とあるも、之を右諸國の輸出表に檢するに右積荷の價格は七千六十萬磅なるが故に、亞爾然丁に到着の上運賃及び税金をも更に此一割を加ふるものとすれば都合七千七百七十萬磅の數字を示す可し。故に輸入に於ける亞爾然丁の計算中よりは、開が八分の一を刪除せざる可からず、然らば即ち一八九三年十二月に至る既往五個年間の貿易全額は即ち左表示す所の如くなる可し。

名目上の價格、磅 實際價格、磅

輸入……………一、二二〇、〇〇〇 九八、〇〇〇、〇〇〇
 輸出……………一、〇六六、〇〇〇、〇〇〇 一〇六六、〇〇〇、〇〇〇

輸出は不幸にして輸入に超過したれ共此は全く大統領が採る所の方針にして、蓋

し財政上の目的に出てたるものなれば亦已むを得ざるなり。最近五個年間に於ける貿易平均額は左の如し。

	輸 入、磅	輸 出、磅	合 計、磅	割 合
大 不 利 顛	七四〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	一一〇〇、〇〇〇	二六九
佛 蘭 西	二八〇、〇〇〇	五四〇、〇〇〇	八二〇、〇〇〇	二〇・一
獨 逸	二〇〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	四七〇、〇〇〇	一一・四
白 耳 義	一七〇、〇〇〇	二九〇、〇〇〇	四六〇、〇〇〇	一一・二
其 他 諸 國	五七〇、〇〇〇	六七〇、〇〇〇	一二四〇、〇〇〇	三〇・四
合 計	一九六〇、〇〇〇	二一三〇、〇〇〇	四〇九〇、〇〇〇	一〇〇・〇

ピュノ、アイル市は共和國全貿易額中其七割、ロサリオは一割五歩を占めたりと知る可し。

第二欸 海運 亞爾然丁の商船は一百七十隻にして开が登録噸數は六萬噸にして運搬力は十六萬噸なり。

第三欸 内國貿易 は農産物四千六百萬磅、製造品四千萬磅輸入品一千九

百萬磅にして合計一億五百萬磅、而して之が一人前平均高は加拿陀の四十磅、濠洲の四十八磅に對し二十六磅の割合なり。

第四欸 鐵道 一八五七年ピュノ、アイルよりフロリスに至る六哩の線路を敷設したるを始めとし、爾來鐵道の敷設甚だ緩慢なりしを以て、一八七七年に至る二十個年間に於ける全延長は僅に一千三百哩に過ぎざりき。然れ共當時以後は長足の進歩をなし、一八九四年十二月に於ては八千五百哩の線路地方の貨を敷設し八千八百萬磅の費用を費せり。軌道の最も廣きは六十六吋の線路なれども、イントル、リオ并にコルリエントの如きは五十六吋半、チャコー、タクマーン并に其他の諸線は三十九吋半なり。一八九三年に於ける營業報告を以て濠洲并に南阿弗利加の收支に比較するに左の如きあり。

	亞爾然丁、磅	濠 洲、磅	南阿弗利加、磅
總 收 入	五二一	七九八	一、一五〇
營 業 費	三〇一	四九七	六七〇
純 益	二二〇	三〇一	四八〇

第二十二章 亞爾然丁 内國貿易 鐵道

七七五

右の如くなるを以て鐵道資本に對する純益の割合は濠洲の三步、併に南阿弗利加の五步に對して二步に當れり。此中或線路の如きは數百哩間に亘るあり、或は發着點の一定せざるが如きありて些の收入を得る能はず、單に臨時に營業するに過ぎず、但し此の如きは政府の保證を受くるものなるが故に國庫の負擔は爲に少からずと知る可し。一八九三年に於ては四個の線路は全く運轉費を償ふに足らざりき、而して此延長は六百四十哩餘に亘れり。之に反して或路線の如きは毎年敷設費に對し三步以上の純益を收むるに足るものありて、開が延長三千三百哩に亘れり。而して官線は三百十哩を除く外は全く私設會社に拂下げたり。

第五款 銀行 此國には十四箇の國立銀行と三十八箇の他種類の銀行あり。金銀貨を見るときは至つて稀にして通貨の流通高は名目上英貨三億磅相當の不換紙幣のみにして其實價は六千萬磅に値するに過ぎず、從つて金貨引換率は甚だ高くして五十五志の紙幣を以て、金貨一ソペレンを買得する有様なり。此他セヂュエラと稱する四億五千萬磅の補助貨の在るありて、開が全額英貨九千萬磅に當るも、其種類品位の多様なるを以て中には二十磅のセヂュエラにして僅に二十

志に賣買せらるゝもあり。銀行紙幣并にセヂュエラは合計七億五千萬磅を發行せり。

第六節 利得并に富有

第一款 利得并に富有 の概算は左の如きあり。

利得	百萬磅	富有	百萬磅
農産物	二八	土地	一二九
製造品	二〇	家畜類	六九
貿易	一〇	鐵道	八八
運輸	一一	製造所	一三
家賃	七	家屋	九四
僱婢	五	器具	四七
公務	五	商品	五三
諸職業	九	雜類	一三三
合計	九五	合計	六一六

利得一人前平均高は加拿陀の三十六磅、合衆國の四十四磅に對し二十四磅に當り又一人前平均富有額は加拿陀の百九十六磅、濠洲の二百五十六磅に對し百五十四磅なり。

第一款 土地

土地の價格は各地方に依りて均しからず、ビュノ、アイル地方に於ては一エーケル二磅なるも遠隔地方に在つては僅に一志に過ぎず。又サンタフェ并にイントル、リオ地方に於ては十志乃至二十志の價格を有し、其他は通例四志となす。前表示す所の一億二千九百萬磅と云ふは單に實際占有に歸したる土地、二億五千一百萬エーケルに對する評定價格と知る可し。又此一エーケル平均價格は十志以上の割合となる。此外尙ほ一億九千三百萬エーケルの未占有地ありて、此は早晚必ず一エーケル四志の價格を生ず可きを以て、其價格は都合三千八百萬磅となるべし。但し此中には無論三億三千三百萬エーケル餘に當る荒原、山野等無價格の土地を加算せざる者と知る可し。

第二款 家屋

ビュノ、アイル市の家賃全額は、一八八七年に在つては五百六十萬磅に及べり。其の後人口に四割の増加を來し、家屋の建築亦益々多きを

加えたるも、開が賣買價格は低落して一方フットに付き三割方を減少したるを以て、現今に於ては其資本額は無慮八千萬磅に當るも、其家賃全額は猶ほ一八八七年に於けるが如し。又他の市街は總て人口に於ては、ビュノ、アイルに於ける九割に相當するも、家屋の價格に至てはその三割三步を超えざる可し、即ち二千七百萬磅に當るに過ぎず、故に之をビュノ、アイルのに合算すれば都合一億七百萬磅となるべし。又ビュノ、アイルに於ける一人前平均家屋財產價格は即ちモントリールに於ける一百十磅、シドニーに於ける一百二十四磅に對し一百二十一磅の割と知る可し。

第七節 財政

今三十箇年に於ける歳計全額を示さん左の如きあり。

	自一八六四年至七五年	自一八七六年至八五年	自一八八六年至九三年	合計
入	三三	四七	五六	一三六
出	四四	五四	八八	一八六
歳計				七七九

百萬磅

第二十二章 亞爾然丁 土地 家屋 財政

歳出は歳入に比して五千萬磅の超過あり、而して公債全額は一八六三年に於ては五百萬磅なりしも、一八九四年に至ては五千五百萬磅となれり此中四千四百萬磅は外債にして一千一百萬磅は内債なり、此は近年當局者の報告に基けりと知る可し。尙別に政府の保證に係る所の紙幣六千萬磅ありと雖も、此は無論右公債額中に合算せず。其他十四箇所の地方并にビュノリアイル、ローサリオ等の都會は皆獨立の歳計并に公債を有す。故に此等の地方歳入并に地方債をも合算する時は一八九四年に於ける分は左の如きあり。

中央國家の分、磅	各地方の分、磅	合計、磅
歳入……………七、八〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	一〇、一〇〇、〇〇〇
公債……………五、五二〇、〇〇〇	三、七二〇、〇〇〇	九、二四〇、〇〇〇

國家歳入中八割二歩は關稅徵收額に屬す。而して租稅全額は國稅并に地方稅を合算すれば九百二十萬磅なるを以て、之を人民の利得高に割當つれば濠洲に於ける五歩、加拿陀に於ける四歩五厘に對して一割弱に當る勘定なり。又富有額に對する公債の割合は濠洲の一割、加拿陀の八歩に對して一割五歩に當ると知るべし。

第二十三章 ウルグエイ

第一節 人口

此地は南亞米利加中最小の國なりと雖も、風土氣候并に地理上の地位に至つては頗る良好なり。开が面積は葡萄牙の二倍即ち七萬二千方哩にして、人口七十三萬を有し、恰も一方哩平均十人の割合に過ぎざるも、智利を除けば南米大陸に在ては人口最も稠密の所とす。一八六〇年に於ては僅々二十二萬人に過ぎざりしも、今日に於ては既に其三倍に達せり、而して此増加を致したるは二十一萬八千人の移民と出産増加數二十九萬二千人を得たるに由る。此地は一八三六年より一八五二年に彌りて斷えざりける夫のオリブ將軍とリーベラの「長期戦争」の爲に頗る荒廢に屬したりき。一八九〇年より既往五箇年間の生死表を見れば、毎千人に付き出産數は四十人にして死亡數は十九人乃至二十一人なり。本土人は人口全數中殆ど六割を占め、他の一割五歩は伊太利人にして、殘餘二割五歩は即ち西班牙人佛蘭西人其他に屬す。都會モントヴィドリの人口は一八五八年以來四倍を増加し、今は二十四萬人ありて之が半數は歐羅巴人なり。

第二節 農業

第一款 耕作 一八五〇年カナリ島并に伊太利より渡來したる移民は、モントヴイドー附近のクローンローンの方面に開が住居を定め、一八五七年中には又た他の移民のコロニヤ附近ウォールデンシヤンに住するありて耕作の業蓋し是れより始められり。今耕作地の面積を示さん左の如し。

エーケル

穀類	雜類	合計
一八五五年……………	七〇〇〇〇	一八〇〇〇〇
一八九四年……………	二三四〇〇〇	一、二四〇、〇〇〇

穀物類收穫高は年々平均二十萬噸にして此中四分の三は小麥に屬す、而して耕作産物の全價格は二百萬磅に上れり。

第二款 牧畜 此地に在つても牧畜の利益は甚だ多く、其が資本たる牛馬は五百四十萬頭、綿羊は一千五十萬頭に上れり。一八六〇年以來綿羊の數は四倍の増加を致したるも、牛に至つては其數に増減なかりき。然れ共歲月漸く移るに

從ひ、後者は此地主要の産物となりたるも前者は遂に第二の地位に下るに至り、全く亞爾然丁に於けると反對の有様となれり。

官廳の評定價格に據れば此地に於ける家畜の價格は合計一千五百四十萬磅にして、其が一人前平均高は濠洲の三十磅、亞爾然丁の十三磅に對し廿一磅の割なり。又羊毛剪採高は二萬五千噸即ち綿羊一頭に付き亞爾然丁の四封度半に對し五封度半、然も毛質亦亞爾然丁の比すれば頗る良好にして、酒羊毛を得ること亞爾然丁の三割五歩に對し四割五歩の多きあるを以つて、百頭のウルグエー綿羊よりは酒羊毛二百五十封度の生産あるも、亞爾然丁のは僅かに百六十封度を得るに過ぎず。牧畜産額は價格にして六百萬磅、之に耕作産物の價格を合すれば八百萬磅に達す、而して農産物の輸出額は年々五百八十萬磅に及べり。

此地元來地味、氣候の殊に耕作牧畜に適するを以て常に食品に餘裕を生ず、加ふるに森林湖沼多くして無數の河川全國に縦横し、國內到る處海岸を距る百五十哩を超ゆる者なきが故に自から輸出の便を得、年々僅に小麥に於て四萬噸、肉類に於て十四萬噸を輸出せり。

第三節 製造業並に鑛業

第一款 製造業

盛大此地唯一と云ふ可きはフライベントスに於けるリ
ーピックの製造所とす。此は一八六三年「ピーフ、エキストラクト」を製造する爲め
に創設したるものにして、八百人の職工を使役し、毎日一千頭の家畜を屠殺す。其
他モントヴィドー并に他の都會に於ても、普通の小工場許多ありて、始ど二萬人の
職工を有せり。

第二款 鑛業

マルドナードに於ては大理石を産出せるが此は時々モン
トヴィドーに於ける公共の建築に使用せり。一八五九年伯刺西の境界に於て金
坑を發見し、過る十年前英國の某會社が機械を据付くるに至りしも、其後此は遂に
佛蘭西會社の手に歸したり。最近五箇年間に於ける开が産額は年々平均四千五
百オンスにして此價格一萬五千磅に當る。尙又サルトー附近に於ては許多の瑪
瑙を發見せり。

第四節 通商

第一款 外國貿易

此地の貿易額は二十年間に於て僅かに五割の増加

をなしたるも、之を人口の増加に比較し一人前平均額を見るに、一八七三年に於て
は十八磅の割なりしも、今日に在つては却つて十四磅の割に過ぎざるに至れり即
ち。

輸・入、磅 輸 出、磅 合 計、磅

一八七三年.....三、六〇〇、〇〇〇 三、一〇〇、〇〇〇 六、七〇〇、〇〇〇

一八九三年.....四、二〇〇、〇〇〇 五、九〇〇、〇〇〇 一〇、一〇〇、〇〇〇

貿易品に對し保護的輸入税を課したるを以て遂に貿易禁遏の結果を來し、従つて
諸般の進歩又阻害を被れり。一八九三年十二月より既往五ヶ年間の平均貿易額
を見るに左の如きあり。

輸 入、磅 輸 出、磅 合 計、磅 割 合

大 不 利 顛.....一、五〇〇、〇〇〇 九〇〇、〇〇〇 二、四〇〇、〇〇〇 二一七

佛 蘭 西.....七〇〇、〇〇〇 一、二〇〇、〇〇〇 一、九〇〇、〇〇〇 一七三

伯 刺 西.....四〇〇、〇〇〇 九〇〇、〇〇〇 一、三〇〇、〇〇〇 一〇九

此 他 諸 國.....二、七〇〇、〇〇〇 二、七〇〇、〇〇〇 五、四〇〇、〇〇〇 四九一

合 計……………五三〇〇〇〇〇 五七〇〇〇〇〇 一七〇〇〇〇〇 一〇〇〇

第一款 内國貿易 此全額は一千七百萬磅にして一人前平均二十三磅

即ち亞爾然丁に於けると同一割合なり。

第三款 鐵道 中央ウルグエー線は一八六七年始めて敷設したりと雖も、

サントラシヤに至る四十哩の開通ありたるは實に一八七二年以後に在り。今日に於ては既に一千六十哩の鐵道を敷設し、爲に一千一百万磅の費用を擲てり。又諸會社は政府より年々四十萬磅の保證を受け來りたるも、一八九二年に於ては政府は財政困難を豫想したるを以て之を二十萬磅に減額せり。又資本額に對する純益は、亞爾然丁の二歩に對し殆ど一歩半にも達せざるなり。今开が一哩平均營業比較を示さんに左の如し。

總收入、磅

營業費、磅

純益、磅

ウルグエー……………三八一 二三五 一四六

亞爾然丁……………五二一 三〇一 二二〇

英國の株主は此等の鐵道の爲に多額の損耗をなしたりと雖も、今を以て二十三年

前鐵道開始の當時に比すれば、人口殆ど二倍を増加したるが故に、此地に取りては諸般の便益を得たるものと云ふ可し。

第四款 銀行 一八八七年乃至八九年に起れるワイルド、キヤトと稱せる

一種の投機は非常の恐慌を惹起し、幾多の國立銀行倒産し、爲に數千の職人并に民を驅つて悉く悲境に沈淪せしめたるあり。今貨幣の總額幾許と云ふに、凡そ四百萬磅にして此中多分は金貨にして一切不換紙幣なし。

第五節 利得并に富有

第一款 利得并に富有 人民の利得并に富有は概略左の如し。

利得	磅	富有	磅
農業……………	六、四〇〇、〇〇〇	土地……………	四、二三〇、〇〇〇
通商……………	三、四〇〇、〇〇〇	家屋……………	三、一二〇、〇〇〇
公務……………	一、八〇〇、〇〇〇	鐵道……………	一、一〇〇、〇〇〇
其他……………	五、〇〇〇、〇〇〇	雜類……………	三、五五〇、〇〇〇
合 計……………	一、六六〇、〇〇〇	合 計……………	一、二〇〇、〇〇〇

第一款 不動産 一八九〇年に於ける土地の評定価格は二千三百十萬磅、家屋のは三千一百二十萬磅、合計不動産五千四百三十萬磅なり即ち。

所有主數	不動産價格、磅	所有主一人前平均、磅
本土人	二五、二〇〇、〇〇〇	一、二五〇
伊太利人	七、二〇〇、〇〇〇	八七〇
西班牙人	六、四〇〇、〇〇〇	九〇〇
伯刺西人	七、五〇〇、〇〇〇	一、六三〇
佛蘭西人其他	八、〇〇〇、〇〇〇	一、五九〇
合計	五四、三〇〇、〇〇〇	一、二四〇

土地賣買上の評定價格は一エーケル平均十志なるも、其地は一磅以下を以てしては買得する能はず。又土地の面積は四千六百十萬エーケルと云ふ。モントツイドーに於ける家屋財産は一八九一年に於ては二千六百八十萬磅、即ち一人前平均百十三磅の割となれり。此外二十四箇所の小都會に於ける家屋價格は合計四百四十萬磅、即ち一人前平均五十五磅の割なり。以上不動産の全額は富有の總額中

四割五分を占めたり、但し此割は亞爾然丁に在つては三割八分なり。

第六節 財政

過去四十三年間の歳計を示さんに左の如し。

歳	入	出	歳	入	出	合計	
自一八八一年	二五、一〇〇、〇〇〇	三五、四〇〇、〇〇〇	自一八八一年	二五、一〇〇、〇〇〇	三五、四〇〇、〇〇〇	六〇、五〇〇、〇〇〇	
至一八八〇年	三六、七〇〇、〇〇〇	四三、九〇〇、〇〇〇	至一八九三年	三六、七〇〇、〇〇〇	四三、九〇〇、〇〇〇	八〇、六〇〇、〇〇〇	
歳出は歳入を超過すると三割三步とす。公債額は一八五〇年に在つては二百萬磅なりしも、一八九四年に至りては一躍して二千二百萬磅に増加せり。元來此國の歳計豫算の編制たる幾分の歳入剩餘を示すが常なるも、年度末に至れば大抵反對の結果を生ず。従つて歳入には信を置くに足る可きも、歳出に至りては大に疑ふ可きものありとなす。今一八九三年の歳計を示さんに左の如きあり。							
關稅	一、八〇〇、〇〇〇	公債	一、一〇〇、〇〇〇	雜收	一、九〇〇、〇〇〇	行政費	二、四〇〇、〇〇〇
歳入	三、七〇〇、〇〇〇	歳出	三、五〇〇、〇〇〇				

租稅徵收高は三百四十萬磅即ち國民の利得中濠洲に在つては五歩亞爾然丁に於ては一割を占むるものに對し二割一步の割たる有様なり。公債は倫敦に於て募集したるもの二千七十萬磅、モントヴィドーに於て募集したるもの一百五十萬磅、合計二千二百二十萬磅なり之を國民の富有に見るに濠洲に於て一割、亞爾然丁に於て一割五歩に當れるに對し一割八分五厘の割たるを知る可し。

比較表

第一表 國力比較

	面積、方哩	人口	利得、百萬磅	富有、百萬磅	蒸氣力、馬力
合衆王國	二、一〇、一〇〇	三九五〇、〇〇〇	一、四三三	一一、八〇六	一一、九七〇、〇〇〇
佛蘭西	二〇四、一〇〇	三八四〇、〇〇〇	一、二九九	九、六九〇	四、九一五、〇〇〇
獨逸	二〇八、七〇〇	五二二〇、〇〇〇	一、二八四	八、〇五二	七、六五〇、〇〇〇
露西亞	一、九五六、〇〇〇	一〇五八〇、〇〇〇	一〇〇四	六、四二五	二、七九〇、〇〇〇
奧地利	二四〇、九〇〇	四三四〇、〇〇〇	七〇七	四、五二二	二、三九〇、〇〇〇
伊太利	一、一〇、六〇〇	三二二〇、〇〇〇	四三六	三、一六〇	一、三七〇、〇〇〇
西班牙	一、九四、九〇〇	一七六〇、〇〇〇	二七三	二、三八〇	一、一三〇、〇〇〇
葡萄牙	三二、五〇〇	四、七〇〇、〇〇〇	六四	四、一一一	一、四〇〇、〇〇〇
瑞典	二九五、〇〇〇	六、九〇〇、〇〇〇	一四二	七九〇	七九〇、〇〇〇
挪威	一四八、〇〇〇	二二〇〇、〇〇〇	六〇	五〇六	二、三〇〇、〇〇〇
荷蘭	一、二六、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	一二四	八八〇	五八〇、〇〇〇

比較表 國力比較

國名	人口			平均人口
	都會	村落	合計	
白耳義	114,000	640,000	754,000	792
瑞 西	160,000	300,000	460,000	792
多惱部	105,400	114,000	219,400	792
希 臘	25,000	220,000	245,000	792
歐羅巴	354,800	369,700	724,500	792
合衆國	297,000	707,000	1,004,000	792
加拿陀	331,400	510,000	841,400	792
濠 洲	316,000	420,000	736,000	792
亞爾然丁	122,000	400,000	522,000	792
合 計	1,310,200	4,537,000	5,847,200	792

（二萬人以上の人口を有する市邑を都會とし他は皆村落となせり）

一方哩平均人口

國名	都會	村落	合計
合衆王國	206,000	1,720,000	1,926,000
一八二一年			1,896,000
一七二二年			330,000

第二表 都會并に村落人口

國名	都會人口	村落人口	合計人口	平均人口
佛蘭西	920,000	292,000	1,212,000	147
獨 逸	1,560,000	366,000	1,926,000	130
露 西 亞	1,090,000	869,000	1,959,000	26
奧地利	560,000	358,000	918,000	101
伊 太 利	530,000	254,000	784,000	140
西 班 牙	290,000	147,000	437,000	61
葡 萄 牙	400,000	430,000	830,000	109
瑞 典	1,000,000	580,000	1,580,000	12
那 威	1,000,000	580,000	1,580,000	12
丁 抹	500,000	170,000	670,000	73
荷 蘭	180,000	290,000	470,000	198
白 耳 義	170,000	460,000	630,000	298
瑞 西	500,000	250,000	750,000	127
多惱部	900,000	105,400	1,005,400	60
希 臘	300,000	190,000	490,000	44

比較表 都會并に村落人口

七九三

歐羅巴	七七二〇〇〇〇〇	二八〇〇〇〇〇〇	三五七二〇〇〇〇	五八	一〇四
合衆國	一七四〇〇〇〇〇	四五二〇〇〇〇〇	六二六〇〇〇〇〇	六	二四

第三表 業務類別

(一千人單位)

	農業	製造業	通商其他	合計	百分割合
合衆王國	二五三〇	九〇三〇	五二六〇	一六八二〇	四四・四
佛蘭西	七三二〇	四七二〇	五三五〇	一七二九〇	四五・三
獨逸	九三三〇	九二三〇	五三二〇	二三九〇〇	四五・八
露西亞	三四六五〇	七四七〇	六一八〇	四八三〇〇	四五・〇
奧地利	一二、九四〇	四六二〇	三、〇九〇	二〇、六五〇	四七・五
伊太利	六、八四〇	三四三〇	二、七九〇	一三、〇六〇	四三・〇
西班牙	四、〇八〇	一、七五〇	一、五〇〇	七、三三〇	四二・〇
葡萄牙	八七〇	四〇〇	四八〇	一、七五〇	三七・二
瑞典	一、四〇〇	五六〇	一、二六〇	三、二二〇	四七・三

七九四

丁抹	四〇〇	二五〇	三四〇	九九〇	四五・〇
荷蘭	四六〇	四〇〇	一三〇〇	二、一六〇	四六・〇
白耳義	七二〇	一、三八〇	八四〇	二、九四〇	四六・六
瑞西	四九〇	五二〇	二〇〇	一、二一〇	四〇・三
多惱部	三六八〇	七六〇	六九〇	五、一三〇	四五・〇
希臘	六六〇	一六〇	二六〇	一、〇八〇	四九・〇
歐羅巴	八六、二九〇	四四、六八〇	三四、八六〇	一六五、八三〇	四五・五
合衆國	一〇、七四〇	五、九五〇	一四、九二〇	三二、六一〇	四五・〇
加拿陀	一、二四〇	五四〇	七四〇	二、四二〇	四六・五
濠洲	四四〇	六三〇	七一〇	一、七八〇	四二・五
合計	九八、六一〇	五一、八〇〇	五一、二三〇	二〇一、六四〇	四六・三

第四表 動力

動力一日分平均用量百萬フット噸

比較表	業務類別	動力	人力	馬力	蒸氣力	合計	一人同平均 フット噸
合衆王國	三二〇〇	六、三三〇	五、一八八〇	六、一四一〇	七九五	一、五七〇

佛蘭西	三,五〇〇	九,三〇〇	一九,六六〇	三二,四六〇	八,四六〇
獨逸	四,二六〇	一一,五〇〇	三〇,六〇〇	四六,三六〇	九,〇〇〇
露西亞	九,一〇〇	六二,四〇〇	一一,二〇〇	八二,七〇〇	七,八〇〇
奧地利	三,五三〇	一〇,七〇〇	九五,六〇〇	二二,七九〇	五,六〇〇
伊太利	二,七五〇	三,八〇〇	五,四八〇	一一,〇三〇	四,〇〇〇
西班牙	一,五九〇	二,六四〇	四,五二〇	八,七五〇	五,〇五〇
葡萄牙	三,五〇〇	四,二〇〇	五,六〇〇	一三,三〇〇	二,九〇〇
瑞典	六〇〇	一,九五〇	三,一六〇	五,七一〇	八,三〇〇
挪威	二〇〇	一,二四〇	九〇〇	二,三四〇	一,〇六〇
荷蘭	四二〇	八一〇	二,三〇〇	三,五三〇	七,五〇〇
白耳義	五六〇	八一〇	三,八〇〇	五,一七〇	八,三〇〇
瑞西	二七〇	三〇〇	一,五二〇	二,〇九〇	七,〇〇〇
多惱部	一,〇二〇	二,八六〇	七,四〇〇	四,六二〇	四,〇五〇
希臘	二〇〇	三〇〇	七〇〇	一,二〇〇	五,五〇〇

七九六

歐羅巴	三二,五五〇	一一五,三六〇	一四六,五八〇	二九三,四九〇	八〇〇
合衆國	六,四〇〇	五四,六〇〇	六七,七六〇	一二八,七六〇	一,八五〇
英領殖民地	八一〇	九,九二〇	七,九八〇	一八,七一〇	二,〇二〇
合計	三八,七六〇	一七九,八八〇	二二二,三三〇	四四〇,九六〇	九,九〇

第五表 蒸氣力 (一八九五年)

有效馬力、一千馬力單位

	据付機關用	鐵道用	汽船用	合計
合衆王國	二二,〇〇〇	四,八〇〇	五,九七〇	三二,七七〇
佛蘭西	八,二五〇	三,六〇〇	四,九〇〇	一六,七五〇
獨逸	二二,〇〇〇	四,五五五	八,九五〇	三五,一〇〇
露西亞	三,五〇〇	二,二〇〇	二,四〇〇	八,一〇〇
奧地利	四,八〇〇	一,七八〇	一,三〇〇	七,四八〇
伊太利	一,六〇〇	一,〇〇〇	二,一〇〇	四,七〇〇
西班牙	五〇〇	六〇〇	四八〇	一,五八〇

比較表 蒸氣力

七九七

葡萄牙	五	一一〇	一五	一四〇
瑞典	四〇	三三〇	四二〇	七九〇
那抹	一〇	八〇	一四〇	二三〇
荷蘭	八〇	三二〇	一八〇	五八〇
白耳義	三八〇	五〇〇	七〇	九五〇
瑞西	四〇	三四〇	—	三八〇
多惱部	—	一八五	—	一八五
希臘	—	四〇	一三五	一七五
歐羅巴	六八二〇	二〇,四五〇	九,三七五	三六,六四五
合衆國	三,九四〇	一〇,八〇〇	二二,〇〇	一六,九四〇
加拿陀	三二〇	六〇〇	二五〇	一,一七〇
濠洲	二六〇	三八五	一八〇	八二五
合計	一一,二四〇	三三,三三五	一一,〇〇五	五五,五八〇

七九八

第六表 蒸氣力の増加

	一八四〇年	一八六〇年	一八九五年
合衆王國	六〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二二,九七〇,〇〇
佛蘭西	九〇,〇〇〇	一一五,〇〇〇	四,九一五,〇〇
獨逸	四〇,〇〇〇	八五,〇〇〇	七,六五〇,〇〇
露西亞	三〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二,七九〇,〇〇
奧地利	三〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	二,三九〇,〇〇
伊太利	二〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	一,三七〇,〇〇
西班牙	一〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	一,一三〇,〇〇
スカンデナヴィヤ	五〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一〇,二〇〇,〇〇
荷蘭	一〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五八〇,〇〇〇
白耳義	四〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇	九五〇,〇〇〇
其他諸國	五〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	八八〇,〇〇〇

有効馬力

比較表 蒸氣力の増加

七九九

諸國	第七表 動力に要する一日分平均費額			噸片
	人力、磅	馬力、磅	蒸氣力、磅	
歐羅巴	八八〇,〇〇〇	六,二〇〇,〇〇〇	三六,六四五,〇〇〇	八〇〇
合衆國	七六〇,〇〇〇	三五〇〇,〇〇〇	一六,九四〇,〇〇〇	
諸殖民地	一〇〇,〇〇〇	二三〇,〇〇〇	一,九九五,〇〇〇	
合計	一,七四〇,〇〇〇	九,八五〇,〇〇〇	五五,五八〇,〇〇〇	
合衆王國	一,三七〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	六五〇,〇〇〇	一千七百噸片
佛蘭西	一,二六〇,〇〇〇	三四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	八百
獨逸	一,二二〇,〇〇〇	三二〇,〇〇〇	三八〇,〇〇〇	九百
埃地利	一,〇一〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇	九百
伊太利	七五〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	八百
西班牙	五四〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	八百
葡萄牙	二六〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	八百
スカンデナヴィヤ	二六〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	八百
白耳義	一八〇,八〇〇	二〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	八百

諸國	第八表 鑛業林業并に漁業産額			噸
	一年平均、百萬磅單位	鑛業	林業	
其他諸國	一九八〇,〇〇〇	一〇,九〇〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇	八四
歐洲	八,四六〇,〇〇〇	二六〇〇,〇〇〇	一,八三〇,〇〇〇	一〇五
合衆國	三,三八〇,〇〇〇	一,八二〇,〇〇〇	八五〇,〇〇〇	一一一
加拿陀	二五〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	一一三
濠洲	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	九一
合計	一二,二九〇,〇〇〇	四,六六〇,〇〇〇	二,七八〇,〇〇〇	一〇七

諸國	比較表 動力に要する一日分平均費額 鑛業林業并に漁業産額			噸
	鑛業	林業	漁業	
合衆王國	七八	二	七	八七
佛蘭西	一六	一四	五	三五
獨逸	三四	一三	一	四八
露西亞	一一	四〇	二	五四
埃地利	一〇	一八	一	二八

比較表 動力に要する一日分平均費額 鑛業林業并に漁業産額 八〇一

國名	一年平均、百萬磅單位			
	貨物	鐵道 乘客	船舶	道路
スカンデナヴィヤ	二			五
白 耳 義	一〇			
其他諸國	七			四
歐 洲	一六九			二四
合 衆 國	九四			一〇
加 拿 大	五			四
濠 洲	一四			一
合 計	二八二	二五八	三九	五七九
佛 蘭 西	四六	三八	五四	三一
佛 蘭 西	三二	二二	五	六六
獨 逸	五二	一九	七	六二
合 衆 王 國	四六	三八	五四	三一
佛 蘭 西	三二	二二	五	六六
獨 逸	五二	一九	七	六二
合 計	二八二	二五八	三九	五七九

第九表 運賃取得

國名	單位百萬エークル				
	穀類地	全收穫地	牧畜地	森林	山岳其他
露 西 亞	二八	七	三五	三	七〇
埃 地 利	二五	七	三三	一	四三
伊 太 利	六	四	一〇	三	三四
其他諸國	一九	二	三一	一四	九四
歐 洲	二〇八	一一〇	三二八	八九	四〇〇
合 衆 國	一六六	五七	二二三	二三	八一
加 拿 大	七	三	一〇	三	八
濠 洲	六	三	九	二	七
合 計	三八七	一七三	五六〇	一二七	四九六
露 西 亞	二八	七	三五	三	七〇
埃 地 利	二五	七	三三	一	四三
伊 太 利	六	四	一〇	三	三四
其他諸國	一九	二	三一	一四	九四
歐 洲	二〇八	一一〇	三二八	八九	四〇〇
合 衆 國	一六六	五七	二二三	二三	八一
加 拿 大	七	三	一〇	三	八
濠 洲	六	三	九	二	七
合 計	三八七	一七三	五六〇	一二七	四九六

第十表 耕作地并に荒地面積

國名	單位百萬エークル				
	穀類地	全收穫地	牧畜地	森林	山岳其他
合衆王國	八九	二〇一	二七六	三〇	二六三
佛 蘭 西	三六六	六六九	二三一	二〇七	一九八
合 計	四六五	八七〇	五五七	三〇七	四六三

比較表 運賃取得 耕作地并に荒地面積

獨逸	三三〇	六五二	二二七	三四五	一一一	一三三五
露西亞	一七二八	二五五〇	三三四〇	四九八〇	二五四〇	一三四一〇
埃地利	四一九	五二三	三三一	四三〇	二二一	一四九五
伊太利	二〇四	三八二	一四八	一〇一	七七	七〇八
西班牙	二〇八	三三二	二一〇	一六四	五五五	一二五一
葡萄牙	二六	三九	七七	一二	八〇	二〇八
瑞典	四六	九〇	六一	六四四	一一〇九	一九〇四
那威	三〇	四五	二六	〇六	一七	九四
荷蘭	一四	二三	二八	〇六	二一	七八
白耳義	二四	三七	一八	一一	〇六	七三
瑞西	〇九	一三	三九	二一	二九	一〇二
多惱部	一七九	二三一	二〇九	一〇二	一四〇	六八二
希臘	一二	二三	五九	二〇	五七	一五九
歐洲	三七三四	五八〇〇	五二七二	七〇八〇	五四二四	二三五七六

合衆國	一五〇〇	二二五五	一三二五	四六六〇	一〇九八〇	一九二二〇
加拿陀	九八	一九九	一五三	一二五〇〇	八三四八	二、二〇〇
瀛洲	五三	一六三	八〇二〇	一八〇〇	一〇二四八	二〇三三〇
亞爾然丁	九五	一二五	二三八〇	四一五	四八二〇	七七四〇
合計	五四八〇	八五四一	一七二五〇	二六四五五	三九八二〇	九一九六六

(穀類地は勿論收穫地の中にも包抱せり)

第十一表 穀類通常收穫 (均一八九二年至九五五年)

百萬ブツシエル單位

	小麥	大麥	燕麥	玉蜀黍	ライ麥 其他	合計	平均 ブツシエル
合衆王國	四九	七三	一六七	—	一一	三〇一	三四
佛蘭西	三〇三	四四	二二六	二七	一三四	七二四	二〇
獨逸	一三三	一〇四	一七六	—	二八〇	六八二	一八
露西亞	三三三	二三六	五九〇	一〇五	八六七	二、二二〇	二二
埃地利	一九六	一一三	一七〇	一三六	一六五	七八〇	一九
比較表 穀類通常收穫						八〇五	

伊太利	一三三	八	一八	六八	一七	二三三	一一
西班牙	八八	五九	一三	四二	三一	二二二	一一
葡萄牙	八	二	一	一四	五	三〇	一一
瑞典	四	一七	七〇	一四	三七	二二八	二八
那威	四	二	一	一	二八	二二八	二八
丁抹	四	二一	三一	一	二八	八四	二八
荷蘭	五	五	一五	一	一六	四一	三〇
白耳義	一八	三	二六	一	二七	七四	三一
瑞西	二	二	三	一	三	一〇	一一
多惱部	一〇一	四六	一八	一〇一	二二	二七八	一五
希臘	七	三	一	四	二	一六	一三
歐洲	一三五	七三六	一五三	四九七	一六三六	五七三三	一六
合衆國	四六七	八八	七二四	二二五一	四五	三五七五	二四
加拿陀	四八	一八	一〇四	七	二四	二〇一	二〇
澳洲	三八	二	一七	九	一	六六	三三

亞爾然丁 七七
 合 計 一九八一
 頭數、千頭單位
 馬 牛 羊 豚 山羊
 價 格
 百 萬 磅
 一 三
 一 八

第十二表 家畜

合衆王國	二二〇〇	一〇,九〇〇	三〇,九〇〇	四,二〇〇	六〇〇	二〇二
佛蘭西	三,一〇〇	一三,九〇〇	二〇,七〇〇	六,一〇〇	一五〇〇	二二二
獨逸	三,八〇〇	一七,六〇〇	一三,六〇〇	二,一〇〇	三,一〇〇	三〇三
露西亞	二〇,八〇〇	二七,六〇〇	四八,二〇〇	一〇,七〇〇	一三,〇〇	三五〇
奧地利	三,六〇〇	一四,二〇〇	一四,四〇〇	九,一〇〇	一四,〇〇	一六一
伊太利	一,二〇〇	五,〇〇〇	六,九〇〇	一,八〇〇	一,八〇〇	九二
西班牙	九〇〇	二,一〇〇	一六,五〇〇	一,九〇〇	二,八〇〇	四六
葡萄牙	一五〇	六〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	九〇〇	一一
瑞典	六五〇	三,五〇〇	二,七〇〇	八〇〇	四〇〇	四一
那威

比較表 家畜

一八〇七

國名	牛肉	羊肉	豚肉	合計	一人前平均封度
丁抹	四〇〇	一七〇〇	一三〇〇	八〇〇	二六
荷蘭	三〇〇	一五〇〇	七〇〇	一,一〇〇	二八
白耳義	三〇〇	一四〇〇	四〇〇	七〇〇	二二
瑞西	一〇〇	一,二〇〇	三〇〇	四〇〇	一八
多惱部	九〇〇	三六〇〇	一,三〇〇〇	二,三〇〇	四二
希臘	一〇〇	四〇〇	二,九〇〇	—	五
歐洲	三,八四〇〇	一〇,四二〇〇	一七,五五〇〇	五三,〇〇〇	一,五七九
合衆國	一八,二〇〇	五〇,九〇〇	四二,三〇〇	四四,二〇〇	四五一
加拿陀	一四〇〇	四,二〇〇	三,五〇〇	一,七〇〇	四七
濠洲	一,九〇〇	一三,三〇〇	一,二二〇〇	一,一〇〇	一三〇
亞爾然丁	四四〇〇	二,三九〇〇	八〇二〇〇	三〇〇	五一
合計	六四,三〇〇	一九五,五〇〇	四三三,七〇〇	一,〇〇三,〇〇〇	二,二四八

第十三表 肉類產額

國名	一年平均噸數				一人前平均封度
	牛肉	羊肉	豚肉	合計	
合衆王國	五九〇,〇〇〇	三二〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	六三
佛蘭西	七〇〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇	二九〇,〇〇〇	一二〇〇,〇〇〇	六七
獨逸	八八〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	四九〇,〇〇〇	一,五二〇,〇〇〇	六八
露西亞	一,三八〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	二,二九〇,〇〇〇	五〇
奧地利	七二〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	三六〇,〇〇〇	一二二〇,〇〇〇	六二
伊太利	二五〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	三九〇,〇〇〇	三〇
西班牙	一〇〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	五六
葡萄牙	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	四八
瑞典	一七〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	三三,〇〇〇	二三〇,〇〇〇	七三
那威	八五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三五,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	一三〇
丁抹	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	六〇
荷蘭	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	六〇
白耳義	七五,〇〇〇	五〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	三九

比較表 肉類產額

八〇九

地區	第十四表 每年平均產額價格				合計
	穀類	蔬菜	肉類	乳汁製產品	
瑞典西	六〇〇〇〇	五〇〇〇	一五〇〇〇	八〇〇〇〇	八一〇
多惱部	一七五〇〇〇	一五〇〇〇〇	七五〇〇〇	四〇〇〇〇〇	七八
希臘	二〇〇〇〇	四〇〇〇〇	—	六〇〇〇〇	六〇
歐洲	五三〇五〇〇〇	一九〇八〇〇〇	二一六七〇〇〇	九三八〇〇〇〇	五七
合衆國	二四一〇〇〇〇	三七〇〇〇〇	二〇五〇〇〇〇	四八三〇〇〇〇	一六〇
加拿大	二二〇〇〇〇	三五〇〇〇	六五〇〇〇	三一〇〇〇〇	一四〇
濠洲	二九〇〇〇〇	二六〇〇〇〇	二〇〇〇〇	五七〇〇〇〇	三二五
合計	八二二五〇〇〇	二五七三〇〇〇	四三〇二〇〇〇	一五〇九〇〇〇〇	七五
合衆王國	五〇	七六	五五	三三	二三〇
佛蘭西	一三〇	一五四	五六	四六	三〇
獨逸	一〇九	一五三	六三	六〇	三二

百萬磅、單位

地區	比較表 每年平均產額價格				合計
	穀類	蔬菜	肉類	乳汁製產品	
露西亞	二五八	一一二	八七	四五	三八
奧地利	一一〇	九〇	五一	三七	二一
意大利	五三	八八	二〇	二〇	二三
西班牙	三九	五五	二〇	一一	九
葡萄牙	五	一三	四	二	二
瑞典	一五	八	一一	八	四
挪威	一一	七	六	八	二
荷蘭	六	一一	六	一〇	二
白耳義	一一	一七	五	八	二
瑞西	二	七	四	六	一
多惱部	三八	一九	一六	六	四
希臘	二	七	三	一	一
歐洲	八五一	八一八	四〇七	三〇二	一八七
合衆國	二一七	二六九	一六三	八七	七七
合計	二五八	一一二	八七	四五	三八

八一一

地域	百萬元平均産額并に價格		百萬元平均		一エーケル平均、志	
	耕作地	農業地	耕作物	農産物	耕作地	農業地
加拿陀	二二	二二	一一	九	四	五七
濠洲	一〇	二二	八	七	三三	七〇
亞爾然丁	一五	九	一〇	一	一一	四六
合計	一一、二四	一一、二〇	五九九	四〇六	三三二	三五五一
合衆王國	二〇一	四七九	一二六	二三〇	一二六	九六
佛蘭西	六六九	九〇〇	二八四	四一六	八四	九二
獨逸	六五二	八六九	二六二	四一七	八一	九六
露西亞	二五五〇	五八九〇	三七〇	五四〇	二九	一八
奧地利	五二三	八五四	二一〇	三一九	八〇	七五
伊太利	三八二	五三四	二四一	二〇四	七四	七七
西班牙	三三二	五三二	九四	一三五	五九	五一

第十五表 一エーケル平均産額并に價格

地域	百萬元平均産額并に價格		百萬元平均		一エーケル平均、志	
	耕作地	農業地	耕作物	農産物	耕作地	農業地
葡萄牙	三九	一一六	一八	二六	九二	四五
瑞典	九〇	一五一	二三	四六	五一	六一
那抹	四五	七一	一九	三五	八四	九九
荷蘭	二二三	五一	一八	三六	一五六	一四一
白耳義	三七	五五	二九	四四	一五六	一六〇
瑞西	一三三	五二	九	二〇	一三三	七七
多惱部	二三一	四四〇	五七	八三	四九	三八
希臘	二二三	八二	九	一四	七八	三四
歐洲	五八〇〇	一一、〇七〇	一、六六九	二、五六五	五八	四七
合衆國	二二五五	三五八〇	四八六	八一三	四三	四五
加拿陀	一九九	三五二	三三	五七	三三	三二
濠洲	一九二	八一八二	二二	七〇	二八	二
合計	八四一六	二三、一八六	二、二一〇	三、五〇五	五三	三〇

第十六表 農業資本

比較表 一エーケル平均産額并に價格 農業資本

	價格、百萬磅				平均 勞働者一 人前平均
	土地	家畜	雜類	合計	
合衆王國	一六八六	二〇二	一八九	二〇七七	四三
佛蘭西	二五八〇	二三二	二八一	三〇九三	三四
獨逸	一九七七	三〇三	二三八	二五〇八	二九
露西亞	二一三	三五〇	二四七	二七一〇	五
奧地利	一四七三	一六一	一六三	一七九七	二一
伊太利	一、一八〇	九二	一三七	一三九九	二七
西班牙	一〇五六	四六	一一〇	一二二二	三三
葡萄牙	一三八	一一	一五	一六四	一四
瑞典	二二二	四一	二五	二七八	一八
那威	二〇五	二六	三三	二五四	三九
荷蘭	二四〇	二八	二七	二九五	三八
白耳義	三〇〇	三三	三三	三五四	六三
					四九二

	一千噸				合計
	穀類	馬鈴薯	肉類	葡萄酒類	
瑞西	一三八	一八	一六	一七二	三二
多惱部	四二〇	四二	四六	五〇八	一一
希臘	九四	五	一〇	一〇九	一四
歐洲	一三八二	一五七九	一五三九	一六、九三〇	一五
合衆國	三三三四	四五二	三七七	四、四二二	一一
加拿陀	二二〇	四七	二八	三〇五	九
澳洲	二二六	二二〇	三六	三九二	九
合計	一七、五九二	二、一九七	一、九八〇	二一、七六九	九

第十七表 食品產額

	比較表 食品產額				穀類換算量、噸
	穀類	馬鈴薯	肉類	葡萄酒類	
合衆王國	七五二〇	六一〇〇	一、一〇〇	—	一八、四〇〇、〇〇〇
佛蘭西	一八、二〇〇	一二、八〇〇	一、二二〇	八八〇	四〇、八〇〇、〇〇〇
獨逸	一七、〇四〇	三、一八〇〇	一、五二〇	八〇	四〇、六〇〇、〇〇〇
					八一五

露西亞	五三〇〇〇	一四一〇〇	二二九〇	七〇	七六、七〇〇、〇〇〇
奧地利	一九五〇〇	一〇〇〇〇	一二一〇	一二二	三三、六三〇、〇〇〇
伊太利	六七〇〇	七五〇	三九〇	七三〇	一七、三三〇、〇〇〇
西班牙	五、八〇〇	一、五〇〇	四三〇	五九六	一五、七〇〇、〇〇〇
葡萄牙	七五〇	二七〇	一〇〇	八〇	二、四三〇、〇〇〇
瑞典	三二〇〇	二一〇〇	二三〇	—	五、七四〇、〇〇〇
挪威	二一〇〇	四一〇	一三〇	—	三、二九〇、〇〇〇
荷蘭	一、〇二〇	二二五〇	一三〇	—	二、八一〇、〇〇〇
白耳義	一、八五〇	三六〇〇	一一〇	—	三、九三〇、〇〇〇
瑞西	二五〇	一一〇〇	八〇	二二	一、五一〇、〇〇〇
多惱部	六、九五〇	—	四〇〇	一八〇	一、一九五〇、〇〇〇
希臘	四〇〇	二四〇	六〇	三六	一、三二〇、〇〇〇
歐洲	一、四四、一八〇	八七、一六〇	九三、八〇〇	二、七八六	二、七六、一四〇、〇〇〇
合衆國	八九四〇〇	七、四八〇	四、八三〇	三〇	一、三〇、八三〇、〇〇〇

八一六

加拿陀	五、〇二〇	一、二〇〇	三二〇	—	七、九〇〇、〇〇〇
濠洲	一、六五〇	六〇〇	五七〇	四	六、四五〇、〇〇〇
亞爾然丁	三、一〇〇	—	四一〇	一五	六、五五〇、〇〇〇
合計	二、四三、三五〇	九六、四四〇	一、五五〇〇	二、八三五	四、二七、八七〇、〇〇〇

(右穀類中には人類并に家畜の食用をも合算したり)

第十八表 人類食用としての食品産額價格

百萬磅

	穀類	肉類	飲料	乳汁製產品	雜類	合計
合衆王國	二五	五五	八五	三三	四五	二四三
佛蘭西	八八	五六	七一	四六	五七	三二八
獨逸	八三	六三	七〇	六〇	九五	三七一
露西亞	一七五	八七	二三	四五	九一	四二〇
奧地利	八〇	五一	二九	三七	六四	二六一
伊太利	四二	二〇	三八	二〇	四〇	一六〇

比較表 人類食用としての食品産價格

八一七

西班牙	二一	二〇	三七	二二	一四	一〇五
葡萄牙	五	四	七	二	六	二四
瑞典	一〇	一一	五	八	七	四一
那威	五	六	二	八	二	二二
荷蘭	四	六	五	一〇	七	三三
白耳義	八	五	二	八	五	三八
瑞西	二	四	二	六	二	一六
多惱部	二六	一六	七	六	三	五八
希臘	二	三	二	一	二	一〇
歐洲	五七七	四〇七	三九四	三〇二	四四〇	二二二〇
合衆國	九七	一六三	六一	八七	一二七	五三五
合計	六七四	五七〇	四五五	三八九	五六七	二六五五

第十九表 食品消費額價格

八二八

合衆王國	六一	九一	九二	五五	八二	三八一	一九四
佛蘭西	九五	六二	六六	四四	七三	三四〇	一七六
獨逸	一〇二	七二	七一	六二	九九	四〇六	一五八
露西亞	一五一	八六	二三	四三	九一	三九四	七四
奧地利	七六	四五	二八	三六	五九	二四四	一一四
伊太利	四五	一八	三六	二〇	三八	一五七	一〇四
西班牙	二五	二〇	三三	一一	一三	一〇三	一一四
葡萄牙	六	四	五	二	六	二三	九六
瑞典	一四	一一	五	六	七	四三	一二二
那威	六	三	二	三	二	一六	一四四
荷蘭	一三	六	五	五	九	三八	一六〇
白耳義	一五	七	一三	九	七	五一	一六四
合計	六七一	五七〇	四五五	三八九	五六七	二六五五	一九四

比較表 食品消費額價格

一百萬磅

一人前平均志

製造品價格	一百萬磅						合計	平均磅
	織物	金物	革類	食品	衣類	雜類		
瑞典	四	五	三	四	四	五	二一	一四〇
多惱部	一七	一六	六	六	五	五	五〇	八七
希臘	二	三	一	一	三	一〇	一〇	九〇
歐洲	六三二	四四九	三八九	三〇八	四九九	二二七七	一三四	一三四
合衆國	九〇	一二九	六三	八五	一五八	五二五	一五〇	一五〇
合計	七三二	五七八	四五二	三九三	六五七	二八〇二	一二六	一二六
伊太利	三七	四	一六	二二	五八	一九〇	六	六
西班牙	一九	五	一四	三四	一四	三五	一一	七
瑞典	八	七	八	一四	七	一八	六二	九
那威	八	一	五	一三	五	一七	四九	一一
荷蘭	八	一	五	一三	五	一七	四九	一一
白耳義	一七	一九	六	三六	一〇	三〇	一一八	一九
瑞西	二二	二	三	七	五	二二	四一	一四
其他諸國	一一	三	一七	三五	一五	三四	一一五	六
歐洲	六五八	三六九	三三六	七〇六	三九七	一一〇〇	三五六六	一〇
合衆國	一六一	二二九	一〇六	三二九	一一一	一〇一六	一九五二	二八
諸殖民地	七	五	八	四三	一九	七六	一五八	一七
合計	八二六	六〇三	四五〇	一〇七八	五二七	二二九二	五六七六	二二

第二十表 製造品價格

製造品價格	一千磅					合計
	木綿	毛織物	絹布	麻類	合計	
伊太利	三	四	三	二	一	一三
西班牙	一	一	一	一	一	五
瑞典	一	一	一	一	一	五
那威	一	一	一	一	一	五
荷蘭	一	一	一	一	一	五
白耳義	一	一	一	一	一	五
瑞西	一	一	一	一	一	五
其他諸國	一	一	一	一	一	五
歐洲	一	一	一	一	一	五
合衆國	一	一	一	一	一	五
諸殖民地	一	一	一	一	一	五
合計	八	八	八	八	八	四〇

第二十一表 織物類產額

比較表 製造品價格 織物類產額

合衆王國 九二,一〇〇 六,一七〇 六,〇〇〇 三,二四〇 一九,二〇〇

佛蘭西	二二四〇〇	四四七〇〇	二八二〇〇	一九八〇〇	一一五一〇〇
獨逸	三五四〇〇	四二二〇〇	一六五〇〇	一四二〇〇	一〇八二〇〇
露西亞	二〇四〇〇	二九〇〇〇	三二〇〇〇	二三九〇〇	七六五〇〇
埃地利	一八四〇〇	一四五〇〇	四五〇〇	一八三〇〇	五五七〇〇
伊太利	一二九〇〇	五八〇〇	九〇〇〇	九二〇〇	三六九〇〇
西班牙	八八〇〇	六六〇〇	九〇〇	三一〇〇	一九四〇〇
スカンデナヴィヤ	三三〇〇	四二〇〇	—	一六〇〇	九一〇〇
荷蘭	四六〇〇	二二〇〇	—	一三〇〇	八〇〇〇
白耳義	五二〇〇	五三〇〇	九〇〇	五五〇〇	一六九〇〇
瑞西	三二〇〇	一六〇〇	六四〇〇	六〇〇	一一八〇〇
其他諸州	二八〇〇	五四〇〇	二〇〇	一一〇〇	九五〇〇
歐洲	二二九五〇〇	二二三一〇〇	一一〇八〇〇	一二九九〇〇	六五八三〇〇
合衆國	五五八〇〇	四四四〇〇	一八二〇〇	四二六〇〇	一六一〇〇〇
諸殖民地	二二〇〇	二九〇〇	—	二〇〇〇	七〇〇〇

八三二

合計……………二八七、四〇〇
 ……………二七〇、四〇〇
 ……………九四、〇〇〇
 ……………一七四、五〇〇
 ……………八二六、三〇〇

第二十二表 重要製造品消費額

	百萬磅		一人前平均、志					
	織物	金物	革類	合計				
合衆王國	一一三	九六	五六	二七四	六二	四八	二八	一三八
佛蘭西	九一	四六	三七	一七四	四七	二四	一九	九〇
獨逸	九二	九四	六〇	二四六	三六	三七	二三	九六
露西亞	七六	二二	五七	一五五	一五	四	一一	三〇
埃地利	五二	一九	三九	一一〇	二三	九	一八	五〇
伊太利	三一	六	一六	五三	二〇	四	一〇	三四
西班牙	一八	六	一三	三七	二一	七	一五	四三
スカンデナヴィヤ	一三	五	一一	二九	二八	二	二四	六三
白耳義	一三	一三	六	三二	四一	四一	一九	一〇一
其他諸國	三〇	一一	二二	六四	二六	一一	一七	五五

比較表 重要製造品消費額

八三三

歐洲	五三八	三一九	三二七	二二七	二九	一七	一七	六三
合衆國	一八二	二二二	一〇八	五二二	五三	六四	三一	一四八
合計	七二〇	五四一	四二五	一六八六	三二	二五	一九	七六

第二十三表 織物消費額

價格、一千磅

	木綿	毛織物	絹布	麻類	合計
合衆王國	四〇、一〇〇	四五、〇〇〇	一九、〇〇〇	一七、四〇〇	一二一、五〇〇
佛蘭西	一九、八〇〇	三六、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一五、六〇〇	九一、四〇〇
獨逸	二九、〇〇〇	三九、八〇〇	一〇、二〇〇	一三、三〇〇	九二、三〇〇
露西亞	二〇、五〇〇	二九、四〇〇	三五、〇〇〇	二二、六〇〇	七六、〇〇〇
奧地利	一八、三〇〇	一四、一〇〇	四、〇〇〇	一五、九〇〇	五二、三〇〇
伊太利	一三、五〇〇	七、一〇〇	三、〇〇〇	七、四〇〇	三一、〇〇〇
西班牙	七、一〇〇	六、九〇〇	一、五〇〇	二、八〇〇	一八、三〇〇
白耳義	五、〇〇〇	五、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一三、二〇〇

其他諸國	一五、六〇〇	一八、六〇〇	二、六〇〇	五、〇〇〇	四一、八〇〇
歐洲	一六八、九〇〇	二〇二、四〇〇	六五、二〇〇	一〇一、三〇〇	五三七、八〇〇
合衆國	六〇、三〇〇	四八、五〇〇	二二、二〇〇	四九、九〇〇	一八一、九〇〇
合計	二二九、二〇〇	二五〇、九〇〇	八八、四〇〇	一五一、二〇〇	七一九、七〇〇

第二十四表 獸皮消費額

	牝牛	綿羊	豕類	合計	獸皮	革
合衆王國	四九、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	一〇二、〇〇〇	一九六、〇〇〇	一一八、〇〇〇
佛蘭西	五八、〇〇〇	二七、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇
獨逸	七九、〇〇〇	一八、〇〇〇	三六、〇〇〇	一三三、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	一三二、〇〇〇
露西亞	一二四、〇〇〇	六五、〇〇〇	四八、〇〇〇	二三七、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	一一四、〇〇〇
奧地利	六四、〇〇〇	一九、〇〇〇	二七、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一三三、〇〇〇	八〇、〇〇〇
伊太利	二二、〇〇〇	九、〇〇〇	六、〇〇〇	三七、〇〇〇	五三、〇〇〇	三二、〇〇〇
其他諸國	六九、〇〇〇	五四、〇〇〇	二七、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇七、〇〇〇

比較表 織物消費額 獸皮消費額

第二十五表 通商發達の景況

	輸入、百萬磅				輸出、百萬磅			
	一八三〇年	一八六〇年	一八九四年	合計	一八三〇年	一八六〇年	一八九四年	合計
歐洲	四六五,〇〇〇	二二二,〇〇〇	一七七,〇〇〇	八七四,〇〇〇	一,二二二,〇〇〇	六七三,〇〇〇		
合衆國	三二八,〇〇〇	五七,〇〇〇	一三五,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	五一〇,〇〇〇	三〇六,〇〇〇		
加拿陀	一九,〇〇〇	五,〇〇〇	六,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	二四,〇〇〇		
濠洲	六〇,〇〇〇	一六二,〇〇〇	五,〇〇〇	二二七,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	七二,〇〇〇		
亞爾然丁其他	一八八,〇〇〇	四六,〇〇〇	一二,〇〇〇	三五九,〇〇〇	一一八,〇〇〇	七二,〇〇〇		
合計	九六〇,〇〇〇	六二〇,〇〇〇	三四〇,〇〇〇	一,九二〇,〇〇〇	一,九二〇,〇〇〇	一,二四六,〇〇〇		
佛蘭西	二二五	八四	一五四	二六	八三	二二三		
獨逸	二二	六五	一九八	二四	六五	一四八		
露西亞	一〇	二二	五六	一二	二六	六八		
奧地利	七	二二	五八	八	二七	六六		
合衆王國	四二	二一〇	四〇八	四六	一六五	二七四		

第二十六表 内國貿易

伊太利	一三	三三	四四	一一	一九	四一
西班牙	四	一四	三二	三	一一	二七
スカンデナヴィヤ	四	一三	五〇	四	一一	三九
荷蘭	一七	二五	一一一	一三	二〇	九三
白耳義	—	二二	六三	—	一九	五二
其他諸國	八	三〇	六九	九	三三	五五
歐洲	一五二	五三八	一二五三	一五六	四八〇	九八六
合衆國	一三	七四	一三六	一五	七〇	一八六
加拿陀	二	二二	二四	一	一一	二四
濠洲	—	—	二八	—	一六	四〇
合計	一六七	六四三	一,四四一	一七二	五七七	一,二三六

	一箇年間、百萬磅			
	農產物	製造品	鑛產物	輸入
合衆王國	二三〇	八七六	八七	四一七
佛蘭西	四一六	五九六	三五	一五四
獨逸	四一七	六九〇	四八	一九八
露西亞	五四〇	三八〇	五四	五六
埃地利	三一九	三二八	二八	五八
伊太利	二〇四	一九〇	八	四四
西班牙	一三五	一二一	八	三二
葡萄牙	二六	二九	二	八
瑞典	四六	六二	一九	三一
那威	三五	一九	一	一九
丁抹	三六	四九	一	一一
荷蘭	四四	一一八	一	一一
白耳義				六三
合計	二一〇	四一	一	三五
合計一人に付	二一〇	四一	一	三五

瑞西	二〇	四一	一	三五	九七	三三
多惱部	八三	五七	五	二二	一六七	一五
希臘	一四	一〇	一	四	二九	一三
歐洲	二、五六五	三、五六六	三〇九	一、二六二	七、七〇二	二一
合衆國	八一三	一、九五二	二三四	一三六	三、二二五	四五
加拿陀	五七	九八	二六	二四	二〇五	三九
濠洲	七〇	八五	二〇	二八	二〇三	四八
亞爾然丁	四六	四〇	—	一九	一〇五	二六
合計	三、五五一	五、七四一	五七九	一、四六九	一、一三四〇	二五

第二十七表 鐵道 (一八九四年)

開通哩程	一百萬		一百萬磅	
	乘客數	運輸貨物、噸	資本	收入
合衆王國	二〇、九一〇	九一二	三二五	九八五
佛蘭西	二四、九七〇	三三七	九七	六六三
比較表 鐵道				八二九
資本に對する純益				三五

獨逸	二七、八五〇	五二一	二四二	五五五	八三〇	七一	四五
露西亞	二三、一〇〇	五五	七九	三四九	三五	三五	四二
奧地利	一八、三三〇	一九九	二二五	三七一	三三	三三	三二
伊太利	八、八〇〇	五一	一七	一八四	一〇	一〇	一九
スカンデナヴィヤ	八、〇六〇	三三	一八	五四	五	五	二六
白耳義	二、八二〇	九七	四五	七五	八	八	四二
荷蘭	二、三三〇	二四	九	四六	三	三	三〇
瑞西	二、二七〇	四〇	一〇	四四	四	四	三八
其他諸國	一一、一六〇	二三	一一	一七三	一一	一一	三二
歐洲	一五〇、五八〇	二二九二	一〇、六八	三、四九九	二二八	二二八	三五
合衆國	一八〇、〇〇〇	五四一	六三八	二二六〇	二二三	二二三	三二
加拿陀	一六、〇〇〇	一四	二一	一八六	一〇	一〇	一六
濠洲	一三、六二〇	九一	一一	一三九	九	九	三〇
タイプ、ヨロニ	二、八四〇	八	一	二八	三	三	五〇

印度	一八、七八〇	一四六	三三	一九二	一六	一六	四四
西領亞米利加	二八、八八〇	二四	八	三三四	二一	二一	二五
其他諸國	九、四八〇	一九	九	一一七	一〇	一〇	三〇
世界	四二〇、一八〇	三、一三五	一、七九〇	六、七四五	六一〇	六一〇	三、一

第二十八表 鐵道營業の景況

資本	一哩平均計算、磅		一哩平均運搬高	
	總收入	營業費	純益	乘客 貨物噸數
合衆王國	四、〇三四	二、二五九	一、七七五	四三、五〇〇 一五、五〇〇
佛蘭西	二、七三〇	一、二五三	九四二	一三、〇〇〇 三、九〇〇
獨逸	二、五九四	一、六六四	九〇〇	一八、七〇〇 八、七〇〇
露西亞	一、六一〇	九七〇	六四〇	二、四〇〇 三、四〇〇
奧地利	一、五二〇	八六〇	六五〇	一〇、五〇〇 一、七〇〇
伊太利	一、二六五	八五八	四〇七	五、八〇〇 一、九〇〇
瑞典	五三〇	三四〇	一九〇	三、三〇〇 二、一〇〇
那威	六〇〇	三四〇	一九〇	三、三〇〇 二、一〇〇

比較表 鐵道營業の景況

丁 抹	一〇,〇〇〇	九四〇	七五〇	一九〇	九,一〇〇	三,〇〇〇
荷 蘭	一九,八〇〇	一三,四〇〇	七四〇	六〇〇	一四,七〇〇	五,五〇〇
白 耳 義	二六,五〇〇	二五,六六〇	一四,六七〇	一〇,九九〇	三四,三〇〇	一六,〇〇〇
瑞 西	一九,四〇〇	一八,五七〇	一,二〇七	七五〇	一七,六〇〇	四,四〇〇
歐 洲	二三,二〇〇	二二,二〇〇	一三,一〇〇	八一〇	一五,一〇〇	七,二〇〇
合 衆 國	二二,五〇〇	一三,七〇〇	八六七	四〇三	三,〇〇〇	三,六〇〇
加 拿 陀	一一,六〇〇	六一〇	四二八	一八二	九〇〇	一,三五〇
濠 洲	一〇,二〇〇	七九八	四九七	三〇一	六,七〇〇	九〇〇
クイブ、コロニー	九七〇〇	一,一五〇	六七〇	四八〇	二,八〇〇	三,五〇〇
印 度	一〇,二〇〇	八五〇	四〇〇	四五〇	七,七〇〇	一,八〇〇
世 界	一六,〇〇〇	一四,五〇〇	九,五五〇	四,九五〇	七,四〇〇	四,二〇〇

第二十九表 鐵道發達の景況

開通哩程
 一八五〇年 一八七〇年 一八八四年 一八五〇年 一八七〇年 一八八四年 一人前平均資本、磅

合衆王國	六,六二〇	一五,五四〇	二〇,九一〇	二,四〇〇	五,三〇〇	九,八五〇	二,五
佛 蘭 西	一,八九〇	九,七七〇	二四,九七〇	五七	二,七四〇	六,六三〇	一,七
獨 逸	三,六四〇	一,一七三〇	二七,八五〇	六一	二,〇四〇	五,五五〇	一,一
露 西 亞	三,一〇〇	七,一一〇	三三,一〇〇	五	一,一九〇	三,四九〇	三
埃 地 利	九六〇	五,九五〇	一八,三二〇	二〇	一,二〇〇	三,七一〇	九
伊 太 利	二七〇	三,八三〇	八,八〇〇	五	七五〇	一,八四〇	六
西 班 牙	八〇	三,二〇〇	六,七一〇	一	五一一	一,〇八〇	六
スカンデナヴィヤ	二〇	一,七三〇	八,〇六〇	—	一三	五,四〇〇	六
白 耳 義	五五〇	一,八〇〇	二,八二〇	一三	四三〇	七五〇	二,二
其他諸國	一三〇	二,六五〇	九,〇四〇	二	四七〇	一,五五〇	六
歐 洲	一四,四七〇	六三,三〇〇	一五,五八〇	四〇四	一,四七六	三,四九九	一〇
合 衆 國	九,〇二〇	五三,四〇〇	一八,〇〇〇	六〇	四,九七〇	二,二六〇	三,三
諸殖民地	六〇	一,一五四〇	八,九六〇	一	一,二四〇	九八六	—
合 計	二三,五五〇	一二八,二四〇	四二〇,一八〇	四六五	二〇,九七〇	六,七四五	—

比較表 鐵道發達の景況

第三十表 船舶の増加

	登録噸數		運搬力噸數	
	一八四二年	一八九四年	一八四二年	一八九四年
大不利顛	二,五七〇,〇〇〇	八,九六〇,〇〇〇	二,八六〇,〇〇〇	二六,八七〇,〇〇〇
合衆國	二,一八〇,〇〇〇	四,六八〇,〇〇〇	二,七七〇,〇〇〇	一一,二五〇,〇〇〇
佛蘭西	六三〇,〇〇〇	八九〇,〇〇〇	六六〇,〇〇〇	二,三六〇,〇〇〇
獨逸	五五〇,〇〇〇	一,五五〇,〇〇〇	五八〇,〇〇〇	四,二二〇,〇〇〇
伊太利	四六〇,〇〇〇	七八〇,〇〇〇	四九〇,〇〇〇	一,四一〇,〇〇〇
西班牙	二八〇,〇〇〇	六八〇,〇〇〇	二九〇,〇〇〇	二,二二〇,〇〇〇
スカンデナヴィヤ	六二〇,〇〇〇	二,三八〇,〇〇〇	六三〇,〇〇〇	四,〇六〇,〇〇〇
其他諸國	二〇九〇,〇〇〇	二,九六五,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇	六,三三〇,〇〇〇
合計	九,三八〇,〇〇〇	三二,八八五,〇〇〇	一〇,四八〇,〇〇〇	五八,六一〇,〇〇〇

第三十一表 一八九四年現在船舶

	登録噸數		合計	運搬力、噸數
	汽船	帆船		
大不利顛	五,九七〇,〇〇〇	二,九九〇,〇〇〇	八,九六〇,〇〇〇	二六,八七〇,〇〇〇
獨逸	八九〇,〇〇〇	六六〇,〇〇〇	一,五五〇,〇〇〇	四,二二〇,〇〇〇
佛蘭西	四九〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	八九〇,〇〇〇	二,三六〇,〇〇〇
那威	二四〇,〇〇〇	一,二六〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	二,二二〇,〇〇〇
西班牙	四八〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	六八〇,〇〇〇	二,二二〇,〇〇〇
露西亞	二四〇,〇〇〇	五一〇,〇〇〇	七五〇,〇〇〇	一,四七〇,〇〇〇
伊太利	二二〇,〇〇〇	五七〇,〇〇〇	七九〇,〇〇〇	一,四一〇,〇〇〇
瑞典	一八〇,〇〇〇	三七〇,〇〇〇	五五〇,〇〇〇	一,〇九〇,〇〇〇
希臘	一三五,〇〇〇	三四〇,〇〇〇	四七五,〇〇〇	八八〇,〇〇〇
荷蘭	一八〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	二九〇,〇〇〇	八三〇,〇〇〇
多惱部	一四〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	七五〇,〇〇〇
奧地利	一三〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	六四〇,〇〇〇

比較表 船舶の増加 一八九四年現在船舶

第三十二表 貨幣全額	百萬磅			金貨在高 百分率
	金貨	銀貨	紙幣	
歐洲	九二八五〇〇〇	七七二〇〇〇〇	一七〇〇五〇〇〇	四四、八六〇、〇〇〇
合衆國	二一九〇〇〇〇	二四九〇〇〇〇	四、六八〇、〇〇〇	一一、二五〇、〇〇〇
加拿陀	二五〇〇〇〇	五八〇、〇〇〇	八三〇、〇〇〇	一、五八〇、〇〇〇
濠洲	一八〇〇〇〇	一九〇〇〇〇	三七〇、〇〇〇	九二〇、〇〇〇
合計	一、一九〇五〇〇〇	一〇、九八〇、〇〇〇	二二、八八五〇〇〇	五八、六一〇、〇〇〇
合衆王國	八五	二四	四一	一五〇
佛蘭西	一八七	一四〇	一三九	四六六
獨逸	一三二	四五	六一	二三八
露西亞	九二	一〇	一八九*	二九一
埃地利	二六	二五	六八	一一九
伊太利	二〇	七	六五*	九二

八三六

西班牙並に葡萄牙	九	三五	四七	九一	一〇
スカンデナヴィヤ	七	三	一三	二三	三〇
荷蘭	六	二	一七	三五	一七
白耳義	一二	一〇	一八	四〇	三〇
其他諸國	八	八	一三	二九	二七
歐洲	五八四	三二九	六七一	一、五六四	三七
合衆國	一三〇	一三一	二四三	五〇四	二六
加拿陀	四	一	八	一三	三〇
濠洲	二九	一	四	三四	八五
東洋諸國	五六	二〇五	四一	三〇二	一九
其他諸國	一八	五一	二一〇	一七九	一〇
合計	八二一	七〇八	一、〇七七	二、六〇六	三二

比較表 貨幣全額 利得高

八三七

前表中には南亞米利加に於ける不正貨幣即ち不換紙幣ツノ、プラストと云へる者其額凡そ一億七千萬磅に當る分を除却したるものと知る可し

第三十三表 利得高

一個年平均、百萬磅

	農業	製造業	通商	家賃	諸職業其他	合計	一人前平均、磅
合衆王國	一三八	五二五	三三〇	一〇五	二八〇	一四二三	三六〇
佛蘭西	二五〇	三三三	二四六	一一八	二五二	一、一九九	三二二
獨逸	二五〇	三九三	二七七	九二	二七二	一、二八四	二四七
露西亞	三三四	二四四	二二一	四七	一七八	一、〇〇四	九五
奧地利	一九二	一九二	一四九	三七	一三七	七〇七	一六七
伊太利	一三三	一〇三	九二	二七	九二	四三六	一四〇
西班牙	八一	六八	六一	一四	四九	二七三	一五五
葡萄牙	一六	一六	一四	四	一四	六四	一三六
瑞典	二八	五〇	三三	八	三三	一四二	二〇六
并に那威	二一	二一	一四	四	一〇	六〇	二七三
丁抹	二二	二一	一四	四	一〇	六〇	二七三
荷蘭	二二	二六	四三	一〇	三三	一三四	二五八

八三八

白耳義	二六	七〇	四九	八	二八	一八一	二八三
瑞西	二二	二一	二〇	五	二二	七〇	二三三
多惱部	五〇	三三	三三	七	二五	一四七	一二九
希臘	八	六	六	二	六	二八	一二五
歐洲	一五四〇	二〇九一	一五七七	五三三	一、四〇一	七、四二二	一九三
合衆國	四八八	一、二〇〇	六四〇	二六七	五二一	三、二一六	四四〇
加拿陀	三四	七五	四一	七	二六	一八三	三六〇
濠洲	四二	六二	四一	二一	四九	二二五	五二二
亞爾然丁	二八	二〇	二二	七	一九	九五	二四〇
合計	二、二三三	三、四四八	二、三三〇	八三五	二、〇二六	一〇、七五一	二、三三〇

第三十四表 富有額 (一八九五年)

前表中第二段中には製造、鑛業、林業並に漁業利得を、第三段には貿易並に運輸利得を第五段には奴婢の賃銀並に諸職業の利得及び公務俸給を算入したるものとす。

比較表 利得高 富有額

八三九

	百萬磅					合計
	田圃	鐵道	家屋	商品	雜類	
合衆王國	二〇七七	九八五	二、四九〇	八〇五	五、四四九	一、一八〇六
佛蘭西	三〇九三	六六三	二、二五九	六〇一	三、一七四	九、六九〇
獨逸	二、五〇八	五五五	一、七五五	六七七	二、五五七	八、〇五二
露西亞	二、七二〇	三四九	一、〇一九	五二五	一、八三二	六、四二五
奧地利	一、七九七	三七一	七二七	三六七	一、二五八	四、五二二
伊太利	一、三九九	一八四	五〇三	二二三	八五一	三、一六〇
西班牙	一、二二二	一〇八	二八〇	一四八	六三二	二、三三〇
葡萄牙	一、六四	二三	七七	三三	一一五	四一一
瑞典	二、七八	四〇	一五二	八〇	二四〇	七九〇
並比那威	二、五四	一四	六九	三七	一三二	五〇六
丁抹	二、九五	四六	一七八	一〇四	二五七	八八〇
荷蘭	三、五四	七五	一七五	一一八	二六六	九八八

瑞西	一七二	四四	九一	四九	一三六	四九二
多惱部	五〇八	三六	一三六	八三	二六三	一、〇二六
希臘	一〇九	六	三一	一五	六一	二二二
歐洲	一、六九三〇	三、四九九	九、八三四	三、八五四	一七、二二三	五、一三四〇
合衆國	四、一四二	二、二六〇	四、四四六	一、五六三	三、九三九	一、六三五〇
加拿陀	三〇五	一八六	一四五	一〇三	二六四	一、〇〇三
澳洲	三九二	一三九	一七四	八八	二八三	一、〇七六
亞爾然丁	一九八	八八	一〇七	五三	一七〇	六一六
合計	二一、九六七	六、一七二	一、四七〇六	五、六六一	二一、八七九	七〇、三八五

第三十五表

一人前平均富有額

一人前平均富有額 志

割合

	村落富有			都會富有			合計
	不動產	動產	合計	不動產	動產	合計	
合衆王國	五三	二四九	三〇二	一〇六	一九六	三〇二	三、五四
佛蘭西	八〇	一七二	二五二	一三三	一二九	二六二	四、八八
比較表	一人前平均富有額						八四一

獨逸	四八	一〇八	七二	八四	一五六	四六三	五三七
露西亞	二六	三五	三〇	三一	六一	四八八	五二二
埃地利	四一	六三	五一	五三	一〇四	四八六	五一四
伊太利	四五	五六	五三	四八	一〇一	五三二	四六八
西班牙	六九	六六	七六	五九	一三五	五六一	四三九
葡萄牙	三五	五二	四六	四一	八七	五二四	四七六
瑞典	四〇	七四	五三	六一	一一四	四六〇	五四〇
那威	一五	一一五	二四	一〇六	二三〇	五四一	四五九
丁抹	六一	一一二	八七	九六	一八三	四七五	五二五
荷蘭	五六	九八	七五	七九	一五四	四八一	五一九
白耳義	五七	一〇七	七六	八八	一六四	四六五	五三五
瑞西	四四	四六	四九	四一	九〇	五四一	四五九
多惱部	四八	一〇七	七二	八四	一五五	四六〇	五四〇
希臘	五〇	五一	五七	四四	一〇一	五六三	四三七
歐洲	四五	九四	六四	七五	一三九	四六〇	五四〇

八四二

合衆國	五九	一七五	一一一	一一三	二三四	四七七	五二七
加拿陀	六〇	一三六	七三	一一三	一九六	三七四	六二六
濠洲	九三	一六三	九七	一五九	二五六	三八一	六一九
亞爾然丁	四九	一〇五	五八	九六	一五四	三八四	六一六
平均額	四八	一〇七	七二	八四	一五五	四六〇	五四〇

第三十六表 公債

一百萬磅

一人前平均

合衆王國	六二九	二三〇	八五九	一三七〇	八五九	三二
佛蘭西	一一三〇	一八〇	一四〇〇	一一七	一三七〇	三五
獨逸	六〇四	—	六〇四	—	一一七	二
露西亞	七〇三	—	七〇三	—	四九五	五
埃地利	五五五	—	五五五	—	三二四	八
伊太利	五〇五	四八	五五三	四二三	四二三	一四

比較表 公債

八四三

西班牙	二九三		二九三	二九三	一六
葡萄牙	一四八		一四八	一三三	二八
瑞典	二五	一〇	三五	一一	二
那威	一一		一一	一	
丁抹	九二	二〇	一一二	九〇	一九
荷蘭	八八		八八	三〇	五
白耳義	一三		一三	一三	四
瑞西	六七		六七	三三	三
多惱部	三三		三四	三三	一五
希臘	四九八六	四八九	五四七五	四二二六	二
歐洲	一八八	二三七	四二五	四二五	六
合衆國	六四	五	六九	五七	三
加拿陀	二一〇	三〇	二四〇	一〇七	二六
濠洲	五四四八	七六一	六二〇九	四八一五	二
合計					

前表中數字を記入せざる部分は其金額不明と知る可し。又純公債とは公債額面の金高より國有鐵道の價格を差引たる殘額を謂ふ。

第三十七表 一人前平均公債、富有、租稅並に利得

	富有	公債	純富有	利得	租稅	純利得
合衆王國	三〇二	二二	二八〇	三六〇	三二	三三九
佛蘭西	二五二	三六	二一六	三二二	三七	二七五
獨逸	一五六	一一	一四四	二四七	二五	二二二
露西亞	六一	七	五四	九五	一〇	八五
奧地利	一〇四	一三	九一	一六七	二〇	一四七
伊太利	一〇一	一八	八三	一四〇	二七	一一三
西班牙	一三五	一六	一二九	一五五	一七	一三八
葡萄牙	八七	三一	五六	一三六	一八	一一八
瑞典	一一四	五	一〇九	二〇六	一五	一九一
那威						
比較表	一人前平均公債、富有、租稅並に利得					八四五

一人前平均、磅

丁 抹	三三〇	五	二二五	二七三	二二	二五・一
荷 蘭	一八三	三三	一六〇	二五八	三三	二二・五
白 耳 義	一五四	一四	一四〇	二八三	二一	二六・二
瑞 西	一六四	四	一六〇	二三三	一八	二一・五
多 佛 部	九〇	六	八四	一二九	一三	一一・六
希 臘	一〇一	一五	八六	一二三	一八	一〇・五
歐 洲	一三九	一五	一二四	一九三	二一	一七・二
合 衆 國	二三四	六	二二八	四四〇	二五	四一・五
加 拿 陀	一九六	一四	一八二	三六〇	一六	三四・四
濠 洲	二五六	五七	一九九	五一二	二五	四八・七
平均額	一五五	一四	一四一	二二六	二二	二一・四

右公債割合中には中央並に地方債を包括し國有鐵道其他公債國有財産價格を差引きたるものに非ずと知る可し。又租税の中には國債並に地方債を合算したれども王室所有地郵便局又は國有鐵道等の收入を合算したるに非ず。

附 録

第一節 人口

一八八八年乃至九二年に至る五ヶ年間に於ける出産并に死亡の數に就き、年々一千人に對する平均割合を算出すれば左の如し。

	出 産	死 亡	出 産	死 亡
英 克 蘭	三〇七	一九五	奧 地 利	三九四
蘇 格 蘭	三〇九	一九七	伊 太 利	三七三
愛 蘭	二二七	一九二	西 班 牙	二九六
佛 蘭 西	二二五	二二二	瑞 典	二七七
獨 逸	三七八	二五二	荷 蘭	三三〇
露 西 亞	四五〇	三一〇	白 耳 義	三〇〇

左表を觀れば露西亞、奧地利の二國は出産死亡の割合最も多く、佛蘭西、愛蘭の二國は出産の割合最も低く、而して死亡の割合最も低きは瑞典、愛蘭の一國とす。次に一八八八年乃至九二年の間に於て、平均一百の配遇者に生産する正統の小兒の數

は左の如し

靈西亞	五三一	荷蘭	四五七	獨逸	四二〇	白耳義	三六九
愛蘭	四九二	伊太利	四五二	英克蘭	三八九	佛蘭西	二八四

二期間に於ける出産總數と結婚總數とを比較すれば左の如し。

配遇者一百に對する出産

英克蘭	四〇七	自一八六〇年 至一八八〇年	自一八八八年 至一八九二年	自一八六〇年 至一八八〇年	自一八八八年 至一八九二年
佛蘭西	三〇四	四〇六	伊太利	四四〇	四八九
獨逸	四三九	三一〇	荷蘭	四三二	四七二
埃地利	四一九	四五六	白耳義	四〇八	四〇五
匈牙利	四〇四	四八六	瑞典	四二四	四七四
		四八四	丁抹	三六〇	四四六

右の割合は英克蘭、白耳義は漸次減退し、其他は總て増加せり。

一千人に對する既婚者と未婚者の割合は左の如し、(獨身者の中には鰥寡を含む)

獨身者

既婚者

獨身者

既婚者

英克蘭	六六三	三三七	合衆國	六四四	三五六
蘇格蘭	七〇三	二九七	佛蘭西	五九八	四〇二
愛蘭	七三六	二六四	伊太利	六四八	三五二
普魯西	六六〇	三四〇	白耳義	六八三	三二七
ナスカンヤ	六七〇	三三〇	西班牙	六四〇	三六〇

勞働者の年齢を十五歳より六十歳までと假定して之を働者不働者の人口に類別せば一千人に對する割合左の如し。

働者

不働者

働者

不働者

佛蘭西	六〇八	三九二	合衆國	五七五	四二五
瑞典	五九七	四〇三	白耳義	五六六	四三四
伊太利	五九五	四〇五	獨逸	五六四	四三六
埃地利	五八四	四一六	合衆王國	五五七	四四三

諸國に於ける男子千人中女子の員數左の如し。

英克蘭	一〇六四	佛蘭西	一〇二四	埃地利	一〇三二	合衆國	九五三
-----	------	-----	------	-----	------	-----	-----

蘇格蘭	一〇七二	獨逸	一〇三八	伊太利	九九五	加拿陀	九六五
愛蘭	一〇二八	露西亞	一〇二二	白耳義	一〇〇六	濠洲	八六六

第二節 蒸氣力

『蒸氣力の効果は頗る大にして、之を利用せば現時の一人は十八世紀の百二十人に相當するの働きをなすべし。嘗て唧筒を使用して三百五十呎の地底より二萬ガロンの水を輸送するには人員二十人費用四十志を要して十時間を費やしたれども今若し蒸氣力を使用するに於ては價僅かに三片を費して一フッシエルの石炭を使用せば瞬間に之を輸送するとを得可し。故に人力にて爲さば百六十磅の費用を要する事も蒸氣力に依らば僅かに一磅を以て成就するなり。』(クテーター、レヅニ)

第三節 穀類

穀類の生産高は最近二十年間に於て三割一分の割加を示せり、されば一八九二年乃至九五年間の世界に於ける平均收穫と、一八七一年乃至八〇年の十ヶ年間に於けるニューマーン、スパラートの比較表を見よ。

毎年の穀類噸數

小麥	四八、六〇〇、〇〇〇	自一八八七年 至一八八〇年	五〇三、〇〇〇、〇〇〇	自一八九二年
大麥	一九四〇〇、〇〇〇		四一三、〇〇〇、〇〇〇	
オート麥	四六、七〇〇、〇〇〇		六一、五〇〇、〇〇〇	
玉蜀黍	三八、四〇〇、〇〇〇		五五、五〇〇、〇〇〇	
ライ麥	三九二〇〇、〇〇〇		四二六〇〇、〇〇〇	
合計	一九二、三〇〇、〇〇〇		二五二、二〇〇、〇〇〇	

第四節 小麥の輸出高

年々の輸出額左の如し。噸數を以て計算す。

輸出諸國	自一八七六年 至一八八〇年	自一八八一年 至一九〇〇年	自一八九一年 至一九〇五年
合衆國	三、二二〇、〇〇〇	四、四七〇、〇〇〇
露西亞	二、二五〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
ブリタニア	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇

附録 蒸氣力 穀類 小麥の輸出高

印度	一八〇,〇〇〇	八五〇,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇
羅馬尼	四三〇,〇〇〇	五二五,〇〇〇	七三〇,〇〇〇
加拿陀	一一〇,〇〇〇	一一五,〇〇〇	二四〇,〇〇〇
埃地利	二九〇,〇〇〇	三八〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇
合計	五七七,〇〇〇	七三八,〇〇〇	九四三,〇〇〇

第五節 家畜

マルカス氏の調査によれば一八二六年に於ける歐洲の家畜の數は左の如し。
(二千を單位とす)

馬	牛	綿羊	豚
合衆王國	一〇,五〇〇	四四,一〇〇	五,三〇〇
佛蘭西	六,七〇〇	三五,二〇〇	四,〇〇〇
獨逸	九,九七〇	一七,三〇〇	四,五〇〇
露西亞	一九,〇〇〇	三六,〇〇〇	一五,八〇〇
埃地利	九,九〇〇	一一,〇〇〇	五,五〇〇

伊太利	一六〇〇	三,五〇〇	六,五〇〇	二,五〇〇
西班牙	一六〇〇	二,五〇〇	一三,〇〇〇	一,〇〇〇
葡萄牙	五四〇	六五〇	一,二〇〇	七〇〇
スカンデナヴィヤ	一,二五〇	四,二〇〇	三,五〇〇	一,五五〇
低地諸國	五七〇	二,五〇〇	一,二〇〇	一,四〇〇
瑞西	一〇〇	八〇〇	五〇〇	二五〇
歐羅巴	二六,四〇〇	七〇,三〇〇	一七〇,六〇〇	四三,〇〇〇

第六節 羊毛剪採高

未酒毛、噸	酒毛、噸	未酒毛、噸	酒毛、噸
歐羅巴	三,五二〇,〇〇〇	二,二一〇,〇〇〇	一,六八〇,〇〇〇
合衆國	一,三五〇,〇〇〇	一〇,一〇〇,〇〇〇	三,二〇〇,〇〇〇
リヴァプール	一,五四〇,〇〇〇	五三〇,〇〇〇	五九〇,〇〇〇
濠洲	三,〇五〇,〇〇〇	一,六八〇,〇〇〇	一,六八〇,〇〇〇
ケイプコロニー	四,三〇〇,〇〇〇	三,二〇〇,〇〇〇	三,二〇〇,〇〇〇
東洋諸國	九八〇,〇〇〇	五九〇,〇〇〇	五九〇,〇〇〇

第七節 織糸の生産高

總計未酒毛百八萬六千噸、酒毛六十二萬四千噸となるなり。

歐洲に於ける生産噸數左の如し。

	羊毛	亞麻其他	合計
合衆王國	六六〇〇〇	一四〇〇〇	八〇〇〇〇
佛蘭西	三七〇〇〇	五三〇〇〇	九〇〇〇〇
獨逸	二五〇〇〇	五五〇〇〇	八〇〇〇〇
露西亞	一〇六〇〇〇	四七四〇〇〇	五八〇〇〇〇
奧地利	二五〇〇〇	一一五〇〇〇	一四〇〇〇〇
其他諸國	九二〇〇〇	四三〇〇〇	一三五〇〇〇
歐羅巴	三五一〇〇〇	七五四〇〇〇	一一〇五〇〇〇

第八節 棉花

イリソソンの計算に従へば棉花の消費高左の如し。

大不利頓	自一八七二年 至一八八七年	自一八七九年 至一八八四年	一八九四年
大不利頓	四七三、〇〇〇	六一八、〇〇〇	七三〇、〇〇〇

毎年の噸數

大陸諸國	三二〇、〇〇〇	五四二、〇〇〇	八五二、〇〇〇
合衆國	一八三、〇〇〇	三七七、〇〇〇	五〇五、〇〇〇
印度	五三〇、〇〇〇	一一三〇、〇〇〇
合計	九六六、〇〇〇	一、五九〇、〇〇〇	二、二九〇、〇〇〇

第九節 鐵及鋼鐵

ベッセマー氏の發明其他種々同様の發明ありて以來、從前に比すれば鋼鐵製造費は八分の一を減じたり即ち一八六〇年に於て一噸の價四十磅の鋼鐵は一八九四年には五磅に下落せり而して一八七〇年に於て一噸十一磅の鋼鐵レールは今や下落して七十志となれり。近く一八七〇年に於ける鐵製對木造船なる問題は現今は鋼鐵製對鐵製として論究せられたり、されど一八七九年合衆王國に錠泊したる新式の船舶を見るに、其八割八分は凡て鐵製にして木造は一割二分なり、然るに一八九三年には此等の比例は一變して鋼裝九割六分鐵若くは木造は僅に四分となれり。

第十節 運賃

附錄 棉花 鐵及鋼鐵 運賃

一噸の貨物百哩の運賃は通例海上に於ては六片運河に於ては二志、鐵道に於ては八志、公道に於ては三十志とす。而して一噸百哩の鐵道運賃は大畧左の如し。

合衆國	四二	獨逸	八〇	大不利顛	八八	伊太利	一一〇
白耳義	八〇	佛蘭西	八五	埃地利	一〇〇	愛蘭	一二〇

一八九六年六月十六日倫敦に於ける統計協會の集會に於てプライスウヰリヤム氏は倫敦并に北西鐵道の運賃は一噸百哩として平均普通の商品は八十八片、鑛物は四十二片なることを示せり。ア、シ、ポイル并にシェーンは普通貨物の運賃を右の額以上に計算せり。プライスウヰリヤム氏の説を採用すれば合衆王國に於ける貨物運搬額は毎日一哩に付き五千萬噸にして即ち百哩に付き五十萬噸の割合なり。最近二十年間に於ては海陸に於ける貨物運賃の低減したるは著しき事實にして現今はチカゴよりリヴァプール迄穀物一噸の運賃一八七三年の六十七志に對すれば僅々十六志なり。合衆國に於ける貨物一噸百哩の運賃平均左の如し。

年次 片

一八七〇年	一四一
一八八〇年	六八

年次

一八八五年	五三
一八九三年	四二

片

河川に於ける運賃は一層低廉にしてミスシッピ河に於て百哩の運賃平均十二片なり。

第十一節 鐵道

鐵道運轉費は總收入に對する百分率左の如し。

合衆王國	五六五	白耳義	五七二	獨逸	六五〇	合衆國	七〇五
佛蘭西	五六二	埃地利	六二三	伊太利	六八〇	加拿陀	七〇六

倫敦、エディンボロ間の旅行はジョージ三世の時代に於ては通常十七日間を費したりしが現今は急行列車に搭すれば僅に八時間半にて到着すべし。

第十二節 富有

ヴァリニ氏は百萬磅以上の産を有するものは一八八〇年頃世界に於て僅に七百人なりと計算せり即ち大不利顛に二百人、合衆國に百人、獨逸及び埃地利に百人

佛蘭西に七十五人、露西亞に五十人、印度に五十人、其の他の諸國に百二十五人なり。然るに一八九三年發刊の「ゼ、ニューヨーク、ツリペユーン」は合衆國內に住居して二十萬磅以上の財産を有する者四千七百七名の人名録を掲載せり。而して合衆王國に於ける登記所の帳簿に據れば、一八八九年同國に於ては十萬磅以上の財産を有する者二萬四千人あり。一八九四年倫敦の新聞紙は、既往七箇年の間に商業家にして五萬磅以上の財産を遺して英蘭に於て死亡したる者四百三十七人なりと報告せり、即ち左の如し。

職業	人員	家産、磅	平均、磅
銀行家并に醸造家	二五〇	五九、一〇〇、〇〇〇
商業家	一八七	一五、一〇〇、〇〇〇
合計	四三七	七四、二〇〇、〇〇〇

第十三節 租 稅

一八八一年に於てグロート氏は一人に對する租稅額は左の如しとせり。

一人に付單位、片			一人に付單位、片		
直稅	間稅	合計	直稅	間稅	合計
合衆王國.....	八六	三九四	四八〇	葡 萄 牙.....	六〇
佛 蘭 西.....	一〇二	五三四	六三六	露 西 亞.....	三七
普 魯 西.....	七八	一三八	二一六	瑞 典.....	三〇
埃 地 利.....	九八	三二〇	四〇八	丁 抹.....	五八
匈 牙 利.....	一三〇	一四二	二七二	荷 蘭.....	二〇
伊 太 利.....	一五二	二八〇	四三二	白 耳 義.....	二〇
西 班 牙.....	一五二	二八〇	四三二	瑞 西.....	五五

第十四節 百一箇年間の物價標準

左の表中一八九五年の物價は其以前の物價と比較するが爲め假りに之を平準點となす。されば一八九五年に於ける一千磅は一八八〇年に於ける一千四百磅の物品を買ふとを得る譯なり。

十種物品の過去に於ける市價表

附 錄 租稅 百一箇年間の物價標準

	一八五〇年	一八六〇年	一八七〇年	一八八〇年	一八九〇年	一八〇〇年	一八一〇年	一八二〇年	一八三〇年	一八四〇年	一八五〇年	一八六〇年	一八七〇年	一八八〇年	一八九〇年	一八〇〇年	一八一〇年	一八二〇年	一八三〇年	一八四〇年	一八五〇年	一八六〇年	一八七〇年	一八八〇年	一八九〇年			
牛肉	一〇〇	一〇九	一二四	一二〇	一〇九	八六	九九	七三	九四	九七	七八																	
牛酪	一〇〇	一〇七	一三三	一〇七	一一〇	六九	八九	八〇	八三	八九	七〇																	
咖啡	一〇〇	一〇八	八九	六三	六〇	六六	八六	四一	一〇八	八二	八〇																	
銅	一〇〇	一二六	一四六	一六〇	二二五	一八四	二一六	一九〇	二五六	三〇九	二三三																	
鐵	一〇〇	一二〇	一二八	一一八	一五〇	一四四	三六三	二一七	三三六	二八〇	二六二																	
絹	一〇〇	一四〇	一五〇	二二六	三〇六	一五六	二一八	一一〇	一九二	三二四	一四八																	
砂糖	一〇〇	一二六	二〇八	二二〇	二四二	一九九	三四三	一六五	二五九	三〇四	三五七																	
獸脂	一〇〇	九〇	一一〇	一三七	一七六	一一七	一六四	一一〇	一七三	二〇二	一三九																	
材木	一〇〇	一一四	一二八	一六四	一五九	一五九	二六八	一〇三	一三八	四四一	一一八																	
小麥	一〇〇	一四〇	一八四	一九八	二三八	一七一	二八二	二七二	二九四	四六二	二二二																	
合計	一〇〇〇	一一八〇	一四〇〇	一五三三	一七六五	一三五二	二二八二	一三七二	一九三三	二五八〇	一七二七																	

二十種物品の總合市價表

年次	標準	年次	標準	年次	標準	年次	標準
一八九五年	二、〇〇〇	一八七〇年	三、二四八	一八四五年	三、二二八	一八二〇年	四、〇九六
自一八九〇年	二、二七五	自一八六五年	三、四四七	自一八四〇年	三、六〇三	自一八一五年	四、四〇〇
至一八八五年	二、四三二	至一八六〇年	三、五二五	至一八三五年	四、一五〇	至一八一九年	四、二一〇
一八九〇年	二、三五六	一八六〇年	三、五三二	一八三五年	三、三三二	一八一〇年	五、〇五〇
自一八八五年	二、三五六	自一八六〇年	三、五三二	自一八三五年	三、三三二	自一八一〇年	五、〇五〇
至一八八〇年	二、二七二	至一八五五年	三、五五八	至一八三〇年	三、三二〇	至一八〇五年	五、二一〇
一八八〇年	二、二八二	一八五五年	三、七八〇	一八三〇年	三、二六〇	一八〇五年	四、七〇七
自一八七五年	二、九六〇	自一八五〇年	三、〇六〇	自一八二五年	三、六〇八	自一八〇〇年	四、九三二
至一八七〇年	三、一〇二	至一八四五年	三、二一八	至一八二〇年	四、〇〇〇	至一七九四年	四、二一〇
一八七五年	三、一〇二	一八五〇年	二、七三七	一八二五年	四、〇〇〇	一八〇〇年	五、六九五
自一八七〇年	三、三二〇	自一八四五年	三、二一八	自一八二〇年	三、七二八	自一七九四年	四、二一〇
至一八六五年	三、三二〇	至一八四〇年	三、二一八	至一八一五年	三、七二八		

サワルミツクの物價表 (四十五種物品)

穀物	一、〇〇〇	一一九二	一四六三	一八五二	一八三三	一六四八	一八三九	一八三九	二、〇五六
自一八七〇年	三、三二〇	自一八六五年	三、二一八	自一八六〇年	三、二一八	自一八五五年	三、二一八	自一八五〇年	三、二一八
至一八七四年	三、三二〇	至一八六四年	三、二一八	至一八五九年	三、二一八	至一八五四年	三、二一八	至一八四九年	三、二一八

附 録 百一箇年間の物價標準

肉類	一、〇〇〇	一、〇六六	一、二二八	一、二八二	一、二四一	一、〇三三	一、〇二六	一、〇〇〇	一、一五四
砂糖	一、〇〇〇	一、一三三	一、二二六	一、六二三	一、六二三	一、四〇三	一、九六八	二、〇四八	二、四三六
鑛物	一、〇〇〇	一、二八〇	一、二七七	一、六二三	一、五二六	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五六三	二、〇六五
織物	一、〇〇〇	一、二七五	一、三六五	一、九二三	二、二五〇	一、五三八	一、五七六	一、八〇八	二、〇二〇
雜類	一、〇〇〇	一、〇三〇	一、二四六	一、五三八	一、五八四	一、四四六	一、四三〇	一、四一五	一、六三〇
示標數	一、〇〇〇	一、二一八	一、二七四	一、六二三	一、五九七	一、四三六	一、五〇〇	一、五〇〇	一、七九〇

右織物の中には製造したる貨物を包含せず、唯粗製織系を含むのみなり。

第十五節 一八五〇年以來金の産出額

價格、單位一千磅

金の噸數

年次	合衆國	濠洲	露西亞	其他諸國	合計	金の噸數
一八五一年	一、一六〇〇	一、四〇〇	三、六〇〇	二、二〇〇	一、八八〇〇	一三四
一八五二年	一、二七〇〇	一、二二〇〇	三、六〇〇	二、二〇〇	三、〇七〇〇	二二〇
一八五三年	一、三七〇〇	一、三〇〇〇	三、四〇〇	二、二〇〇	三、二三〇〇	二三一
一八五四年	一、二七〇〇	九六〇〇	三、四〇〇	二、二〇〇	二、七九〇〇	一九九

一八五五年	一、一六〇〇	二、二〇〇〇	三、五〇〇	二、二〇〇	二、九三〇〇	二〇九
一八五六年	一、一六〇〇	一、三二〇〇	三、五〇〇	二、三〇〇	三、〇六〇〇	二一九
一八五七年	一、一五〇〇	一、一六〇〇	三、九〇〇	二、三〇〇	二、九三〇〇	二〇九
一八五八年	一、〇六〇〇	一、二二〇〇	三、九〇〇	二、三〇〇	二、八九〇〇	二〇六
一八五九年	一、〇五〇〇	一、二二〇〇	三、六〇〇	二、三〇〇	二、八六〇〇	二〇四
一八六〇年	九八〇〇	一、一、二〇〇	三、六〇〇	二、三〇〇	二、六九〇〇	一九二
一八六一年	九〇〇〇	一、一、〇〇〇	三、五〇〇	二、四〇〇	二、五九〇〇	一八五
一八六二年	八二〇〇	一、一、三〇〇	三、五〇〇	二、四〇〇	二、五四〇〇	一八一
一八六三年	八四〇〇	一、一、四〇〇	三、三〇〇	二、四〇〇	二、五五〇〇	一八二
一八六四年	九七〇〇	一、〇、〇〇〇	三、四〇〇	二、四〇〇	二、五五〇〇	一八二
一八六五年	一、二二〇〇	一、〇、三〇〇	三、四〇〇	二、四〇〇	二、七三〇〇	一九五
一八六六年	一、二二〇〇	一、〇、四〇〇	四、一〇〇	二、三〇〇	二、八〇〇〇	二〇〇
一八六七年	一、〇九〇〇	九九〇〇	四、一〇〇	二、三〇〇	二、七二〇〇	一九四
一八六八年	一、〇、〇〇〇	一、〇、四〇〇	四、二〇〇	二、三〇〇	二、七〇〇〇	一九三

附錄 一八五〇年以來金の産出額

一八六九年	一〇、四〇〇	九七〇〇	四、三〇〇	二、三〇〇	二、六七〇〇	一九一
一八七〇年	一〇、四〇〇	八五〇〇	四、三〇〇	二、三〇〇	二、五五〇〇	一八二
一八七一年	九、七〇〇	九、九〇〇	四、四〇〇	二、五〇〇	二、六五〇〇	一八九
一八七二年	八、二〇〇	九、〇〇〇	四、七〇〇	二、六〇〇	二、四五〇〇	一七五
一八七三年	八、二〇〇	八、四〇〇	四、八〇〇	二、七〇〇	二、四一〇〇	一七二
一八七四年	七、七〇〇	七、二〇〇	四、八〇〇	二、八〇〇	二、二五〇〇	一六一
一八七五年	七、七〇〇	六、九〇〇	四、八〇〇	三、〇〇〇	二、二四〇〇	一六〇
一八七六年	八、四〇〇	六、九〇〇	四、七〇〇	三、二〇〇	二、三二〇〇	一六六
一八七七年	九、九〇〇	六、三〇〇	五、七〇〇	三、二〇〇	二、五、一〇〇	一七九
一八七八年	一〇、七〇〇	六、一〇〇	五、九〇〇	三、三〇〇	二、六、〇〇〇	一八六
一八七九年	八、二〇〇	六、一〇〇	五、九〇〇	三、二〇〇	二、三、四〇〇	一六七
一八八〇年	七、六〇〇	六、三〇〇	五、七〇〇	三、三〇〇	二、二、九〇〇	一六三
一八八一年	七、三〇〇	六、四〇〇	四、七〇〇	四、〇〇〇	二、二、四〇〇	一六〇
一八八二年	六、九〇〇	六、二〇〇	四、六〇〇	三、八〇〇	二、一、五〇〇	一五四

一八八三年	六、三〇〇	五、六〇〇	四、六〇〇	四、三〇〇	二、〇、八〇〇	一四九
一八八四年	六、五〇〇	六、〇〇〇	四、六〇〇	四、七〇〇	二、一、八〇〇	一五六
一八八五年	六、七〇〇	五、八〇〇	四、二〇〇	五、一〇〇	二、一、八〇〇	一五六
一八八六年	七、四〇〇	五、六〇〇	四、二〇〇	五、二〇〇	二、二、四〇〇	一六〇
一八八七年	七、〇〇〇	五、八〇〇	四、二〇〇	五、一〇〇	二、二、一〇〇	一五八
一八八八年	七、〇〇〇	六、〇〇〇	四、五〇〇	五、五〇〇	二、三、〇〇〇	一六四
一八八九年	六、九〇〇	七、〇〇〇	四、九〇〇	五、八〇〇	二、四、六〇〇	一七六
一八九〇年	六、九〇〇	六、四〇〇	四、七〇〇	六、八〇〇	二、四、八〇〇	一七七
一八九一年	六、六〇〇	六、六〇〇	四、七〇〇	七、五〇〇	二、五、四〇〇	一八一
一八九二年	六、四〇〇	七、二〇〇	四、八〇〇	九、二〇〇	二、七、六〇〇	一九七
一八九三年	七、一〇〇	七、五〇〇	四、八〇〇	一、一、九〇〇	三、一、三〇〇	二二三
一八九四年	八、二〇〇	八、七〇〇	五、七〇〇	一、五、一〇〇	三、七、七〇〇	二七〇
四十四年間	三九、九三〇〇	三七、五三〇〇	一九〇、七〇〇	一七〇、〇〇〇	二、一、三五三〇〇	八、一〇七

第十六節 一八五〇年以來銀の産出額

附 録 一八五〇年以來銀の産出額

年次	噸數					價格、單位磅
	墨西哥	南亞米利加	合衆國	其他諸國	合計	
自一八五一年至一八五五年	二二三〇	一〇九〇	四〇	九七〇	四四三〇	四〇、三〇〇、〇〇〇
自一八五〇年至一八六〇年	二二四〇	九五〇	三〇	一三〇〇	四、五二〇	四一、一〇〇、〇〇〇
自一八六〇年至一八六五年	二二六〇	九五〇	八七〇	一三三〇	五、五一〇	五〇、一〇〇、〇〇〇
自一八六五年至一八七〇年	二六〇〇	一、一五〇	一、五一〇	一、四四〇	六、七〇〇	六〇、三〇〇、〇〇〇
自一八七〇年至一八七五年	三、〇一〇	一、八七〇	二、八二〇	二、一五〇	九、八五〇	八六、九〇〇、〇〇〇
自一八七五年至一八八〇年	三、二八〇	一、七五〇	四、九〇〇	二、三二〇	一二、二五〇	九五、八〇〇、〇〇〇
自一八八〇年至一八八五年	三、七六〇	一、八二〇	五、六九〇	二、七七〇	一四、〇四〇	一〇六、三〇〇、〇〇〇
自一八八五年至一八九〇年	四、七三〇	二、一〇〇	七、六四〇	三、一八〇	一七、六五〇	一二七、〇〇〇、〇〇〇
自一八九〇年至一八九四年	五、五二〇	一、七二〇	六、七九〇	四、四九〇	一八、五二〇	一〇三、二〇〇、〇〇〇
四十四年間	二九、八三〇	一三、四〇〇	三〇、二九〇	一九、九五〇	九三、四七〇	七〇一、〇〇〇、〇〇〇

前表に記載したる銀の價格は各時代に於ける倫動市場の相場に基するものにして、一八九〇年まではソートピア氏の調査に據り、其後は濠洲并に合衆國造幣局

の報告書に準據したるものなり。現時金の産出額は毎年二百八十噸即ち其價格三千九百萬磅に達し、過去に於ける最多額を起ゆると四十九噸なり。南阿弗利加に於けるランドの新金坑は一八八八年に至り著名のものとなり、爾來三千三百萬磅の産出ありて現時毎年の産額八百萬磅に達せり。過去四十四年間に於ける貴金屬の産出額左の如し。

年次	金、單位百萬磅				平均噸數
	合衆國	濠洲	露西亞	其他諸國	
自一八五一年至一八六〇年	一一六三	一〇八五	三六〇	二二五	二〇、二三
自一八六〇年至一八七〇年	九九五	一〇二九	三八一	二三五	一八、八五
自一八七〇年至一八八〇年	八六三	七三一	五一四	二九八	一七、一八
自一八八〇年至一八九〇年	六八九	六〇八	四五二	五〇三	一六、一〇
自一八九〇年至一八九四年	二八三	三〇〇	二〇二	四三九	八、七一
四十四年間	三九九三	三七五三	一九〇七	一七〇〇	八、一〇七

銀、單位百萬磅

年次	合衆國	西班牙領 亞米利加	其他諸國	合計	噸數
自一八五〇年	〇・六	六〇・二	二〇・六	八二・四	八九五〇
自一八六〇年	二・四	六三・六	二五・四	一〇四・四	一二二一〇
自一八七〇年	六四・三	八一・九	三六・五	一八二・七	二二二一〇〇
自一八八〇年	九三・九	八七・五	四一・九	二二三・三	三一六九〇
自一八九〇年	三三〇	四〇四	二四八	一〇三三	一八五二〇
自一八九一年	三三〇	四〇四	二四八	一〇三三	一八五二〇
自一八九四年	三三〇	四〇四	二四八	一〇三三	一八五二〇
四十四年間	二二八二	三三三六	一四九二	七〇一〇	九三、四七〇

銀の市價并に金との比較價格左の如し。

年次	片一オンスに付 單位	金一オンスに對 するオンス單位	片一オンスに付 單位	金一オンスに對 するオンス單位
自一八四〇年	六〇・五	一五五	一八九〇年	四七・七
自一八五〇年	六〇・五	一五五	自一八九一年	四五・〇
自一八六〇年	六一・五	一五二	自一八九二年	三九・八
自一八七〇年	六〇・八	一五四	自一八九三年	三五・六
自一八七五年	五九・二	一五八		

第十七節 金銀輸出入額

自一八七六年	五二五	一七八	一八九四年	二九〇	三三三
自一八八〇年	四七六	一九六	自一八九五年	二九九	三三三

三十四年間金銀輸出入額は左の如し。
金の輸入額、單位百萬磅

年次	大不列顛	佛蘭西	合衆國	其他諸國	合計
自一八六一年	一七一	一八九	三一	一一一	五二二
自一八七〇年	一八〇	一五一	四二	一三一	五〇四
自一八八〇年	二四一	一五三	九九	二四五	七三八
自一八九一年	五九二	四九三	一七二	四九七	一七五四
三十四年間	五九二	四九三	一七二	四九七	一七五四

年次	輸出額	合計
自一八六一年	一一二	一六八
自一八七〇年	一七二	一六八
自一八八〇年	二〇〇	一六八
自一八九四年	二〇〇	一六八
附錄 金銀輸出入額	二〇〇	一六八
合計	八六九	七三八

三十四年間……………四八四

三三四

三〇三

六四三

一七五四

八七〇

銀の輸入額、單位百萬磅

自一八六一年……………九三

九二

一一

二七七

四七四

自一八七〇年……………一三二

一一

一八

一六六

四二七

自一八八〇年……………一二九

一〇一

四三

一六三

四三六

自一八八一年……………一二九

一〇一

四三

一六三

四三六

自一八八四年……………一二九

一〇一

四三

一六三

四三六

三十四年間……………三五四

三〇四

七三

六〇六

一三三七

自一八六一年……………九一

七八

二二

二八三

四七四

自一八七〇年……………一一九

四八

七三

一八七

四二七

自一八八〇年……………一四二

八四

八四

一二六

四三六

自一八八一年……………一四二

八四

八四

一二六

四三六

三十四年間……………三五四

二一〇

一七九

五九六

一三三七

自一八六一年……………二六四

二八一

四三

三九八

九八六

年次 大不列顛

佛蘭西

合衆國

其他諸國

合計

輸入地金銀總額

輸出額

自一八七一年……………三二二

二六二

六〇

二九七

九三一

自一八八〇年……………三七〇

二五四

一四二

四〇八

一、二七四

自一八八一年……………三三〇

二五四

一四二

四〇八

一、二七四

自一八八四年……………九四六

七九七

二四五

一、一〇三

三、〇九一

三十四年間……………八三六

五三四

四八二

一、二三九

三、〇九一

輸出地金銀總額

第十八節 合衆王國

第一款 人口

合衆王國に於ける十大市府の總計人口は一八二一年より一八九四年に至る間に百分の二百七十の増加を爲せり。然るに其他は僅に百分の六十二の増加ありたるのみ。十市府の人口左の如し。

自一八六一年……………二〇三	一九七	一三五	四五二	九八六
自一八七〇年……………二九一	一三八	一四七	三五五	九三一
自一八八〇年……………三二二	一九九	二〇〇	四三三	一、二七四
自一八八一年……………三二二	一九九	二〇〇	四三三	一、二七四
自一八八四年……………三二二	一九九	二〇〇	四三三	一、二七四
三十四年間……………八三六	五三四	四八二	一、二三九	三、〇九一
倫敦……………一、二七五、〇〇〇	二八〇、四〇〇	四三五、〇〇〇	八七一	
附錄 合衆王國 人口				

マンチエスタ	一三四,〇〇〇	四四一,〇〇〇	七二六,〇〇〇
グラスゴ	一四七,〇〇〇	三九五,〇〇〇	六八七,〇〇〇
リバープール	一一九,〇〇〇	四四四,〇〇〇	六二三,〇〇〇
バトミンガム	一〇七,〇〇〇	二九六,〇〇〇	四九二,〇〇〇
リトゾ	八四,〇〇〇	二〇七,〇〇〇	三八九,〇〇〇
シエフイールド	四二,〇〇〇	一八五,〇〇〇	三三八,〇〇〇
ダブリン	二三七,〇〇〇	三〇五,〇〇〇	三六二,〇〇〇
ベルファスト	三七,〇〇〇	一一一,〇〇〇	二七四,〇〇〇
エディンボロ	一三八,〇〇〇	二二二,〇〇〇	二七二,〇〇〇
十市府	二,三二〇,〇〇〇	五,四〇〇,〇〇〇	八,五〇二,〇〇〇

第二款 職業 一八九一年に於ける人民の職業別左の如し。

農業	一,三三七,〇〇〇人	蘇格蘭	九四一,〇〇〇人	愛蘭	二五二七,〇〇〇人
製造業	七,三三六,〇〇〇		一,〇三三,〇〇〇		九,〇二六,〇〇〇

英 蘭

蘇格蘭

愛 蘭

合衆王國

貿易商	一,四〇〇,〇〇〇	一八二,〇〇〇	九五,〇〇〇	一,六七六,〇〇〇
諸職業	九二六,〇〇〇	一一一,〇〇〇	二〇八,〇〇〇	一,二四五,〇〇〇
家内業	一九〇一,〇〇〇	二〇三,〇〇〇	二三八,〇〇〇	二,三四二,〇〇〇
合計	二,九〇〇,〇〇〇	一,七七七,〇〇〇	二,一三九,〇〇〇	一,六八一六,〇〇〇

(製造業の中には鑛業をも含有す)

第三款 蒸氣力 一八六〇年以來蒸氣力は六倍の増加あり。其馬力大概

左の如し

年次	据付機關	鐵道機關	蒸氣船	合計
一八六〇年	七〇〇,〇〇〇	一一〇〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	二,一五〇,〇〇〇
一八八〇年	二,〇〇〇,〇〇〇	三三〇〇,〇〇〇	二五一〇,〇〇〇	七,八一〇,〇〇〇
一八九五年	二,二〇〇,〇〇〇	四,八〇〇,〇〇〇	五,七四〇,〇〇〇	一二,七四〇,〇〇〇

第三章に掲載したる英、蘇、愛の三國に於ける蒸氣力の分類は、据付機關に就ては各製造所の職工の割合に據り、鐵道機關に就ては鐵道の總所得額に蒸氣船に就ては右三國に於ける登録噸數に各準據したり

第四款 農業 一八九五年に於ける農産地の統計は左の如し。

	英 蘭	蘇格蘭	愛 蘭	合衆王國
小 麥	一、三八五、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	一、四五五、〇〇〇
大 麥	一、九六〇、〇〇〇	二二五、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	二、三四五、〇〇〇
オ ー ト 麥	二、三〇五、〇〇〇	一〇、一〇〇、〇〇〇	一二、二五〇、〇〇〇	四、五三〇、〇〇〇
ライ 麥 其 他	四九五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五三五、〇〇〇
穀類總計	六、一四五、〇〇〇	一、二八〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	八、八六五、〇〇〇
馬 鈴 薯	四一五、〇〇〇	一三五、〇〇〇	七一〇、〇〇〇	一、六六〇、〇〇〇
燕 麥	一、四四五、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	三二五、〇〇〇	二、二四〇、〇〇〇
大 巢 菜 其 他	七五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
青物總計	二、六一〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇	四、四〇〇、〇〇〇
牧 草	三、二〇〇、〇〇〇	一、五七五、〇〇〇	一、三八五、〇〇〇	六、〇六〇、〇〇〇
亞 麻	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
果物其他	五九五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	六二五、〇〇〇

劣等穀物總計 一二五五、〇〇〇 三、五一〇、〇〇〇 三、九九〇、〇〇〇 二〇、〇五〇、〇〇〇
 收 場 一五、二五五、〇〇〇 一、三八五、〇〇〇 一、二一九、〇〇〇 二七、八三〇、〇〇〇
 農業地合計 二七、八〇五、〇〇〇 四、八九五、〇〇〇 一五、一八〇、〇〇〇 四七、八八〇、〇〇〇

一八九六年の統計報告には穀類の耕地二十三萬五千エーカーとありて、前表一八九五年の報告より少なし。又農産地は現今三百萬エーカーありて、マツクロック氏の時代(一八四六年)よりは多し即ち左の如し。

	一八四六年	一八九五年
英 蘭	二五、二七〇、〇〇〇	二七、八〇五、〇〇〇
蘇格蘭	四四〇、〇〇〇	四、八九五、〇〇〇
愛 蘭	一五、二〇〇、〇〇〇	一五、一八〇、〇〇〇
合 計	四四、八七〇、〇〇〇	四七、八八〇、〇〇〇

一八四六年に於けるマツクロック氏の田圃生産物の總計左の如し。

穀 類	英 蘭	蘇格蘭	愛 蘭	合衆王國
附 録 合衆王國 農業	五、一八〇	九、七〇〇	一、五五〇	七、七〇〇
				八七五

青物類	五三〇〇	七六〇〇	四一六〇〇
乾草及ひ葉	二四〇〇	三六〇〇	一九〇〇〇
肉類	六三〇〇	一四、二〇〇	四六五〇〇
牛乳類	二四〇〇	三六〇〇	一九四〇〇
雜類	一九〇〇	三五〇〇	一四、五〇〇
合計	二八、〇〇〇	四八、〇〇〇	二二八、〇〇〇

カード氏の計算に據れば、一八七八年に於ける右田圃に就き合衆王國の總額は二億六千一百万磅に上り、即ち其内譯は穀類八千七百万磅、雜類に於て三千九百万磅、牧畜に於て一億三千五百万磅なり。

ハルリス氏は一八九四年に於ける田圃の收穫并に畜類の價格を左の如く計算せり。

小麥	八、五一〇、〇〇〇	馬	二、〇六〇、〇〇〇	價格、磅	三九二、〇〇〇
オート麥	一、五八〇、〇〇〇	牛	一、二二〇、〇〇〇	頭數	一〇八、五〇〇、〇〇〇

大麥其他	一、三八四、〇〇〇	羊	三、一七七、〇〇〇	四〇、六〇〇、〇〇〇
葉	一、二二三、〇〇〇	豚	三、二八〇、〇〇〇	四、九〇〇、〇〇〇
青物類	四、四八〇、〇〇〇	驢馬	一、〇〇〇、〇〇〇
乾草	三、三五二、〇〇〇	家禽	三、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、二八七、〇〇〇	合計	一九七、二〇〇、〇〇〇

右生産物の價格に對する人力の數を擧ぐれば一八四六年並に一八九四年に於ける比較數左の如し。

人力	一八四六年	一八九四年	生産物、百萬磅	一八四六年	一八九四年	一人力に付磅數	一八四六年	一八九四年
	英 蘭	一、七六〇、〇〇〇		一、三三七、〇〇〇	一四二		一四七	八一
	蘇格蘭	二、九九〇、〇〇〇	二、四九〇、〇〇〇	二八	二八	九三	一一二	
	愛 蘭	一、四六〇、〇〇〇	九四一、〇〇〇	四八	五五	三三	五八	
	合衆王國	三、五一九〇、〇〇〇	二、五二七、〇〇〇	二二八	二三〇	六二	九一	

第五款 所有地并に農業地

合衆王國に於ける總所有地は一萬九千八百七十七

附 錄 合衆王國 所有地并に農業地

にして農業地は一百萬を越ゆ即ち左の如し。

所有地數	エーケル	農業地數	エーケル	農地に對する エーケルの割合
英 蘭	一〇、〇七〇	二二、〇一〇、〇〇〇	四五三、〇〇〇	二七、八八〇、〇〇〇
蘇 格蘭	二、七二〇	一八、一六〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	四、八九〇、〇〇〇
愛 蘭	六、四九五	一七、七二〇、〇〇〇	五二五、〇〇〇	一五、二一〇、〇〇〇
合衆王國	一九、二七五	五七、八九〇、〇〇〇	一〇、四八〇、〇〇〇	四七、八八〇、〇〇〇
五十年前の評定地代を比較すれば左の如し。				
一八四六年、磅				
英 蘭	四〇、二〇〇、〇〇〇			一八九四年、磅
蘇 格蘭	五、六〇〇、〇〇〇			四〇、〇六〇、〇〇〇
愛 蘭	八、六三〇、〇〇〇			六、二五〇、〇〇〇
合衆王國	五四、四三〇、〇〇〇			九、八九〇、〇〇〇
一八四六年、磅				
英 蘭	四〇、二〇〇、〇〇〇			四〇、〇六〇、〇〇〇
蘇 格蘭	五、六〇〇、〇〇〇			六、二五〇、〇〇〇
愛 蘭	八、六三〇、〇〇〇			九、八九〇、〇〇〇
合衆王國	五四、四三〇、〇〇〇			五六、二〇〇、〇〇〇

愛蘭に於ける土地調査委員は過去十五年間に於ける其國の地代の一半に對し二割の低減を加へ、殘部の一半は修正を加へざりき、左の表は一八九五年各州に於け

る修正并に未修正の地代とす。

舊地代	修正地代、磅		合計、磅
	法定地代	未修正地代、磅	
アルスター	一九一〇、〇〇〇	一、五四〇、〇〇〇	二、八一〇、〇〇〇
レインセター	一、六二〇、〇〇〇	一、二九〇、〇〇〇	三、二二〇、〇〇〇
コンノート	七六〇、〇〇〇	六八〇、〇〇〇	一、二八〇、〇〇〇
マンスター	一、六九〇、〇〇〇	一、三一〇、〇〇〇	二、九二〇、〇〇〇
合 計	五、九八〇、〇〇〇	四、七四〇、〇〇〇	一〇、二三〇、〇〇〇

未修正の地代は以上法定スケグリのフイ價格を越ゆると少くも一割に上れるとを知るべし。故に愛蘭に於ける實際の地代は一千八十萬磅なりとす。

第六款 地租 一八四六年以來農民の負擔する地租は凡そ七割を増加したり。即ち左の如し。

十分一税	一八四六年		
	英 蘭	蘇 格蘭	愛 蘭
十分一税	三〇、一〇〇、〇〇〇 磅	三〇、一〇〇、〇〇〇 磅	三〇、一〇〇、〇〇〇 磅
附 録	合衆王國	所有地并に農業地	八七九